ル者又ハ許可ヲ得タル期日ニ違ヒテ火入ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス第四十六條ニ違反シタル者亦同シ

第四十九條　第四條、第十條、第二十三條第一項、第二十六條、第二十九條、第四十七條及第五十條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ怠リタル者又ハ第四十四條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第五十條　本則施行ノ際現ニ森林法第二條ノ規定ニ依リ保安林所有者タル者ハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ土地ニ關スル權利ヲ證スル書類ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十一條　地方長官前條ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ保安林カ舊森林法ノ規定ニ基キ土地所有者ニ對シ施業法要領ヲ通達シタルモノナルトキハ遲滯ナク更ニ森林所有者ニ對シ之ヲ通達スヘシ其ノ届出前條ノ保安林所有者アルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第五十二條　公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ本則施行ノ際現ニ存在スル公有林又ハ社寺有林ニ付第十號樣式ニ準シテ届出ヲ作リ本則施行後遲滯ナク之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第五十三條　本則施行前第三條若ハ前條ノ届出ニ相當スル届出ヲ爲シ又ハ第二條ノ認可ニ相當スル認可ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ届出又ハ認可ハ本則ニ依リタルモノト看做ス

第五十四條　本則ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（樣式ハ之ヲ略ス）

○水利組合法（明治四十一年四月十一日法律第五十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル水利組合法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水利組合法

第一章　總則

第一條　水利土功ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ府縣其ノ他ノ地方公共團體ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條　水利組合ハ法人トス

第三條　水利組合ハ組合規約ヲ設ケ組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

組合規約ハ之ヲ告示スヘシ其ノ改正アリタルトキ亦同シ

第四條　水利組合ハ分チテ左ノ二種トス

一　普通水利組合

二　水害豫防組合

第五條　普通水利組合ハ灌漑排水ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第六條　普通水利組合事業ノ爲利益ヲ受クタル土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣ニ依リ

區域ヲ畫スルコトヲ得

第七條　水害豫防組合ハ水害防禦ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第八條　水害豫防組合ハ水害ヲ受クヘキ土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地、家屋及組合規約ニ指定スル工作物ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第九條　水害豫防組合ニ於テ其區域全部ニ涉リ灌漑排水ニ關スル事業ノ必要アルトキハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ灌漑排水ノ事業ニ關スル部分ニ付テハ普通水利組合ノ規定ヲ準用ス

第二章　組合ノ設置及廢止

第十條　水利組合ヲ設置セムトスルトキハ府縣知事ニ於テ組合區域ヲ指定シ關係地ノ郡長市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ但シ普通水利組合ノ設置ニ付テハ組合員タルヘキ者五人以上ノ申請又ハ組合事業ニ關係アル郡長又ハ市町村長ノ具申アル場合ニ限ル

第三十三條第三項ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

第十一條　創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上アルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ便宜總代人ヲ選ハシメ其ノ集會ヲ以テ總會議ニ充ツルコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議長ハ創立委員ヲ以テ之ニ充ツ創立委員數人アルトキハ府縣知事其ノ中一人ヲ指定ス

總會議又ハ總代人會ハ關係者又ハ總代人ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ創立委員ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ關係者又ハ總代人ノ代人ヲ許スコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

總會議費又ハ總代人會費其ノ他創立ニ關スル費用ハ組合設置ノ後組合費ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第十二條　創立委員ハ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ニ其ノ許可ヲ請フヘシ

第十三條　普通水利組合關係者ノ總會議又ハ總代人會ニ於テ議決シタル組合規約又ハ其ノ議決ノ方法法令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

水害豫防組合關係者ノ總會議若ハ總代人會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ議決スルモ其ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第十四條　水利組合ハ組合規約ノ許可又ハ前條第二項ニ依ル組合規約ノ設定ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ組合設置ノ旨ヲ告示

スヘシ

第十五條　水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ハ普通水利組合ニ在リテハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ行ヒ水害豫防組合ニ在リテハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ組合規約ノ設定若ハ改正又ハ財產處分ヲ要スルトキハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ水害豫防組合ニ於テ協議調ハサルトキハ府縣知事之ヲ定ム

水利組合ハ民法上ノ義務ヲ完了スルニ非サレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

普通水利組合ノ區域ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合區域ニ編入セラルル土地アルトキハ管理者ハ其ノ土地ノ關係者ノ同意又ハ關係者ノ總會議若ハ總代人會ノ同意ヲ得ルヲ要ス

前項總會議又ハ總代人會ニ關シテハ第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ創立委員ノ職務ハ管理者之ヲ行フ

第十六條　水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三章　組合ノ會議

第十七條　水利組合ニ組合會ヲ置ク

第十八條　組合會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

組合會議員選舉人被選舉人ノ資格議員ノ定數任期及選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

組合會議員ノ選舉ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

當選者定リタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

組合會議員ノ選舉付テハ衆議院議員選舉ニ關スル訂則ヲ準用ス

第十九條　選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其當選ヲ無效トス

第二十條　選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ告示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ管理者ハ十四日以內ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願スルコトヲ得

第一次監督官廳ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉又ハ當選ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及組合會ノ決定ハ無效トス

本條第一次監督官廳ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ

府縣知事ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十一條　組合會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ組合會之ヲ決定ス

管理者ニ於テ組合會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ

本條組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十二條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ代理者議長ノ職務ヲ代理ス管理者及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第二十三條　組合會ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス

一　組合規約ヲ設定改正スル事

二　組合費ヲ以テ支辨スヘキ事業

三　歲入出豫算ヲ定ムル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除ク外使用手數料加入金組合費及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六　不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事

七　積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　組合吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一　組合ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第二十四條　組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ管理者又ハ其ノ指定シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項組合會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十五條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ代理者議長ノ職務ヲ代理ス管理者及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

組合會ハ組合ノ區域數市町村ニ涉ルモノニ在リテハ組合規約ヲ以テ議員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ前項ノ

例ニ依ル前項選擧ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

議員中ヨリ議長ヲ選擧スル組合ニ在リテハ議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ管理者ニ報告スヘシ

第二十六條　管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ於テ議事ニ付辯明ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　組合會ハ每年一回通常會ヲ開キ其ノ他臨時ノ必要アル每ニ臨時會ヲ開ク

臨時會ニ付スヘキ事件ハ招集ノ告知ト共ニ之ヲ告知スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ管理者之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ管理者ハ之ヲ招集スヘシ

管理者ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ組合會ヲ招集スルコトヲ得

組合會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　管理者ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長ニ於テ傍聽禁止ノ必要アリト認メタルトキ

三　議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項第三號ニ依ル發議ハ討論ヲ用ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

組合會ハ管理者之ヲ開閉ス

第二十八條　組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　組合會ト議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十條　組合規約ノ設定改正及普通水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十一條　組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本章中規定スルモノノ外市制町村制ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　特別ノ事情アル組合ニ於テハ府縣知事ハ組合會ヲ設ケス組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ總會ニ出席スヘキ組合員ニ關シテハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル組合總會ニ關シテハ組合會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　組合ノ管理

第三十三條　府縣知事ハ水利組合關係地ノ郡長又ハ市町村長ノ內一人ヲ指定シ其ノ組合ノ事務ヲ管理セシムヘシ

府縣知事ニ於テ管理者ヲ指定シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

管理者タル郡長又ハ市町村長故障アルトキハ其ノ代理者之ヲ代理ス

組合ノ區域數市町村ニ渉ル場合ニ於テ選擧區又ハ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各市町村長又ハ其ノ代理者ハ管理者ノモトメニ依リ議員選擧ニ關スル事務ヲ管理スヘシ組合員及ヒ組合費賦課物件ノ異動ニ關スル事務ニ付テモ亦同シ

第三十四條　組合ノ出納其ノ他會計事務ハ郡長管理者タル場合ハ郡長ノ指定シタル郡書記ヲシテ之ヲ掌ラシメ市町村長管理者タル場合ハ其ノ市町村收入役ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ管理者ニ於テ第三十六條ノ吏員中ニ就キ會計事務ヲ掌ル者ヲ定ムルコトヲ得

前項會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條　組合ハ組合規約ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十六條　組合ハ書記技術員其ノ他ノ吏員ヲ置クコトヲ得吏員ハ管理者之ヲ任免ス

第三十七條　管理者ハ組合ヲ代表ス組合一切ノ事務ヲ擔任ス

管理者ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　組合會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二　財產及營造物ヲ管理スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　法令又ハ組合會ノ議決ニ依リ使用料手數料加入金組合費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

第三十八條　管理者ハ組合吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係ル組合吏員ニ對シテハ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第三十九條　組合會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ組合規約ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選擧ヲ取消スコトヲ得但シ指揮ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項郡長ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ前二項府縣知事ノ處分ニ不服アル組合會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會ノ議決公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スル

モノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付シテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

前項第一次監督官廳ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事ハ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十條　組合會成立セス又ハ第二十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ管理者ハ第一次監督官廳ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

組合會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

組合會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十一條　組合會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セス又ハ管理者ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ管理者ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

前項管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十二條　委員ハ管理者ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他組合事務ノ一部ヲ調查シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第四十三條　吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條　組合會議員及委員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得郡長又ハ市町村長ニ於テ管理者タル職務ヲ行フ爲要スル費用ハ第三十三條第四項ノ事務ヲ行フ爲要スル費用及郡書記又ハ市町村收入役ニ於テ組合ノ會計事務ヲ行フ爲要スル費用ニ付亦同シ

吏員ニハ退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條　費用辨償額給料額旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第四十六條　費用辨償給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ハ組合ノ負擔トス

第五章　組合ノ財務

第四十七條　組合ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第四十八條　普通水利組合費ハ土地及家屋其ノ他第八條ニ依ル工作物ニ對シテ之ヲ賦課スルモノトス但シ特別ノ事情アルモノハ土地ニ對シテノミ之ヲ賦課スルコトヲ得

普通水利組合ニ於テハ新ニ區域內ニ編入スル土地ニ付組合費ノ外一時ノ加入金ヲ徵收スルコトヲ得

第四十九條　組合ハ其ノ事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得

水害豫防組合ニ在リテハ夫役ニ限リ其ノ區域內ノ總居住者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

夫役現品及其代納ニ關スル規定ハ組合規約ヲ以テ定ムヘシ

第五十條　非常災害ノ爲必要アルトキハ組合ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スルコトヲ要ス

水害豫防組合ニ於テハ前項ノ外出水ノ爲危險アル時ニ限リ管理者警察官又ハ監督官廳ニ於テ組合區域內ノ總居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一項土地ノ一時使用ニ關スル組合ノ處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十一條　組合內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合內ノ一部ニ對シ特ニ賦課スルコトヲ得

舊慣アルモノハ組合規約ヲ以テ特別ノ賦課方法ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條　組合費ノ賦課ヲ免除スヘキモノニ關シテハ市町村稅ノ例ニ依ル

第五十三條　組合ハ其ノ營造物ヲ事業ノ妨害ト爲ラサル範圍內ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

前項ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十四條　組合ノ區域數市町村ニ渉ルトキハ各市町村ハ管理者ノ求ニ依リ其ノ市町村內ニ於ケル組合費其ノ他組合ノ收入ノ賦課徵收ヲ爲スヘシ

前項組合費其ノ他組合ノ收入ノ徵收ニ關シテハ組合規約ノ規定ニ依リ徵收金百分ノ四以內ヲ其ノ市町村ニ交付スルコトヲ得

第五十五條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ組合費其ノ他組合ノ收入ヲ失ヒタルトキハ其ノ納入義務ノ免除ヲ組合ニ請求スルコトヲ得

組合ニ於テ前項ノ請求ニ應セサルトキハ市町村ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ組合ノ第一次

監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ對シテハ組合ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ裁決書ハ之ヲ市町村及組合ニ交付スヘシ

第五十六條　組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促ニ付テハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ督促手數料ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

組合ノ徵收金ハ市町村ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第五十八條　管理者ハ組合費ノ賦課ヲ受ケタル者ノ中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度內ニ限リ其ノ納付ノ延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ組合會ノ議決ヲ經ヘシ

管理者ハ特別ノ事情アル者ニ限リ組合會ノ議決ヲ經テ組合費ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條　組合費及夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ對シテハ組合ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ裁決書ハ之ヲ市町村及組合ニ交付スヘシ

第六十條　組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促及滯納處分ニ關シテハ市町村稅ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ關シテハ第五十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六十一條　組合ハ其ノ事業ノ關係上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ組合永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得

組合債ヲ起スニ付組合會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

組合ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第六十三條　管理者ハ每會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第六十四條　組合費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第六十五條　豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

備豫費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得

第六十六條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十七條　組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理者ヨリ其ノ謄本ヲ組合ノ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ニ交付スヘシ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第六十八條　組合ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ例ル

第六十九條　組合ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ證書類ヲ併セテ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ヨリ之ヲ管理者ニ提出スヘシ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常會迄ニ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ハ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且決算ハ其要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者及其ノ代理者共ニ議長タルコトヲ得ス

第七十條　豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第六章　組合ノ聯合

第七十一條　水利組合ニ於テ共同事業ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ水利組合ノ聯合ヲ設クルコトヲ得

水利組合聯合ハ之ヲ法人トス

水利組合聯合ニシテ其ノ聯合組合ノ數ヲ增減シ又ハ共同事業ノ變更ヲ爲サシメムトスルトキハ組合ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ聯合ヲ解カムトスルトキハ亦同シ

水利組合聯合ニ關シテ水利組合ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第七章　組合ノ監督

第七十二條　組合ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス但シ組合ノ區域郡市若ハ數部ニ涉リ又ハ市內ニ止ル場合郡內ニ止ルモ郡長管理者タル場合ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ組合事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級官廳ノ組合事務ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條　本法ニ規定スル異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以內ニ之ヲ提起スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第七十四條　監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ組合會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　內務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合解散ノ場合ニ於テハ三月以內ニ議員ヲ選擧スヘシ

第七十六條　組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ第一次監督官廳ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ第一次監督官廳ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ組合ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ處分又ハ裁決ニ不服アルトキハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十七條　組合ニ於テ負債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第六十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條　左ニ揭クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　組合規約ヲ設定改正スル事

二　不動產ノ管理及處分ニ關スル事

三　不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合內ノ一部ニ對シ特ニ賦課ヲ爲ス事

四　加入金使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

五　積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

六　寄附及補助ヲ爲ス事

七　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第七十九條　組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十條　組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第八十一條　監督官廳タル府縣知事郡長ハ第三十五條ノ委員及第三十六條ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

郡長ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間水利組合ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八十二條　組合吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章　雜則

第八十三條　本法ノ規定ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其ノ成立ニ至ル迄管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十四條　本法ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事ヲ指定スヘシ

第八十五條　本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス勅令ヲ以テ別ニ其ノ制ヲ定ム

附則

第八十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

水利組合條例ハ之ヲ廢止ス

第八十七條　本法施行ノ際現ニ存スル水利組合ハ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第八十八條　水利組合條例ニ依リ爲シタル諸般ノ行爲ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八十九條　水利組合條例ニ依リ爲シタル處分ニ對スル異議訴願又ハ訴訟ニ關シテハ水利組合條例ニ依ル

第九十條　本法施行ノ際現ニ存スル舊町村會又ハ水利土功會ニシテ其ノ目的トスル事業カ本法ノ規定ニ牴觸セサルトキハ之ヲ本法ノ規定ニ依リ設置シタル水利組合ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從來ノ吏員及議員ハ總テ其ノ職ヲ失フモノトス

第一項ノ水利組合及其ノ管理者ハ府縣知事ニ於テ直ニ之ヲ告示スヘシ

前項ノ前示アリタルトキハ管理者ハ遲滯ナク組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

○河川法（明治二十九年四月法律第七十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル河川法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

河川法

第一章　總則

第二章　河川ノ管理

第三章　河川ノ使用ニ關スル制限竝警察

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第五章　監督及強制手續

第六章　訴願及訴訟

第七章　附則

河川法

第一章　總則

第一條　此法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條　河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條　河川竝其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナル得コトヲス

第四條　地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章　河川ノ管理

第六條　河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管內ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條　河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條　地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管內ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條　河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條　他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條　行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條　河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條　地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

ルコトヲ得

第三章　河川ノ使用ニ關スル制限竝警察

第十六條　舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一　流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二　河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三　河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條　河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條　左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法

公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四　此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ違背シタルトキ

六　公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條　本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條　洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂竹木其ノ他ノ材料車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ハ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條　河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條　河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得

但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額竝不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條　河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條　營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄

スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ內ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣內ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第三十五條　公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域內ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域內ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管內ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條　河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以內ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管內ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シ

タル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條　流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條　地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管內下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條　河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條　河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條　此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章　監督及強制手續

第四十九條　主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條　他ノ府縣若ハ他ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限內ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限內ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以內ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ付キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ揭ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ許可認可又ハ前條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以內ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十二條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以內ニ之ヲ調製スヘシ

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以內ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條　災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居

ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ許可認可又ハ前條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以內ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十二條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以內ニ之ヲ調製スヘシ

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以內ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條　災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居

留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

○河川法施行規程（明治二十九年六月勅令第二百三十六號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條　内務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

内務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條　府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ（三十二年勅令第二百八十六號ヲ以テ本條中追加）

第三條　沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條　河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川竝ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條　河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條　河川法第二十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條　河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入リ又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條　河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ効力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條　河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條　府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條　河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ効力ヲ有ス

第十二條　河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條　内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條　河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

○砂防法（明治三十年三月法律第二十九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

砂防法

第一章　總則
第二章　土地ノ制限及砂防設備
第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝收入等
第四章　警察、監督及强制手續
第五章　訴願及訴訟
第六章　附則

砂防法

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條　砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治

水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持竝砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却

本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額竝其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ砂防工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

ノ後三个月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條　此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條　砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條　砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章　警察、監督及强制手續

第二十九條　第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ其ノ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條　地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲或砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限或其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十九條　第二十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十條　第二十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十一條　第二十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十二條　第二十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十三條　第二十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十四條　第三十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十五條　第三十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十六條　第三十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十七條　第三十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十八條　第三十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第四十九條　第三十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十條　第三十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十一條　第三十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十二條　第三十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十三條　第四十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十四條　第四十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十五條　第四十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十六條　第四十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十七條　第四十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十八條　第四十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第五十九條　第四十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十條　第四十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十一條　第四十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十二條　第四十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十三條　第五十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十四條　第五十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十五條　第五十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十六條　第五十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十七條　第五十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十八條　第五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第六十九條　第五十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十條　第五十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十一條　第五十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十二條　第五十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十三條　第六十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十四條　第六十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十五條　第六十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十六條　第六十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十七條　第六十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十八條　第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第七十九條　第六十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十條　第六十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十一條　第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十二條　第六十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十三條　第七十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十四條　第七十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十五條　第七十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十六條　第七十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十七條　第七十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十八條　第七十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第八十九條　第七十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十條　第七十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十一條　第七十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十二條　第七十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十三條　第八十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十四條　第八十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十五條　第八十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十六條　第八十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十七條　第八十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十八條　第八十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第九十九條　第八十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百條　第八十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百一條　第八十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二條　第八十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三條　第九十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四條　第九十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五條　第九十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六條　第九十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七條　第九十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百八條　第九十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百九條　第九十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十條　第九十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十一條　第九十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十二條　第九十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十三條　第百條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十四條　第百一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十五條　第百二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十六條　第百三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十七條　第百四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十八條　第百五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百十九條　第百六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十條　第百七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十一條　第百八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十二條　第百九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十三條　第百十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十四條　第百十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十五條　第百十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十六條　第百十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十七條　第百十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十八條　第百十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百二十九條　第百十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十條　第百十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十一條　第百十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十二條　第百十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十三條　第百二十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十四條　第百二十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十五條　第百二十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十六條　第百二十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十七條　第百二十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十八條　第百二十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百三十九條　第百二十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十條　第百二十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十一條　第百二十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十二條　第百二十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十三條　第百三十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十四條　第百三十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十五條　第百三十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十六條　第百三十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十七條　第百三十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十八條　第百三十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百四十九條　第百三十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十條　第百三十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十一條　第百三十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十二條　第百三十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十三條　第百四十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十四條　第百四十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十五條　第百四十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十六條　第百四十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十七條　第百四十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十八條　第百四十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百五十九條　第百四十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十條　第百四十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十一條　第百四十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十二條　第百四十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十三條　第百五十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十四條　第百五十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十五條　第百五十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十六條　第百五十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十七條　第百五十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十八條　第百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百六十九條　第百五十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十條　第百五十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十一條　第百五十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十二條　第百五十九條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十三條　第百六十條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十四條　第百六十一條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十五條　第百六十二條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十六條　第百六十三條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十七條　第百六十四條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十八條　第百六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百七十九條　第百六十六條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於テハ訴願ヲ裁決スルコトヲ得

第百八十條　第百六十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ地方行政廳ニ於テハ主務大臣ニ訴願シ主務大臣ニ於

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條　第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條　第二十二條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以內ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第四十七條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

○砂防法施行規程（明治三十年十月勅令第三百八十二號）

朕砂防法施行規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

砂防法施行規程

第一條　內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條ノ場合ニ於テ補償金額ノ通知ヲナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第三條　砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條　內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條　砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クトモ五日間前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條　砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市長、事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條　行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ十日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條　砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效用ヲ失ハス前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條　砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限內ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○耕地整理及土地改良奬勵費規則（明治四十二年四月農商務省令第二號）

耕地整理及土地改良奬勵費規則左ノ通定ム

第一條　耕地整理及土地改良奬勵費ハ耕地整理及土地改良事業ヲ奬勵スル爲農商務大臣ハ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ左ニ揭クル村縣ノ費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

一　耕地整理及土地改良ノ施行ニ關シ當該年度ニ於テ行フ、調査、設計、工事監督等ニ要スル費用

二　耕地整理中當該年度ニ於テ行フ道路、堤塘、溝渠、橋梁、溜池ノ變更廢置又ハ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事ニ要スル費用ニ對スル補助金

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シテ前年度三月中ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　前條第一號ノ補助金ニ付テハ調査、設計、工事監督等ノ施行豫定書、設備豫定書及費用豫算書竝調査、設計、工事監督等ノ實施ニ關スル規程

二　前條第二號ノ補助金ニ付テハ補助金豫算書、其ノ設計書及補助金ノ交付ニ關スル規程

第四條　補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ前條ノ添附書類ニ記載シタル豫定、豫算又ハ規程ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用又ハ補助金ノ額ヲ增加スルトキハ補助金ノ增加交付ヲ申請スルコトヲ得

第五條　補助金ノ交付ヲ受クル府縣ハ別記第一號乃至第四號樣式ニ依リ當該年度ニ於ケル調査、設計、工事監督等ノ成績及補助金交付ノ成績ヲ翌年度五月末日迄ニ費用及補助金ノ決算ヲ同十一月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ第八條ノ規定ニ依ル義務ノ存スル場合亦同シ

第六條　調査、設計、工事監督等ニ關スル職員ヲ任用シタルトキハ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名、職名及俸給額ヲ農商務大臣ヘ報告スヘシ其事項ニ變更アリタルトキ又ハ職員ヲ免シタルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

前項ノ規定ハ囑託員ニ之ヲ準用ス

第七條　農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ府縣ニ第三條第一號ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命シ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ增加交付ヲ爲スコトアルヘシ

第八條　補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計、工事監督等ノ實施ニ關スル規程

府縣ニ於テ補助金豫算書ニ定メタル補助金ノ交付ヲ當該年度內ニ終了セサルトキハ當該年度內ニ於テ行フ第二條第二號ノ費用ニ對シテモ尙之ヲ交付スルノ義務アルモノトス

第九條　農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ對シ調査ヲ命シ若ハ報告ヲ徵シ又ハ實地檢查ヲ爲スコトヲ得

第十條　府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ、第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得農商務大臣ニ於テ府縣ノ施行成績不良ナリト認ムルトキ亦同シ

附　則

第十一條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十二年度ニ限リ第三條中前年度三月中トアルヲ明治四十二年四月中トス

（別記樣式ハ之ヲ略ス）

○耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件

（明治四十二年十月勅令第二百三十一號）

第一條　耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼カムトスルトキハ整理施行者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　事業ノ現況

二　引繼カムトスル事業及其ノ設明

三　引繼カムトスル事業ニ關スル權利義務ノ明細

四　引繼カムトスル事業ノ爲一年間ニ要スル經費算

前項ノ認可申請書ニハ共同施行者過半數ノ同意又ハ總會ノ議決アリタルコトヲ證スル書面、引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合トノ協議一致ヲ證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ協議一致セサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ノ提出アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合ノ意見ヲ徵シタル後ニ非サレハ其ノ引繼ヲ認可スルコトヲ得ス

第三條　事業ノ引繼アリタル場合ニ於テ共同施行ニ依ル耕地整理ノ殘務結了シ又ハ耕地整理組合ノ清算結了シタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク耕地整理事業ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ニ引繼クヘシ但シ二以上ノ郡、市町村又ハ水利組合ニ事業ヲ引繼キタル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ニ依リ地方長官ハ其ノ書類及帳簿ノ引繼ヲ受クヘキ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ヲ指定スヘシ

第四條　耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ編更セムトスルトキハ總會ニ於テ普通水利組合規約ヲ議決シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可申請書ニハ事業ノ現況ヲ記シタル書面及總會ノ議事錄ヲ添附スヘシ

第一項普通水利組合員三分ノ二以上出席シ出席員ノ

過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條　地方長官ハ耕地整理ノ事業ニシテ郡、町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルモノト認メタルトキハ事業ノ引繼ヲ命シ尚耕地整理組合ニ對シテハ普通水利組合ニ變更ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

郡、市町村又ハ水利組合ハ地方長官ニ前項事業引繼ノ命令ヲ申請スルコトヲ得

附　則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依ル公共團體指定ノ件（明治四十二年十月勅令第二百三十二號）

左ノ耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依ル公共團體ヲ指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第二百三十二號

耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依ル左ノ公共團體ヲ指定ス

郡組合

市町村内ノ區、町村組合、町村學校組合及其ノ區

市制町村制ヲ施行セサル其ノ區町村内ノ部、町村組合　町村學校組合及其ノ區

水利組合

北海道土功組合

附　則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○耕地整理登記令（明治四十二年十月勅令第二百三十三號）

左ノ耕地整理登記令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

耕地整理登記令

第一條　耕地整理法第三十七條ノ規定ニ依ル土地及建物ニ關スル登記ノ特例ニ付テハ本令ニ依ル

第二條　耕地整理ニ依ル土地ニ關スル登記ハ整理施行地區内ノ從前ノ土地既登記ナルカ又ハ從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ數箇ノ土地中ニ既登記ノモノアルトキハ換地ニ付之ヲ爲ス整理施行後其ノ上ニ既登記ノ地役權存續スヘキ換地ニ付亦同シ

第三條　土地ニ關スル登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル地方長官ノ認可アリタルコトヲ證スヘキ書面

二　換地設計書

三　整理確定圖

四　耕地整理組合ノ組合長ヲ除クノ外申請者ノ資格ヲ證スル市區町村長ノ證明書

五　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

第四條　土地ニ關スル登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ整理施行者又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一　從前ノ土地及換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號

二　從前ノ土地竝換地ノ地目及段別若ハ坪數

三　換地ノ交付ヲ受ケタル者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四　耕地整理ニ因リテ登記ヲ申請スル旨

五　登記所ノ表示

六　年月日

第五條　換地ノ上ニ既登記ノ地役權存續スル場合ニ於テハ申請書ニ前條ニ掲クタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ尚地役權換地ノ一部ニ付存スルトキハ其ノ部分ヲ表示シタル圖面ヲ添附スヘシ

一　耕地整理施行前ニ於ケル換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號

二　耕地整理施行前ニ於ケル換地ノ地目及段別若ハ坪數

三　耕地整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四　地役權換地ノ一部ニ付存スルトキハ其ノ部分及符號

第六條　從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ申請書ニ第四條ニ掲ケタル事項ノ外從前ノ土地ニ對當シタル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號ヲ記載スヘシ

第七條　換地ノ一部所有權及地役權以外ノ登記シタル權利ノ目的タル場合ニ於テハ申請書ニ第四條ニ掲ケタル事項ノ外權利ノ目的タル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號ヲ記載スヘシ

第八條　耕地整理ニ依ル土地ノ登記ノ申請ハ整理施行地區ノ全部ニ付同一ノ申請書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ヲ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區毎ニ之ヲ爲スヘシ

整理施行地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ涉ル場合ノ申請ニ關シテハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條　從前ノ土地　箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ

所有權及地役權以外ノ登記シタル權利從前ノ土地ノ一部ニ付存スル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地中權利ノ目的タリシ部分ニ對當タル換地ノ部分ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シタル旨ヲ附記シ之ニ相當スル從前ノ表示ヲ朱抹スヘシ

換地ニ地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ其ノ登記ヲ移シ其ノ登記ノ末尾ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ但シ耕地整理ニ依リ其ノ登記中ニ記載シタル要役地若ハ承役地ノ表示、地役權ノ範圍又ハ地役權ノ存スル土地ノ部分ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更ヲ附記シ之ニ相當スル從前ノ表示ヲ朱抹スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ地役權ニ關スル登記アル土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ耕地整理ニ由リテ地役權ニ關スル登記ヲ登記何號ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ前ノ登記ヲ朱抹シ捺印スヘシ

第十條　從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル塲合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ數箇ノ土理中其ノ一箇ノ登記用紙ニ於ケル表示欄ニ換地、換地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分及從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ他ノ登記用紙ニ登記シタル從前ノ土地ニ付テハ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示、其ノ番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十一條　前條ノ塲合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記ハ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ノミニ關スル旨、耕地整理ニ因リテ登記爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

換地ノ一部未登記ノ從前ノ土地ニ割當テタルモノナルトキハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ換地ノ部分ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權及地役權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ノミ其ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ

第十二條　從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ヲ交付シタル塲合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表記欄ニ一箇ノ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ

從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權及地役權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ相當區事項欄ニ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權及地役權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ由リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ

第十三條　前條ノ塲合ニ於テハ登記官吏ハ他ノ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

換地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受理ノ年月日及受理番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權及地役權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ其ノ權利ニ關スル從前ノ登記ヲ轉寫シ且從前ノ土地ニ割當テタル他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權及地役權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ

第十四條　第九條第二項乃至第四項ノ規定ハ從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シ又ハ從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ヲ交付シタル塲合ニ之ヲ準用ス

第十五條　未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル塲合ニ於テハ登記官吏ハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

第九條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ塲合ニ之ヲ準用ス

第十六條　從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付セサル塲合ニ於テハ登記官吏ハ土地ノ滅失ト看做シ登記用紙中表示欄ニ換地ヲ交付セサル事由ヲ記載シ土地ノ表示、其ノ番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十七條　前條ノ塲合ニ於テ從前ノ土地他ノ土地ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ換地ヲ交付セサル事由ヲ附記シ其ノ土地ト共ニ所有地以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中從前ノ土地ノ表示ヲ朱抹スヘシ

他ノ土地ノ所在地他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク前項ノ登記ヲ其ノ登記所ニ囑託スヘシ

前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク第一項ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第十八條　前二條ノ規定ハ耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル塲合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル既登記ノ土地ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付シタル塲合ニ之ヲ準用ス

第十九條　甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ換地ヲ交付シタルトキハ甲登記所ハ其ノ土地ニ關スル登記簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ移送スヘシ但シ登記簿ノ謄本ニハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲登記所ハ從前ノ土地ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第二十條　前條ノ場合ニ於テ從前ノ土地一筆ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタルトキハ乙登記所ハ換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地、換地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分及從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十一條　前條ノ場合ニ於テ從前ノ土地一筆ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ數箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ乙登記所ハ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ其ノ登記ノ末尾ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號及耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十二條　第九條第二項乃至第四項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地一筆ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ數箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ乙登記所ハ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ其ノ登記ノ末尾ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號及耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第九條第二項乃至第四項及第十三條第二項、第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ町村其ノ他登記簿ヲ分設シタル甲登記區畫ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ換地トシテ乙登記區畫ニ屬スル土地ヲ交付シタルトキハ登記官吏ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其ノ換地ニ關スル登記ヲ爲スヘシ

前四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

乙登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ甲登記

區畫ニ屬スル從前ノ土地ノ登記用紙ハ之ヲ閉鎖スヘシ

第二十五條　從前ノ土地舊登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ第十條第二項、第十六條、第十八條、第十九條第二項及前條第三項ノ規定ニ依リ登記用紙ヲ閉鎖スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　耕地整理ニ依ル建物ニ關スル登記ハ耕地整理施行ノ爲既登記ノ建物ノ分合、其ノ番號若ハ構造ノ變更、其ノ滅失、其ノ建坪ノ增減又ハ建物ノ新築アリタルトキ之ヲ爲ス登記シタル建物ノ敷地ノ地目、字若ハ番號又ハ段別若ハ坪數ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條　耕地整理法第三十六條ノ規定ニ依リ整理施行者ノ爲スヘキ建物ニ關スル登記ノ申請ハ土地ニ關スル登記ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　登記官吏土地及建物ニ關スル登記ヲ完了シタルトキハ其ノ旨整理施行者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ通知ヲ受クヘキ者共同施行者ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミニ通知スルヲ以テ足ル

第二十九條　登記官吏第十五條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及之ニ割當テタル從前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スヘシ

附則

第三十條　本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

整理地登記規則ハ之ヲ廢止ス

第三十一條　舊耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行シタル土地ノ登記ニ關シテハ次條ニ規定スルモノヲ除クノ外整理地登記規則ヲ適用ス

第三十二條　第三條第二號　第八條及第十六條乃至第二十四條ノ規定ハ舊耕地整法ニ依リ耕地整理ヲ施行シタル土地ノ登記ニ關シ之ヲ適用ス

第十二類　官吏

○文官任用令（明治三十二年三月勅令第六十一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令

第一條　勅任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ

之ヲ任用ス但シ親任式ヲ以テ叙任スル官及別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　奏任文官（特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及敎官、技術官ヲ除ク）ノ職ニ在ル者及在リタル者ニシテ高等官三等ノ文官ノ職ニ在ル者及在リタル者

二　滿一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者竝ニ敎官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

三　勅任文官（特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及敎官、技術官ヲ除ク）ノ職ニ在リタル者ニシテ本令第二條第一項ノ資格ヲ有スル者

四　滿二年以上勅任檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上勅任判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

滿二年以上帝國大學及文部省直轄諸學校ノ勅任文官ノ職ニ在リタル者ハ文部省部內ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

陸海軍將官ハ別ニ任用ノ規程アルモノノ外各其ノ部內ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第二條　奏任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヲ中ヨリ之ヲ任用ス

一　文官高等試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二　滿二年以上高等文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者竝ニ敎官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

第四條　敎官及技術官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外高等官ニ在リテハ文官高等試驗委員、判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

第五條　特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試驗委員、判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ敎官、技術官ノ中若ハ試驗委員ニ於テ敎官、技術官タルノ資格アリト認ムル者

三　滿二年以上判事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條　判任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　文官普通試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二　文官高等試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

三　官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

四　高等商業學校舊附屬主計學校及舊主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者竝ニ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學又ハ經濟學ヲ敎授スル私立學校ニ於テ明治二十六年十一月十日以前ニ卒業證書ヲ得タル者

五　滿二年以上文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者竝ニ敎官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條　滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第七條　本令第一條第二項第三項第四項、第二條第二項、第四條、第五條及第六條其ノ他特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者ハ文官試驗ヲ經ルニ非サレハ其ノ各條項又ハ其ノ規程ニ指定シタル以外ノ文官ニ任用スルコトヲ得ス

第八條　文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第九條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

○文官分限令（明治三十二年三月勅令第六十二號）

陞檻密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官分限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文官分限令

第一條　本令ハ親任式ヲ以テ叙任スル官、公使、祕書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條　官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ

第三條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一　不具、癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員ノ審査ニ付ス

第四條　官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條　第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條　官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第七條　文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條　文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條　懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條　第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラ

レタルトキ

二　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四　官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス（三十六年勅令第百五十六號三ノ中改正）

第十二條　休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第十三條　第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス

第十四條　免官ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣、奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附　則

第十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

○文官懲戒令（明治三十二年三月勅令第六十三號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

第一章　總則

第一條　親任式ヲ以テ叙任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官

二　減俸

三　譴責

第四條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタルヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條　勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條　懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章　懲戒委員會

第一款　總則

第八條　懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條　文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款　文官高等懲戒委員會

第十條　文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條　委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條　委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條　委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一　其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二　委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條　委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條　幹事ハ高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請

ニ依リ之ヲ命ス
發十八條　幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ整備シ庶務ヲ統理ス
第十九條　委員會ニ書記三人ヲ置ク
第二十條　書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス
第二十一條　書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款　文官普通懲戒委員會

第二十二條　文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク（三十四年勅令第二百十六號ヲ以テ臺灣ノ縣及廳ヲ削除）
一　內閣
一　樞密院
一　各省
一　臺灣總督府
一　會計檢査院
一　行政裁判所
一　警視廳
一　北海道廳
一　府縣
一　貴族院事務局
一　衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得
第二十三條　委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在テハ法制局長官、樞密院ニ在テハ書記官長各省ニ在テハ總務長官、臺灣總督府ニ在テハ民政長官ヲ以テ之ニ充ツ（三十三年勅令第二百十一號三十四年勅令第二百十六號ヲ以テ條中改正）
委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ內閣ニ在テハ賞勳局、法制局及內閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス
特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得
第二十四條　委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
第二十五條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス
第二十六條　委員會ハ書記二人ヲ置ク
第二十七條　書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス
第二十八條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章　懲戒手續

第二十九條　本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ
第三十條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ
委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ內國旅費規則ニ依リ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ
第三十一條　委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ稟申スヘシ
第三十二條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス
第三十三條　委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附則

第三十四條　高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス
第三十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス
官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○官吏服務規律（明治二十年七月勅令第三十九號）

朕官吏服務規律ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ施行セシム

官吏服務規律

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シテ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
第三條　官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ
第四條　官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス
裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得
第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス
第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給竝贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス
第九條　左ニ揭ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス
一　官廳ノ工事ヲ受負フ者
一　官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
一　官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
一　官廳ノ用品ヲ調達スル者
一　官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上官タル者ハ職務ノ內外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ內ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス、

第十七條　本規律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○官吏恩給法（明治二十三年六月法律第四十三號）

職官吏恩給法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏恩給法

第一條　文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　在官滿十五年以上ノ者左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一　年齡六十歲ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三　廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條　左ニ揭クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ增加恩給ヲ給ス

一　公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二　公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顯ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條　滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラス恩給ヲ給ス

第五條　恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年每ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

交際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條　恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痍疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限內ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一　一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二個年

二　一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三個年

第七條　在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス

明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ揭クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條　左ニ揭クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一　判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二　武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三　從軍年加算ノ年月

四　非職及休職中ノ日數

五　退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六　宮內官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮內官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮內判任官以上在官中ノ月數

第九條　左ニ揭クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

一　年齡二十歲未滿ノ者在官月數

二　高等官試補及判任官見習中ノ月數

三　郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數（三十三年法律第十號ヲ以テ本號中改正）

四　御用掛雇等外出仕勤仕ノ月數

五　第八條第二ニ揭クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六　自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若

クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十條　文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條　恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一　退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二　退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ增加セス

第十二條　恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一　判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二　公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條　年齡未タ六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員竝市長町村長助役收入役各廳職參事會員及東京市京都市大阪市北海道ノ區長沖繩縣區制ニ依ル區長及居留民團ノ民長助役會計役ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス（三十三年法律第十號ニ依リ本項改正）（四十一年法律第五十四號ニ依リ中改正）

第十四條　郡區制任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏竝高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス（同上）

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏竝ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷官現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條　恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條　恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三個年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條　恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審查ヲ經テ內閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一　傷痍疾病ノ原因及其輕重

二　職務ニ堪エルト否ラサルト

第十八條　恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條　明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條　此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三個年內ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條　此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

從前ノ命令ニシテ此法律ニ牴觸スル者ハ總テ廢止ス

○官吏恩給法施行規則

（明治二十三年七月閣令第三號）

官吏恩給法施行規則左ノ通定ム

官吏恩給法施行規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廳ノ長官ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條　官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ內閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在官中履歷書

二　市町村長ノ證明シタル戶籍謄書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ揭ケタル者ハ之ヲ添附スルニ及ハス

第四條　公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一　現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二　醫師ノ診斷證書

第五條　恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ內閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ內閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條　內閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作リ本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時　支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ內閣ハ其旨ヲ郵便貯金局ニ通報スヘシ

第二章　恩給ノ支給

第七條　恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ支給ス但權利消滅若クハ停止ノ
キ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラス之ヲ支給ス
恩給支給ニ關スル手續ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條　（削除）

第九條　（削除）

第十條　官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日（刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ裁判確定ノ日）日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二　判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲヘクルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三　公權ヲ停止セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日（刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ裁判確定ノ日）ヲ以テ支給ヲ終リ刑ノ執行ヲ終リタル日ノ翌日又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條　官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一個月分ニ相當スル金額トス

第十二條　官吏恩給法第二條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ增加恩給ノ等差ニ左ノ如シ

第一項　兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ　十分ノ七

第二項　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ六

第三項　一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　十分ノ五

第四項　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ四

第五項　一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　十分ノ三

第六項　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年逓文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第三章　恩給ノ停止

第三十條　恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ若クハ之ヲ取消サレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ郵便貯金局ニ通知スヘシ

第十四條　官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ郵便貯金局ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ俸給ノ支給ヲ始ムル日（解任ノトキハ支給ヲ終リタル日）ヲ付記スヘシ

第十五條　恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ最寄郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

第十六條　郵便貯金局ニ於テ第十三條若クハ第十四條ノ通知又ハ第十五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ內閣恩給局ニ通知スヘシ

死亡又ハ權利消滅ノ爲メ返納スヘキ恩給證書ハ地方廳ニ於テ之ヲ收メ內閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章　雜　則

第十七條　水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ恩給支給郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ
郵便貯金局ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ內閣恩給局ニ申出ヘシ

第十八條　恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ其ノ届書ニ恩給證書及戸籍謄本ヲ添ヘ恩給支給郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ郵便貯金局ハ恩給證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ局長署名捺印ノ上恩給支給郵便局ヲ經テ本人ニ下附シ其ノ旨ヲ內閣恩給局ニ通知スヘシ

第十九條　明治十七年逓官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

一　死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二　恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三　改氏名シタルトキ

第二十條　官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第二十一條　（削除）

○官吏遺族扶助法（明治二十三年六月法律第四十四章公布セシム）

朕官吏遺族扶助法ヲ補可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　官吏遺族扶助法
文官判任以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務

ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス

一　在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二　在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三　恩給ヲ受クル者死去シタルトキ

第二條　文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條　交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ

郡判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏ハ第二條ノ納金ヲ要セス

第四條　寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痍ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ヒ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條　寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ

タルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條　孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戶主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條　恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　此法律ニ於テ孤兒トハ年齡二十歲未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條　扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條　扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戶籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其ノ父存在セサルトキ若ハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條　扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍內ニ在ル二十歲未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條　扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條　扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條　扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

一　寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戶籍ヲ去リタル月ノ翌月

二　孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齡二十歲ニ滿チタル月ノ翌月

三　父母祖父母死去シ又ハ戶籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條　孤兒二十歲ニ滿ツルモ癈疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戶籍內ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條　扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條　在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乘シタル額トス但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス

第十八條　扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審查ヲ經テ內閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條　明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條　此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏遺族扶助法施行規則

（明治二十三年七月閣令第四號）

官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム

官吏遺族扶助法施行規則

第一章　扶助料ノ請求

第一條　官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶

助金請求ノ證ト爲スヘシ

第二條　官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第三條　官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ査覈シ其傷痍若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第四條　扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第五條　公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第六條　官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ廢疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ

第七條　官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其ノ請求書ニ戸籍謄本及第一條乃至第六條ニ揭クル書類ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ニ差出スヘシ（三十七年閣令第一號ニテ改正）

第八條　扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ內閣總理大臣ニ差出スヘシ

內閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作リ地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ內閣ハ其旨ヲ郵便貯金局ニ通報スヘシ

第二章　（削除）

第九條　（削除）

第三章　扶助料ノ支給及停止

第十條　扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條　扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ郵便貯金局ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ內閣恩給局ニ通知スヘシ前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ郵便貯金局ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ內閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條　官吏恩給法施行規則第十三條及第十五條ハ扶助料ヲ受クル者ニ之ヲ準用ス

第十三條　郵便貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ規定ニ依ル

雜則

第十四條　水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條　明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一　死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二　恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三　改氏名シタルトキ

第十六條　（削除）

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

（明治二十九年三月法律第三十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

第一條　地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官月數ハ官吏ノ恩給及遺族扶助ニ關スル在官年數中ニ算入ス

第二條　明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文官判任以上ノ者ニシテ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ算入シ恩給ヲ增加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第三條　第二條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受タル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ニ返納セシム

新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官一時賜金扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス

第四條　第二條、第三條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受タル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ニ返納セシム

新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官一時賜金扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス

第五條　恩給ヲ受クル者郡判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ニ任用セラレタルトキハ其ノ間恩給ヲ停止ス

第六條　第二條、第三條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス

第七條　第二條、第三條ニ依リ受クヘキ恩給、扶助料又ハ一時扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年內ニ請求セラレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第八條　此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第九條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

（明治二十九年三月閣令第二號）

官吏恩給法及官吏遺族恩助法補則施行規則左ノ通定ム

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

第一條　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第二條ニ依リ恩給ノ增加ヲ受ケ若クハ新ニ恩給ヲ受ケントスル者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條　官吏恩給法及官吏遺族扶助法規則第三條ニ依リ扶助料又ハ一時扶助金ノ增加ヲ受ケ若クハ新ニ之レヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ヲ居住地ノ地方長官ニ差出スヘシ

第三條　恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在官中ノ履歷書

二　市町村長ノ證明シクル戶籍寫

但恩給ヲ請求スル者ニ在リテハ其ノ退官當時ノ戶籍寫扶助料若クハ一時扶助金ヲ請求スル者ニテハ元官吏タリシ者死亡當時ノ戶籍寫及明治二十九年四月一日現在ノ戶籍寫トス

三　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補助施行前ニ恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ證書若クハ辭令書

第四條　第一條ニ依リ新ニ恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ官吏恩給法施行規則第五條ニ揭クル計算書ノ外退官時當給與シタル退官賜金ノ調書ヲ添附スヘシ

第五條　恩給ヲ受ケタル者ヲ郡區書記ニ任用シ若クハ解任シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十條第十四條及第十六條ヲ準用ス但從來任用シタル者ハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　本規則ニ於テ特別ノ規程ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ノ例ニ依ル

附錄（書式）

◉第一類戶籍ニ關スル書式

●嫡出子否認屆

男（女）　名

右某否認ノ裁判明治何年何月何日確定候間別紙裁判ノ謄本相添ヘ此段及御屆候也

但シ本文ノ通ニ付某出生ノ登記變更相成度此段併セテ申請候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
戶主某長男平民何業
否認者　氏　名印

何町村戶籍吏氏名殿

●私生子認知屆

明治何年何月何日生

何府縣何郡何町村大字何何番地
戶主平民何業
母　氏　名
私生子　胎　兒

右胎兒認知候間別紙母ノ承諾書相添ヘ此段及御屆候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
戶主某叔父平民何業
認知者　氏　名印

何町村戶籍吏氏名殿

●私生子認知屆

明治何年何月何日生

何府縣何郡何町村大字何何番地
戶主平民何業
母　氏　名
死亡
私生子　氏　名

右私生子認知候間此段及御屆候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
戶主某弟平民何業
認知者　氏　名印

認知者　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●出生屆

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
父　氏　名
母　氏　名
出生子長男　名

右某明治何年何月何日午後何時何府縣何郡何町村大字何何番地ニ於テ出生候間此段及御屆候也
明治何年何月何日
氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●出生屆

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何商某長男何職業
父　氏　名
母　氏　名
出生子長女　名

右某明治何年何月何日午前何時何府縣何郡何町村大字何何番地ニ於テ出生候間此段及御屆候也
明治何年何月何日
寄留地何府縣何郡何町村大字何何番地
氏　名印
明治何年何月何日生

戸籍吏氏名殿

●出生屆

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何營業某姉
母　氏　名
私生子女　名

右某明治何年何月何日午前何時何府縣何郡何町村大字何何番地ニ於テ出生候處母ノ家ニ入シコトヲ得サルニ付一家創立候間此段及御屆候也
明治何年何月何日
氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●養子緣組屆

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民農
養父　氏　名
明治何年何月何日生
養母　氏　名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主某平民何業
養子　氏　名
明治何年何月何日生
右實父　氏　名
右實母　名

右養子緣組候間別紙何何同意證相添ヘ此段及御屆候也
明治何年何月何日
養父　氏　名印
養母　名印
養子　名印
何府縣何郡何町村大字何何番地
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
同縣同郡同村同　何番地
證人　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●養子離緣屆

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民農
養父　氏　名
明治何年何月何日生
養母　名
明治何年何月何日生
養子　名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民農
養子某カ復籍スヘキ家ノ戸主兄　氏　名
何業實父　氏　名
同實母　氏　名

右明治何年何月何日緣組候處今般協議ノ上離緣候間別紙何々同意證相添此段及御屆候也
明治何年何月何日
養父　氏　名印
養母　名印
養子　名印
何府縣何郡何町村大字何何番地
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
同縣何郡何町村大字何何番地
證人　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●入夫婚姻屆

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
妻　氏　名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
右父　氏　名
右母　名

何府縣何郡何町村大字何何番地
何業某叔父平民何業
夫　氏　名
明治何年何月何日生
右父亡　氏　名
右母農　名
右入夫婚姻候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御屆候也
明治何年何月何日
妻　氏　名印
夫　氏　名印
何府縣何郡何町村大字何何番地何商
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何町村戸籍吏氏名殿
●入籍届
何府縣何郡何町村大字何何番地戸主
平民何業何某(明治何年何月何日生)
妻何業
名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地戸主

何業何某(天保何年何月何日生)二女
入籍スヘキ者
名
明治何年何月何日生
右入籍候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御屆候也
明治何年何月何日
何町村戸籍吏氏名殿
●入籍届
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主何業
入籍スヘキ家ノ戸主　氏　名
天保何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
前記戸主某私生子
廢家ノ上入籍　氏　名
明治何年何月何日生
右入籍候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御屆候也
明治何年何月何日
何町村戸籍吏氏名殿
●入籍届
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主何業

入籍スヘキ家ノ戸主　氏　名
天保何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
廢家ノ上入籍　前記戸主弟　氏　名
右入籍候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御屆候也
明治何年何月何日
氏　名印
何町村戸籍吏氏名殿
●離婚届
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
夫　氏　名
明治何年何月何日生
右父何業　氏　名
右母　名
妻　名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地戸主
何業(妻)カ復籍スヘキ家ノ戸主
兄　氏　名
妻某父何業　氏　名
同母　名
右明治何年何月何日婚姻候處今般協議ノ上離婚候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御屆候也

明治何年何月何日
夫　氏　名印
妻　名印
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何町村戸籍吏氏名殿
●後見開始届
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
被後見人　氏　名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地平民
戸主何業住所何郡何町村大字何何番地
後見人　氏　名
明治何年何月何日生
右某ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治何年何月何日後見開始同月何日遺言ニ因リ就職候間別紙後見人指定ニ關スル遺言ノ謄本相添ヘ此段及御屆候也
明治何年何月何日
何町村戸籍吏氏名殿
氏　名印

●後見人更迭届

何府縣何郡何町村大字何何番地何業
被後見人　氏　名
明治何年何月何日生
前任後見人　氏　名
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業住所同
後任後見人　氏　名
明治何年何月何日生

右某ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治何年何月何日後見開始同年何月何日前任者ト更迭就職候間別紙何々書面相添ヘ此段及御届候也

明治何年何月何日

何町村戸籍吏氏名殿

氏　名印

●後見人任務終了届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主何業
被後見人　氏　名
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
後見人　氏　名
明治何年何月何日生

右ハ明治何年何月何日就職ノ處明治何年何月何日何々ニ因リ任務終了候間此段及御届候也

明治何年何月何日

何町村戸籍吏氏名殿

氏　名印

●推定家督相續人廢除届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業何某長男何業
推定家督相續人　氏　名
明治何年何月何日生

右太郎被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シタルニ因リ明治何年何月何日推定家督相續人廢除ノ裁判確定候間別紙裁判ノ謄本相添此段及御届候也

明治何年何月何日

被相續人　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●推定家督相續人廢除届

何府縣何郡何町村大字何何番地戸主何某
（明治何年何月何日死亡）長男何業
推定家督相續人　氏　名
明治何年何月何日生

右某家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルカ爲メ明治何年何月何日推定家督相續人廢除ノ裁判確定候間別紙裁判ノ謄本相添ヘ此段及御届候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
遺言執行者同人叔父
遺言執行者　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●家督相續人指定届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主某次男平民何業
家督相續人　氏　名
明治何年何月何日生

右ハ法定ノ推定家督相續人ナキニ付家督相續人ニ指定候間此段及御届候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
平民何業
被相續人　相續人兄　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●家督相續届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
家督相續人　某長男　氏　名
明治何年何月何日生

右ハ明治何年何月何日前戸主某隠居ニ因リ家督相續候間此段及御届候也

明治何年何月何日

何町村戸籍吏氏名殿

●離籍届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主某ノ弟ト共ニ家ヲ去ル　妻　氏　名
明治何年何月何日生

右某明治何年何月何日戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルニ因リ離籍候間此段及御届候也

明治何年何月何日

戸主　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●離籍届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業某何男何業
氏　名
明治何年何月何日生

戸主何男某ト共ニ家ヲ去ル
戸主某養女　名
明治何年何月何日生

右某明治何年何月何日戸主ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタルニ因リ離婚候間此段及御届候也
明治何年何月何日

戸主　氏　名印
天保何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●婚姻届

何府縣何郡何町村大字何戸主平民何業
夫　氏　名
明治何年何月何日生
右父何業　氏　名
右母　名
何府縣何郡何町村大字何何番地

右婚姻候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御届候也
明治何年何月何日

夫　氏　名印
妻　氏　名印

何府縣何郡何町村大字何何番地
寄留地同何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●失踪届

何府縣何郡何町村大字何々番地
戸主農
失踪者　氏　名
明治何年何月何日生

右某ニ對スル明治何年何月何日失踪宣告ノ裁判同年何月何日確定候ニ付別紙裁判ノ謄本相添ヘ此段及御届候也

戸主何業某妹平民何業
妻　氏　名
明治何年何月何日生
右父何業　氏　名
右母　名

右婚姻候間別紙何々同意證書相添ヘ此段及御届候也
明治何年何月何日

夫　氏　名印
妻　氏　名印

何府縣何郡何町村大字何何番地
寄留地同同何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何府縣何郡何町村大字何何番地何業
證人　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●失踪届

何府縣何郡何町村大字何々番地
戸主農
失踪者　氏　名
明治何年何月何日生

右某ニ對スル明治何年何月何日失踪宣告ノ裁判同年何月何日確定候ニ付別紙裁判ノ謄本相添ヘ此段及御届候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
宣告請求者　同人兄　氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●廢家届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
廢家人　氏　名
明治何年何月何日生
同人妻　名
明治何年何月何日生

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主何業
廢家人某ノ入ルヘキ家ノ戸主　氏　名
明治何年何月何日生

右廢家候間別紙家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルコトノ證明書相添ヘ此段及御届候也
明治何年何月何日

廢家人　氏　名印

何町村戸籍吏氏名殿

●族稱變更届

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主何業

天保何年何月何日生

右ハ明治何年何月何日華族ニ列セラレ候間別紙辭令書謄本相添ヘ此段及御届候也
明治何年何月何日

何町村戸籍吏氏名殿

●氏復舊届

復舊前ノ氏名　氏　名
復舊シタル氏　氏　名

右ハ何々（復舊ノ原因）ニ因リ明治何年何月何日何府縣ノ許可ヲ得テ前記ノ通復舊候間別紙許可書ノ謄本相添ヘ此段及御届候也
明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業
氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●名儀改稱届

改稱前ノ氏名　氏　名
改稱シタル名　氏　名

右ハ何々（改稱ノ原因）ニ因リ明治何年何月何日何府縣ノ許可ヲ得テ前記ノ通リ改稱候間別紙許可書ノ謄本相添ヘ此段及御届候也

明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主某何平民
氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●身分登記變更ノ申請

何府縣何郡何町村大字何何番地
戸主平民何業何某同人妻某
長男　名

明治何年何月何日某出産登記中出生ノ時其午前何時トアルハ午後何時ト變更ス
明治何年何月何日變更許可ノ裁判確定候ニ付變更相成度別紙裁判ノ謄本相添ヘ此段及申請候也
明治何年何月何日

氏　名印
明治何年何月何日生

何町村戸籍吏氏名殿

●轉籍届

何府縣何郡何町村大字何何番地
平民戸主何業

氏　名
明治何年何月何日生
名
明治何年何月何日生

妻

轉籍地　何府縣何郡何町村大字何何番地

右轉籍候間別紙戸籍ノ謄本相添ヘ此段及御届候也
明治何年何月何日

氏　名印

何町村戸籍吏氏名殿

●本籍地變更届

原籍地　何府縣何郡何町村大字何何番地
新本籍地　何府縣何郡何町村字何何番地

右ノ通本籍變更候間此段及御届候也
何府縣何郡何町村大字何何番地
平民何業
明治何年何月何日

氏　名印

何町村戸籍吏氏名殿

◉第二類　不動産ニ關スル書式

●地上權ヲ目的トスル抵當權設定ニ付登記申請

一抵當權ノ目的タル權利
何郡何村大字何何番地宅地何反何畝何歩ノ上ニ設定シタル順位第何番ノ地上權
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附金何圓借用證書
一登記ノ目的　抵當權設定ノ登記
一債權額　何百圓
一辨濟期　明治何年何月何日
一利　息　年一割五分
一利息ノ支拂時期　毎年十二月二十五日
一登錄稅　金何圓

右登記相成度別紙金圓借用證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日

住　所
抵當權設定者　氏　名印
住　所
抵當權者　氏　名印

何區裁判所宛

●家督相續ニ付登記申請

何府縣何郡何町村大字何何番
二宅地何反何畝何歩
此價額金何圓

宅地何反何畝何歩

第何號
二木造瓦葺平家　一棟　建坪　何坪
附屬建物　土藏二階建　一棟　建坪何坪外二階何坪

此價額金何百圓

一登記原因及其日附　明治何年何月何日家督相續
一登記ノ目的　所有權移轉　登記
一不動產ノ價額合計金何百圓

右登記相成度別紙身分登記ノ謄本相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日

住　所
申請人　氏　名印

何區裁判所宛

●地役權設定ニ付登記申請

承役地　宅地何反何畝何歩
要役地　宅地何反何畝何歩
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附地役權設定證書
一登記ノ目的　地役權設定ノ登記
一地役權設定ノ目的　通行
一地役權ノ範圍　東側長サ何間幅何尺
一要役地ノ價額　金何百圓
一登錄稅　金何圓

右登記相成度別紙地役權設定證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日

住　所
承役地ノ所有者　氏名　印
住　所
地役權者　氏　名印

何區裁判所宛

◉登記名義人ノ表示ノ變更ニ付登記申請

何府縣何郡何町村大字何何番
一宅地何反何畝何歩
一登記ノ原因及ヒ其日附　明治何年何月何日轉籍

一登記ノ目的　明治何年何月何日申請登記第何號所有權ノ登記中所有者何某ノ住所ヲ何府縣何郡何町村大字何何番地ト變更スルコト
一登錄稅　金何圓
右登錄相成度別紙戸籍ノ抄本相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
住所
申請人　氏　名印
何區裁判所宛

●建物所有權ノ保存ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
宅地何反何畝何歩
第何號
一木造瓦葺平家　一棟　建坪何坪
附屬建物　土藏二階建　一棟　建坪何坪外二階何坪
一登記ノ目的　建物所有權保存ノ登記
一建物價額何百圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙土地登記簿謄本及ヒ建物ノ圖面相添ヘ不動產登記法第百六條第一號ニ依リ此段申請候也
明治何年何月何日
住所
申請人　氏　名印
何區裁判所宛

●抵當權ノ消滅ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附貸金受取證書
一登記ノ目的　明治何年何月何日申請登記第何號抵當權設定ノ登記ノ抹消
一登錄稅　金何圓
右抹消ノ登記相成度別紙貸金受取證及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證書相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
住所
抵當權者　氏　名印
住所
抵當權設定者　氏　名印
何區裁判所宛

●建物賣買ニ付登記申請書
何府縣何郡何町村大字何何番地宅地何反何畝何歩
第何號
一木造瓦葺平家　一棟　建坪何坪
附屬建物　土藏二階建壹棟　建坪何坪外二階何坪
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附建物賣渡證書
一登記ノ目的　所有權移轉ノ登記
一買戻ノ特約　明治何年何月何日マテニ買戻ヲ爲スノ約

一建物ノ價額　金何拾圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙建物賣渡證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
住所
賣主　氏　名印
住所
買主　氏　名印
何區裁判所宛

●先取特權保存ニ付登記申請
一設計書ニ定メタル建物
木造二階建　壹棟　建坪何坪外二階何坪
附屬建物　土藏二階建一棟　建坪何拾何坪
敷地　何郡何町村大字何何番地宅地何拾何坪
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附建物新築工事請負契約書
一登記ノ目的　先取特權保存ノ登記
一工事費用ノ豫算額金何百圓
一辨濟期　明治何年何月何日
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙建物新築工事請負契約書設計書及ヒ建物ノ圖面相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
住所
氏　名印
何區裁判所宛

●地上權設定ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
一宅地何反何畝何歩
一登記原因及其日附　明治何年何月何日附地上權設定證書
一登記ノ目的　地上權設定ノ登記
一地上權ノ範圍　宅地ノ全部
一存續期間　明治何年何月何日ヨリ貳拾五ケ年
一地代　壹ヶ月金何圓
一地代ノ支拂時期　每月貳拾五日
一土地ノ價額　金何百圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙地上權設定證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
土地所有者　氏　名印
同　同　何番地
地上權者　氏　名印
何區裁判所宛

●抵當權設定ニ付登記申請

何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
一登記ノ原因及其日附　明治何年何月何日附金圓借用
證書
一登記ノ目的　抵當權設定ノ登記
一債權額　金何拾圓
一辨濟期　明治何年何月何日
一利息　年壹割五分
一利息ノ支拂時期　毎年何月何日
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙金圓借用證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
抵當權設定者　氏　名印
同　同　同　何番地
抵當權者　氏　名印
何區裁判所宛

●土地所有權ノ保存ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
一宅地何反何畝何歩
一登記ノ目的　土地所有權保存ノ登記
一土地ノ價額　金何百圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙土地臺帳謄本相添ヘ不動產登記法第百五條第一號ニ依リ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所宛

●地上權ノ變更ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日契約證書
一登記ノ目的　明治何年何月何日申請登記第何號地上權設定ノ登記中存續期間四十箇年ヲ三拾箇年ト短縮スルコト
一登錄稅　金何十錢
右登記相成度別紙何某ノ承諾書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
地上權設定者　氏　名印
同　縣同郡同　村同字　何番地
地上權者　氏　名印
何區裁判所宛

●土地建物賣買豫約ニ付假登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番地
宅地何反何畝何歩
第何號

一木造瓦葺平家　一棟　建坪　何坪
附屬建物　土藏二階建　一棟　建坪　何坪
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附土地建物賣買豫約證
一登記ノ目的　所有權移轉ノ請求權ノ登記
一登錄稅　金何程
右登記相成度別紙建物賣買豫約證書及ヒ假登記義務者ノ承諾書相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所宛

●永小作權設定ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附永小作權設定ノ證書
一登記ノ目的　永小作權設定ノ登記
一存續期間　明治何年何月何日ヨリ三十五年
一小作料　一箇年金何圓
一小作料ノ支拂時期　毎年十二月二十五日
一土地ノ價額　金何百圓
一登錄稅　金何圓
右登錄相成度別紙永小作權設定證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
地主　氏　名印
同　縣同郡同町村同字　何番地
永小作人　氏　名印
何區裁判所宛

●賃借設定ニ付登記申請
何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
一登記原因及其日附　明治何年何月何日附賃貸借證書
一登記ノ目的　賃借權設定ノ登記
一存續期間　明治何年何月何日ヨリ十五箇年
一賃借一箇月金何圓
一借賃ノ支拂時期　毎月末日
一土地ノ價格　金何百圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙賃貸借證書及ヒ何某ノ權利ニ關スル登記濟證相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
賃貸人　氏　名印
同　縣同郡同町村同字　何番地
賃借人　氏　名印
何區裁判所宛

●遺產相續ニ付登記申請

何府縣何郡何町村大字何何番地
一宅地何反何畝何歩
此價額金何百圓
宅地何反何畝何歩
第何號
一木造瓦葺平家　一棟　建坪何坪
附屬建物　土藏二階建　一棟　建坪何坪外二階何坪
此價額金何圓
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日遺産相續
一登記ノ目的　所有權移轉ノ登記
一不動產ノ價額　金何百圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙戶籍ノ謄本相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所宛
●分筆ニ付登記申請
一分割前ノ土地　府縣郡町村字番地宅地何反何畝何歩
一分割シタル土地　府縣郡町村字番地宅地何反何畝何歩
一現在ノ土地　府縣郡町村字番地宅地何反何畝何歩
一登記原因及其日附　明治何年何月何日分割
一登記ノ目的　分筆ノ登記

一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙土地臺帳謄本及ヒ分割シタル土地ニ付抵當權者何某カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタル書面相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所宛
●土地賣買ニ付登記申請書
何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
一登記原因及ヒ其日附　明治何年何月何日附土地賣買證書
一登記ノ目的　所有權移轉ノ登記
一土地價額　金何百圓
一登錄稅　金何圓
右登記相成度別紙土地賣買證書及何某ノ權利ニ關スル登記證書相添ヘ此段申請候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
賣主　氏　名印
同　縣同郡同町村同字　何番地
買主　氏　名印
何區裁判所登記所宛
●登記濟證滅失セシ時ノ人證書

何府縣何郡何町村大字何何番地
一何々（登記ヲ受クヘキ不動產ノ表示ヲ爲スヘシ）
右ノ者明治何年何月何日前記又ハ別記不動產ニ對シ所有權移轉又ハ何權設定移轉變更ニ付登記義務者ニ相違ナキコトヲ證明候也
但保證人ハ何村地所建物何番地ニ付何年何月何日第何號ノ登記ヲ受ケタルコトアリ
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
保證人　氏　名印
〃　明治何年何月何日生
同　縣同郡同町村同字　何番地
保證人　氏　名印
明治何年何月何日生
何區裁判所宛
●登記簿抄本下付申請
一地所、建物登記簿抄本下付申請
但何郡何町村大字何何地所建物第何號地番物件符合又ハ甲乙丙丁戊己
一手數料　金何十錢
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所何登記所宛
●登記簿謄本下付申請
一地所、建物登記簿謄本下付申請
但何郡何町村大字何何地所、建物地番
一手數料金何錢
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所何出張所宛
●登記簿又ハ附屬書類閱覽申請
一地所、建物登記簿又ハ何々書類閱覽申請
但何郡何町村大字何何全部又ハ第何號中ノ物件又ハ第何番地何何ノ爲メ必要
一手數料何錢
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
申請人　氏　名印
何區裁判所宛
◎第三類　地所ニ關スル書式
●開墾屆
何府縣何郡何町村大字何何番
一原野何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
何府縣何郡何町村大字何何番
一秣場何反何畝何歩
此地價金何圓

此地租金何圓
右地所此度拙者開墾致度明治何年何月何日ヨリ着手可仕候ニ付此段御届申上候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
身分職業　氏　名印

何府縣知事氏名殿

●納租代理人届

何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
何府縣何郡何町村大字何何番
一田何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
何府縣何郡何町村大字何何番地
一宅地何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
何府縣何郡何町村大字何何番
一山林何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓

右ハ從來拙者所有ニ有之候處拙者何府縣何郡何町村大字何何番地ニ寄留罷居候ニ付何某ヲ以テ代理人ト相定メ地租地方税其他一切ノ租税公課ハ該代理人ヲ以テ上納爲致度連署ヲ以テ此段御届申上候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
身分職業
所有者　氏　名印
同　縣同郡同町村同字　何番地
身分職業
代理人　氏　名印

何府縣知事氏名殿

●土地相續ニ付臺帳書替願

何府縣何郡何町村大字何何番
一田何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
同府縣同郡同町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
同府縣同郡同町村大字何何番
一山林何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓

右ハ拙者實父何某所有ニ候處此度隱居致候ニ付拙者ニ於テ家督相續ノ結果既ニ登記モ相濟ミ候ニ付土地臺帳書替被成下度此段相願候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
身分何業何某相續人
氏　名印

何府縣知事氏名殿

●土地分筆願

何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
此分筆
何番ノ一
畑何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
何番ノ二
畑何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
何番ノ三
畑何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
右分筆御届申上候也

明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
身分何業
氏　名印

何府縣知事氏名殿

●官有地拝借願

何府縣何郡何町村大字何何番
一官有地　第何種　何坪（又ハ何町何反何畝何歩）
右ハ私此度何事業ノ爲メ來ル明治何年何月何日ヨリ向フ何箇年間拝借致度借地料ハ御指示ニ從ヒ上納可仕依テ此段奉願候也
明治何年何月何日
何府縣何郡何町村大字何何番地
身分何業
氏　名印

何府縣知事氏名殿

●土地臺帳謄本下付願

何府縣何郡何町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓
同府縣同郡同町村大字何何番
一畑何反何畝何歩
此地價金何圓
此地租金何圓

右ハ拙者所有ニ候處今般賣買契約取結上謄本必用有之候ニ付御下付被成下度手數料相添ヘ此段御願候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分何業　氏　名印

何府縣知事氏名殿

●社寺境内借地願

今般何府縣何郡何町村何神社（何寺）境内ニ於テ別紙圖面ノ通リ何坪ヲ何用（目的ヲ掲ク）ノ爲メ使用致度借地料ノ儀ハ同神社神職何某（何寺住職何某）及ヒ氏子總代（檀家總代）ト協議ヲ遂ケ何程可相納筈ニ付該地許可被成下度此段奉願候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分何業氏子總代（檀家總代）　氏　名印

同　縣同郡何　村大字何何番地

右神社神職（何寺住職）　氏　名印

何郡市長氏名殿

●分裂地土地臺帳名義書換願

何府縣何郡何町村大字何何番

一畑何反何畝何步

此地價金何圓

此分裂

同何番ノ一

畑何反何畝何步

此地價金何圓

此地租金何圓

同何番ノ二

畑何反步

此地價金何圓

此地租金何圓

同何番ノ三

畑何反何畝步

此地價金何圓

此地租金何圓

右地所分裂ノ上何番ノ一何番ノ二左記讓渡人讓受人間ニ讓渡候ニ付臺帳名義書換被成下度別紙圖面相添ヘ此段相願候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分何業　讓渡人　氏　名印

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分何業　讓受人　氏　名印

何市町村長氏名殿

●有租地免租願

何府縣何郡何町村大字何何番

一田何反何畝何步

地價金何圓

地租金何圓

右田地積年洪水ノ爲メ洗崩サレ砂地ト相成リ耕作難致ニ付地租免除被成下度此段奉願候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分何業　氏　名印

何府縣知事氏名殿

●土地合筆願

何府縣何郡何町村大字何何番

一田何反何畝何步

此地價金何圓

此地租金何圓

同府縣同郡同町村同字何番

一田何反何畝何步

此地價金何圓

此地租金何圓

此合筆（何番何番）

一田何反何畝何步

此地價金何圓

此地租金何圓

右合筆御届申上候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分何業　氏　名印

何府縣知事氏名殿

●地目變換願

何府縣何郡何町村大字何何番

一畑何反何畝何步

此地價金何圓

此地租金何圓

右地目變換候ニ付此段御届申上候也

明治何年何月何日

何府縣何郡何町村大字何何番地

身分職業　氏　名印

何府縣知事氏名殿

◎第四類　雜ノ部

●荷車檢印願（人力車荷車）

何府縣何郡市何町村大字何何番地

氏　名

一、荷車（人力車荷馬車）壹輛

右今般新調仕候御檢印被成下度此段奉願候也

明治何年何月何日

右　氏　名印

何府縣知事氏名殿

○開業屆

何府縣何郡市何町村大字何何番地

氏　名

一、何何（營業種目ヲ記ス）

但シ一箇年見積金高（收入金）何程此收益金何程（資本金何程）（何斗絞何柄）（弟子又ハ雇人何人使用）（甕何個）（網長何間）（乘組人何人）等其他何何

右營業今般開業仕候間此段御屆申上候也

明治何年何月何日

右　氏　名印

宛

●行商鑑札下附願

何府縣何郡市何町村大字何何番地

一、何行商（行商ノ種目ヲ記ス）

營業人　氏　名

何府縣何郡市何町村大字何何番地

携帶人　氏　名

右ハ來ル何日ヨリ頭書ノ行商仕候間該鑑札御下附被成下度此段奉願候也

明治何年何月何日

右　氏　名印

何郡市長氏名殿

○告訴狀

何府縣何郡市何町村大字何何番地

告訴人　氏　名

何府縣何郡市何町村大字何何番地

被告訴人　氏　名

（例）事實

一、何年何月何日何之誰ハ何何ヲ以テ何何（何何ノ害ヲ加ヘ何何等總テ犯罪ノ原因、模樣、場所又ハ之ニ用ヒタル物件等可成詳細ニ記載ノ事）

（例）證據

一、右ノ證據ハ犯罪ノ用ニ供シタル何何（之ニ用ヒタル物件アラハ其物件又ハ見知人又ハ醫師診斷書等ニ依リ證據十分ナリ等總テ犯罪ヲ證スヘキモノハ洩レナク記載スルヲ宜シトス）

右ノ事實ト證據トニ依リ刑事訴訟法第四十九條ニ依リ此段告訴仕候也

明治何年何月何日

右　氏　名印

何裁判所檢事（又ハ何警察署長）

官氏名殿

●盜難申報書

何府縣何郡市何町村大字何何番地

氏　名

一、金何圓何拾錢也

內

何圓紙幣何枚何銀貨何枚等（詳細ニ記載ノ事）

一、絹織或ハ木綿等ノ男袷或ハ女袷衣等何枚

但シ何色何縞新古物其他襟、袖口、裏又紋章等（總テ明細記載ノ事）

此見積金高何圓何拾何錢也

一、什器　何何　何個

但シ何何（明細ニ記載ノ事）

此見積金高何圓何拾何錢也

一、何　何　何程

但シ何何（明細ニ記載ノ事）

此見積金高何圓何拾何錢也

合計金何百何拾何圓何拾何錢也

右ハ何月何日午前（午後）何時頃（何個所ノ錠ヲ破リ又ハ戸ヲ外シ或ハ壁ヲ切抜キ等明細記載ノ事）盜難ニ罹リ候ニ付此段申報候也

明治何年何月何日

右　氏　名印

何警察署長氏名殿

●告發狀

何府縣何郡市何町村大字何何番地

告發人　氏　名

何府縣何郡市何町村大字何何番地

被告人　氏　名

右被告人何之誰ハ何何ノ規則ニ違反シ何何ノ罪ヲ犯シタルニ依リ左ニ其事實ヲ記載シ此段告發仕候也

一、何年何月何日被告人何之誰ハ何地ニ於テ何何ノ行爲ヲナシタリ

一、何　何等（總テ犯罪ノ事實ヲ明カニ記載ノ事）

右ノ事實ナルニ依リ刑事訴訟法第五十三條ニ依リ此段告發候也

明治何年何月何日

右　氏　名印

何裁判所檢事（又ハ何警察署長）

官氏名殿

○演劇興行願

何府縣何郡市何町村大字何何番地

氏　名

一、演劇ノ場所　何郡何町村大字何

一、演劇ノ種類　歌舞妓又ハ新演劇

一、演劇ノ日數　何月何日ヨリ何月何日迄何日間

一、木戸錢及棧敷錢　大人金何程　小人金何程　中錢金何程　棧敷金何程

右之通何月何日ヨリ興行仕度候間御許可被成下度（別紙鑑札寫及興行仕組假小屋ナルトキハ圖面及隣家承

印）相添ヘ此段奉願候也
明治何年何月何日

右
氏　名印

何警察署（所轄）長氏名殿
●興行御届
何府縣何郡市何町村大字何何番地
氏　名

一、興行ノ種類　何何興行
一、興行ノ場所　何市郡何町村大字何
一、興行ノ日數　何月何日ヨリ何月何日迄何日間
一、木戸錢及桟敷錢（大人金□錢 中錢金何程 小人金何錢 桟敷金何程）
右之通何月何日ヨリ興行仕度候間御許可被成下度（鑑札寫又ハ圖面又ハ隣地主ノ承印）相添ヘ此段奉願候也
明治何年何月何日

右
氏　名印

何警察署（所轄）長氏名殿
●遺失物御届
何府縣何郡市何町村大字何何番地
氏　名

一、金何圓也
但シ何圓紙幣又ハ何銀貨何枚等
一、何何　何個（枚）（通）
右何年何月何日午前（午後）何時頃何何地附近ニ於テ遺失仕候間此段及御届候也
明治何年何月何日

右
氏　名印

何警察署長氏名殿
●狩猟免狀下附願
何府縣何郡市何町村大字何何番地
職業　氏　名
明治何年何月何日生

一、散彈銃　壹挺
一、何何銃　壹挺
右之銃器ヲ以テ職猟（或ハ遊猟）仕度候ニ付御許可被成下度勿論御規則嚴重ニ相守リ御處分等相受申間敷候間免狀御下附相成度此段奉願候也
（登記印紙）
明治何年何月何日

右
氏　名印

何府縣知事氏名殿
●廢業御届
何府縣何郡市何町村大字何何番地
職業　氏　名
私儀兼テ何何營業仕居候處今般廢業（免許證鑑札等相添）仕候間此段及御届候也
明治何年何月何日

右

何警察署長氏名殿
●貸金支拂命令申請書（用紙美濃紙）
何府縣何郡市何町村大字何何番地
職業
債權者　氏　名
何府縣何郡市何町村大字何何番地
職業
債務者　氏　名

（収入印紙）

請求金額
一金何百何拾圓也　貸金（何年何月何日何府何某ヨリ借受何年何月何日迄期日有効拾箇月ノ約束）
一金何拾何圓也　利子（何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ）
一金何圓何拾何錢也　督促手續費用
內譯
金何拾何錢也　印紙代
金何拾何錢也　送達費用
金何拾何錢也　書記料但シ何枚分
金何圓何拾錢也　日當但シ幾日分
金何圓何拾錢也　旅費（何地ヨリ何地マテ往復何里分）
合計金何百何拾何圓何拾錢也
債務者ハ何年何月何日限リ右ノ金額ヲ辨濟スヘキ處期日ニ至ルモ辨濟ヲ爲ササルニ依リ前記金額及督促手續費用ノ辨濟ヲ債務者ニ對シ支拂命令ヲ發セラレ度此段申請候也
明治何年何月何日

何區裁判所判事氏名殿

右
債權者　氏　名印

（収入印紙）

●委任狀
拙者儀都合ニ依リ何府縣何郡市何町村大字何何番地何某ヲ以テ部理代人ト相定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
一、何府縣何郡市何町村大字何丁番地何某ニ對スル何何ノ件ニ關スル一切ノ權限
一、何何
右代理委任狀仍テ如件
明治何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
職業
氏　名印

（収入印紙）

●手附金預リ證
一金何百何拾圓也　但シ何品賣買契約手附金
右金額正ニ受取リ預申候處實正也爲後日預リ證仍如件
明治何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
預リ人　氏　名印

何氏名殿
●身元引請證書

何府縣何郡市何町村大字何何番地
族籍職業何某長男(女)(次男女又ハ弟等)
氏　名
明治何年何月何日生

右之者今般貴殿方へ商業見習ヒ(又ハ何何)ノ爲ノ差遣ハシ候ニ付テハ御家憲ヲ堅ク遵守可致ハ勿論萬一本人身上ニ關シ如何樣ノ事相生シ候トモ一切拙者ニ於テ引受ケ貴殿へ聊カタリトモ御迷惑相懸ケ不申候爲後日引請證書仍テ如件

明治何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
引請人　氏　名印

氏名殿

●雇人引請證書

何府縣何郡市何町村大字何何番地
族籍職業何某長男(女)(次男女又ハ弟等)

収入印紙

氏　名

明治何年何月何日生

右之者今般貴殿方へ農業從事(又ハ何何)ノ爲メ御雇入ニ相成候ニ就テハ左記ノ各項堅ク相守リ可申候爲後日引請人及保證人連署ヲ以テ引請證書差入申候也

一、雇役年限ハ來ル何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ滿何箇年トス

一、被雇人何某ハ雇主貴殿ノ命令ニ服從シ精勵勤務可致事

一、雇主ハ雇役年限間每年何月(夏又ハ何月(冬))ノ兩度必ス仕着セトシテ被雇人何某へ衣服(單衣、袷、綿入等)ヲ新調支給スル事

一、被雇人何某ハ如何ナル場合(何等ノ事情)アリトモ雇役年限間ハ暇乞等致間敷候事

但シ自家ノ賀儀葬祭(又ハ父母ノ罹病)又ハ公事ニ關スル場合ヲ除ク

一、被雇人何某ノ不都合又ハ雇主ノ都合ニ依リ年限內ニ於テ御解雇相成候トモ異議無之候事

一、被雇人何某病ニ罹リ何日以上ニ渉リ候節ハ引請人ニ於テ引取リ養療可爲致事

一、被雇人何某ニ於テ不都合ノ義無之ハ勿論ナレトモ萬一不都合相起リ候節ハ父兄ハ勿論引請人又ハ保證人ニ於テ悉皆引請ケ雇主貴殿へ對シ聊カ御迷惑相懸ケ申間敷事

右之通リ相違無之候也

明治何年何月何日

右被雇人　氏　名印
右父(兄)　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
引請人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
保證人　氏　名印

氏　名殿

●小作引請證書

何府縣何郡市何町村何字何番
一、田何町何反何畝何歩
此小作米何石何斗
何府縣何郡市何町村何字何番
一、畑何町何反何畝何歩
此小作金(小麥又ハ麥或ハ大豆等何石何斗)何拾圓也

貴殿御所有ノ前記田畑何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ滿何箇年間小作可仕就テハ年ノ豐凶ニ不拘前記ノ小作米小作金ハ每年何月何日ヲ限リ無相違相納可申萬一相滯リ候節ハ引請人及保證人ニ於テ引受ケ辨濟仕リ毛頭貴殿ニ御迷惑相掛ケ申間敷候爲後日小作證如件

明治何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
小作人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
引請人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
保證人　氏　名印

氏　名殿

収入印紙

●金圓借用證書

一金何百圓也　但シ年利何割何分(又ハ一箇月金何圓又ハ無利子)

右之金圓借用致候處實正也就テハ來ル何年何月何日ヲ以テ返濟ノ期ト相定メ但シ書ノ利子相加ヘ元利共屹度御返金可仕候萬一返濟ノ期日ニ至リ相滯リ候節ハ引請人又保證人ニ於テ一切引受ケ本人同樣ノ義務相果シ貴殿ニ對シ聊カタリトモ御迷惑相懸ケ申間敷候爲後日借用證書仍テ如件

明治何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
借用人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
引請人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
保證人　氏　名印

氏　名殿

収入印紙

●月賦金借用證書

一金何百圓也　但シ年利何割何分(又ハ一箇月金何圓又ハ無利子)

右之金額借用致候處實正也然ル上ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何箇月賦ト相定メ每月何日ヲ以テ金何圓宛御返金可仕候若シ一回タリトモ相滯リ候節ハ但シ書ノ利子相添ヘ一時ニ御返濟可仕萬一借用本人ニ於テ義務相盡ササルニ於テハ引請人又ハ保證人ノ吾等引受ケ屹度御返金仕リ聊カ御損耗相懸ケ申間敷候爲後日月賦借用金證仍テ如件

何府縣何郡市何町村大字何何番地

借用人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
引請人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
保證人　氏　名印

氏　名殿

收入印紙

●金圓連帶借用證書

一金何千何百圓也　但シ年利何割

拙者共儀連帶責任ヲ以テ右金圓借用仕候處確實也然ル上ハ何年何月何日ヲ以テ返金ノ期ト相定メ前記ノ利子相加ヘ無相違御返金可仕候萬一連帶借用人ノ內旅行其他如何ナル事故有之候トモ幾名ニ於テ引受ケ元利共屹度御返金連帶ノ義務相果シ聊カ御迷惑相懸ケ申間敷又返金ノ期日ニ至リ御返金不仕候節ハ相當ノ御處置相成候トモ毛頭異議無之候爲後日連帶借用證書仍テ如件

何府縣何郡市何町村大字何何番地
連帶借用人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
連帶借用人　氏　名印

氏　名殿

收入印紙

●物品賣渡證書

一、何何　何箇　此賣渡代金何百圓也
二、何何　何箇　此賣渡代金何拾圓也

書式終

一、何何　何程　此賣渡代金何圓也

右ハ拙者所有ノ處今般貴殿ニ賣渡シ前記代金正ニ受取申候處確實也就テハ右物品ニ對シ他ヨリ如何樣ノ申出テ有之候トモ必ス拙者及保證人ニ於テ一切引受ケ毛頭貴殿ヘ御迷惑相懸ケ不申候爲後日賣渡證書仍テ如件

明治何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
賣渡人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
保證人　氏　名印
何府縣何郡市何町村大字何何番地
保證人　氏　名印

●皇室會計令

陛皇室會計令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

皇室會計令

第一章　總則

第一條　會計ハ御資會計、通常會計及特別會計トス
帝室林野管理局、帝室博物館學習院及御料牧場ノ會計ハ特別會計トス

御資會計ハ之ヲ財本部及收支部ニ區分ス

第二條　會計年度ハ曆年ニ依ル
各年度歲入歲出ニ關スル出納ハ次年三月三十一日限リ之ヲ閉鎖シ其ノ事務ハ五月三十一日限リ悉皆完結スヘシ但シ帝室林野管理局會計ニ限リ出納閉鎖ノ時期ハ次年四月三十日マテトス

第三條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
一　納入期日ノ定アル收入ハ其ノ期日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ其ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

國庫ヨリ領收スル皇室費常額ハ政府當該年度ノ支出額十二分ノ九及其ノ前年度ノ支出額十二分ノ三ヲ通常會計本年度所屬ノ歲入トス

第四條　歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
一　仕拂期日ノ定アル支出ハ其ノ期日ノ屬スル年度
二　契約ニ基ック支出ハ其ノ契約ノ履行ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約履行ノ數年ニ涉ルモノニ付テハ契約ニ依リテ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
三　拂戻及缺損補塡ニ關スル支出ハ其拂戻又ハ補塡ノ確定シタル日ノ屬スル年度
四　退官賜金及死亡賜金ノ支出ハ之ヲ仕拂フヘキコトノ確定シタル日ノ屬スル年度初メテ恩給又ハ扶助料ヲ支出スル場合亦同シ
五　其ノ他ノ支出ハ仕拂ヲ爲スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度但シ兩年度ニ涉ル旅費ハ年度末日ヲ以テ區分シ鐵道賃、船賃ノ如キ通シテ仕拂フモノニシテ兩年度ニ涉ルトキハ其ノ汽車、汽船ノ目的地ニ到著シタル日マテヲ前年度ノ所屬トス

第五條　前年度以前ニ係ル出納ノ脫落又ハ過誤訂正ノ爲收支ヲ要スルトキハ其ノ脫落又ハ過誤ヲ發見シタル年度ノ歲入歲出トス

第六條　各會計ニ屬スル各年度ノ歲入歲出ハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外左ノ區分ニ依ル
一　御資會計收支部ニ在リテハ財本ヨリ生スル收入及雜收入ヲ歲入トシ財本ニ係ル經費ヲ歲出トス
通常會計ニ在リテハ國庫ヨリ領收スル皇室費、他ノ會計ヨリ移入スル收入及雜收入ヲ歲

入トシ他ノ會計ニ屬セサル一切ノ經費ヲ歲出トス

三　帝室林野管理局會計ニ在リテハ事業ノ經營ニ因リテ生スル收入及雜收入ヲ歲入トシ帝室林野管理局ニ屬スル一切ノ經費ヲ歲出トス

四　帝室博物館會計ニ在リテハ基金ヨリ生スル收入、觀覽料及雜收入ヲ歲入トシ帝室博物館ニ屬スル一切ノ經費ヲ歲出トス

五　學習院會計ニ在リテハ基金ヨリ生スル收入、授業保育等ニ係ル收入及雜收入ヲ歲入トシ學習院ニ屬スル一切ノ經費ヲ歲出トス

六　御料牧場會計ニ在リテハ事業ノ經營ニ因リテ生スル收入及雜收入ヲ歲入トシ御料牧場ニ屬スル一切ノ經費ヲ歲出トス

第七條　御料ニ屬スル財產中地金銀、登錄國債及有價證券ニシテ特別會計ニ屬セサルモノハ之ヲ御資會計ノ財本トス

地金銀ハ其ノ價格ニ依リ之ヲ計算シ登錄國債及有價證券ニシテ購入ニ係ルモノハ其ノ價格ニ依リ、引受ニ係ルモノハ拂込金額ニ依リ之ヲ計算ス

皇室財產令第十八條ノ規定ハ第一項ノ財產ニ之ヲ適用セス

第八條　現金ニシテ御資會計收支部又ハ他ノ會計ニ屬セサルモノハ之ヲ御資會計ノ財本トス

第九條　御資會計財本部ニ屬スル會計ハ別途ニ之ヲ經理スヘシ

第十條　御資會計財本部ニ屬スル現金ハ之ヲ地金銀、登錄國債若ハ有價證券ニ轉換シ又ハ銀行ニ預ケ入ルコトヲ得

第十一條　御資會計ニ於テハ豫備品資金ヲ置ク

豫備品資金ハ豫備ノ爲左ノ物件ヲ購入スル費途ニ充ツ但シ他ノ會計ノ需要ニ應シタルトキハ其ノ價格ハ資金ノ補塡ニ充ツヘシ

一　建築修繕ノ用材ニシテ容易ニ購入スルコト能ハサルモノ又ハ急需ニ應シ難キモノ

二　贈賜、供御若ハ饗宴用ノ物品又ハ外國品ニシテ急需ニ應シ難キモノ

第十二條　帝室林野管理局會計ニ於テハ林野資金ヲ置キ御料牧場會計ニ於テハ牧場資金ヲ置ク

林野資金ハ森林鐵道ノ敷設、林道、農道、耕地整理竝貯材堀及水路ノ開鑿ノ費途ニ充テ牧場資金ハ畜類購入及畜舍建設ノ費途ニ充ツ

前項ノ規定ニ依リ資金ヲ支出シタルトキハ年期ヲ定メ歲入中ヨリ補塡スヘシ

第十三條　第二條ノ資金ヨリ生スル每年ノ收入ハ豫備品資金ニ在リテハ御資會計收支部其ノ他ノ資金ニ在リテハ各本會計ニ屬スル當該年度ノ歲入トス

第十四條　帝室博物館及學習院會計ニ於テハ各基金ヲ置ク

基金ノ元資ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

第十五條　資金及基金ニ對スル會計ハ各別途ニ之ヲ經理スヘシ

第七條第二項、第三項及第十條ノ規定ハ各特別會計ニ屬スル資金及基金ノ元資ニ之ヲ準用ス

第十六條　各特別會計ニ於テハ歲入ニ先タツ歲出ニ充ツル爲資金又ハ基金ノ元資ヲ假用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ年度內ニ之ヲ償却スヘシ

第十七條　通常會計及特別會計ニ在リテハ後年度ニ繰越シ使用シ得ヘキ金額ハ之ヲ其ノ繰越シタル年度ノ歲入トス

第十八條　御資會計收支部ニ在リテハ各年度ノ歲計剩餘金ハ之ヲ財本部ニ移入スヘシ但シ次年度ニ繰越シ收支部ノ歲入ト爲スコトヲ得

年度內ニ於テ出納上剩餘金アルコト確實ナルトキハ勅裁ヲ經テ直ニ之ヲ財本部ニ移入スルコトヲ得

第十九條　通常會計ニ在リテハ各年度ノ歲計剩餘金ハ之レヲ御資會計收支部ニ移入スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ移入金ハ收支部ニ於ケル當該年度ノ歲入トス但シ次年度ニ繰越シ通常會計ノ歲入ト爲スコトヲ得

第二十條　各特別會計ニ在リテハ各年度ノ歲計剩餘金ハ之ヲ通常會計ニ移入スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ移入金ハ當該年度ノ歲入トス

第二十一條　土地ノ購入及賣拂ハ通常會計ノ主管トシ之ニ關スル收支ハ該會計ノ歲入歲出トス

第二十二條　通常會計ニ於テ歲出ニ對スル歲入ノ不足アルトキハ其ノ不足額ハ之ヲ御資會計收支部ヨリ移入スヘシ

御資會計收支部ニ於テ歲出ニ對スル歲入ノ不足アルトキハ其ノ不足額ハ勅裁ヲ經テ之ヲ財本部ヨリ移入スヘシ此ノ場合　於テハ其ノ移入額ハ收支部ニ於ケル當該年度ノ歲入トス

前二項ノ規定ニ依リ不足額ヲ移入スルトキハ支出ノ性質及目的ニ從ヒ有價證券ヲ以テスルコト得

第二十三條　各年度ノ經費ハ會計ノ區別ニ從ヒ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二十四條　各會計ニ於テ出納上ノ都合ニ依リ一時餘裕金アルトキハ之ヲ銀行ニ預ケ入ルルコトヲ得

第二十五條　賢所皇靈殿神殿ノ造營又ハ修繕及陵ノ營建修補又ハ改築ハ請負契約ニ依ルコトヲ得ス

第二十六條　請負契約及物件ノ賣買ハ特旨ニ由ル場合及本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外競爭ニ付スヘシ

第二十七條　內廷ノ會計ニ關スル規程ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二章　豫算決算

第二十八條　會計ハ御資會計財本部ニ屬スルモノヲ除クノ外其ノ區別ニ從ヒ年度每ニ各歲入歲出ノ豫算ヲ調製シテ之ヲ經理スヘシ

第二十九條　各會計ノ豫算ハ歲入歲出ノ性質及目的ニ

從ヒ之ヲ款、項、目ニ區分スヘシ但シ目ヲ設クルノ必要ナキモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

通常會計及各特別會計ノ豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ前項ノ區分ヲ設クヘシ

第三十條　通常會計及各特別會計ノ豫算ノ首部ニハ歳計ニ關スル說明ヲ附シ且前年度ノ豫算トノ比較ヲ示スヘシ

第三十一條　通常會計及各特別會計ノ豫算ニハ第一豫備金及第二豫備金ノ二項ヲ置ク

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトシ第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ各年度ノ初ニ於テ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第三十二條　特旨ニ由リ又ハ臨時ノ事件ノ爲特別ノ支出ヲ要スルトキ及豫備金ニ不足ヲ生シタルトキハ會計ノ區別ニ從ヒ追加豫算ヲ調製シテ之ヲ經理スヘシ

第三十三條　資金及基金ニ關スル豫算ハ別ニ之ヲ調製シ主管會計ノ本豫算ニ添附スヘシ但シ其ノ樣式ハ宮內大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條　豫算ヲ以テ定メタル費途ノ金額ハ他年度ニ屬スル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三十五條　豫算ヲ以テ定メタル費途ノ金額ハ其ノ目的ノ外ニ使用スルコトヲ得ス但シ項內ノ各目ニ屬スル金額ヲ被是流用スルハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及第二豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ之ヲ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第三十七條　豫算決定ノ後ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ年度開始前其ノ年度ノ豫算ニ屬スル契約ヲ爲シ又ハ經費ノ支出ヲ爲スコトヲ得

豫算決定前ト雖正當ノ事由アルトキハ勅裁ヲ經テ其ノ年度ノ豫算ニ屬スヘキ契約ヲ爲シ又ハ經費ノ支出ヲ爲スコトヲ得

第三十八條　宮內省ニ豫算委員會ヲ置キ豫算ヲ審議セシムヘシ但シ特旨ニ由ル特別ノ支出ニ係ル追加豫算ハ此ノ限ニ在ラス

豫算委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス委員長及委員ハ宮內高等官中ヨリ每年宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ命ス

第三十九條　各年度ノ豫算ハ豫算委員會ノ審議ヲ經タル後宮內大臣考定シ本豫算ハ前年十一月三十日マテニ追加豫算ハ其ノ都度之ヲ上奏スヘシ

第四十條　豫算、第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及第二豫備金ノ支出ハ帝室經濟會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第四十一條　通常會計ニ於テハ追加豫算又ハ第二豫備金支出ノ決定前ト雖特旨ニ由リ緊急ノ支出ヲ要スル場合ニ限リ繰替拂ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　數年ニ涉リテ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス

トキハ勅裁ヲ經ヘシ但シ負擔ニ屬スル每年ノ經費ハ之ヲ各年度ノ豫算ニ示スヘシ

第四十三條　決算ハ豫算ト同一ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ決算ニハ豫算ニ對スル增減ノ理由ヲ示スヘシ

第四十四條　第三十三條ノ規定ハ資金及基金ニ關スル決算ニ之ヲ準用ス

第四十五條　決算ハ之ヲ帝室會計審查局ノ審查ニ付ス但シ內廷ノ會計及機密費ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　各年度ノ決算ハ次年八月三十一日マテニ宮內大臣之ヲ帝室會計審查局ニ回付スヘシ

第四十七條　決算ハ帝室會計審查局ノ審查ヲ經タル後宮內大臣之ヲ上奏スヘシ

第四十八條　前三條ノ規定ハ御資會計財本部ノ計算ニ之ヲ準用ス

第三章　收入支出

第四十九條　收入金ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外納入告知書又ハ納付書ニ依リ之ヲ納入セシム

納入告知書ハ納入者ニ對シテ之ヲ發シ納付書ハ之ヲ納入者ニ交付ス

第五十條　納入告知書ヲ發シ又ハ納付書ヲ交付シタルトキハ納入者ヲシテ之ニ現金ヲ添ヘ指定ノ金庫又ハ主任官吏ニ納入セシムヘシ

第五十一條　前條ノ規定ニ依リ主任官吏ニ於テ納入金ヲ領收シタルトキハ之ニ拂込書ヲ添附シ金庫ニ回送スヘシ

前項ノ規定ハ收入ノ性質又ハ地方ノ狀況ニ依リ納入告知書又ハ納付書ニ依ラス主任官吏ヲシテ直ニ納入金ヲ領收セシメタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　納入金ヲ領收シタルトキハ納入者ニ對シテ領收證ヲ交付スヘシ但シ收入ノ性質ニ依リ領收證ヲ交付スル必要ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

領收證ハ收入ノ性質ニ依リ內藏頭主任官吏又ハ金庫之ヲ發ス

第五十三條　現金ノ支出ハ金庫ニ對シ仕拂命令ヲ發シテ之ヲ爲サシムヘシ

第五十四條　仕拂ヲ受クヘキ者ニ仕拂命令ヲ交付シタルトキハ指定ノ金庫ニ對シテ案內仕拂命令ヲ發スヘシ

第五十五條　仕拂ヲ受クヘキ者ニ仕拂命令ヲ交付シタルトキハ領收證ヲ徵スヘシ但シ領收證ヲ徵スルコト能ハサルトキハ主任官吏ニ於テ仕拂證明書ヲ作リ之ニ代フルコトヲ得

第五十六條　集合仕拂命令ヲ發シ又ハ金庫所在地外ニ在ル者ニ仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ金庫ニ仕拂命令ヲ送付シ仕拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五十七條　仕拂命令ヲ毀損シタルトキハ案內仕拂命令ニ照合シ難キ場合ニ限リ受取人ノ請求ニ依リ更ニ仕拂命令ヲ發シテ交換スヘシ

第五十八條　仕拂命令ヲ亡失シタルトキハ現金ノ仕拂未濟ナル場合ニ限リ受取人ノ請求ニ依リ更ニ仕拂命

令ヲ發シテ之ヲ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ仕拂命令ヲ交付シタルトキハ原仕拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五十九條　左ノ經費ニ限リ前拂ヲ爲スコトヲ得

一　外國ニ出張ヲ命シタル者ニ支給スル俸給又ハ手當

二　外國ニ留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金又ハ手當

三　前拂ヲ爲スニ非サレハ契約シ難キモノニ係ル經費

第六十條　左ノ經費ニ限リ官吏ヲシテ仕拂ヲ爲サシムル爲其ノ官吏ニ前渡ヲ爲スコトヲ得

一　行幸啓先ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

二　特旨ニ由リ差遣セラレタル地方ニ於テ下賜ノ爲要スル經費

三　外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

四　出張先ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

五　運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

六　事業上派出先ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六十一條　左ノ經費ニ限リ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費

二　訴訟費用

三　公證人費用

四　執達吏費用

五　伐木事業ニ從事スル職員及人夫ニ支給スル手當及給料

第六十二條　前三條ノ規定ニ依リ前拂、前渡又ハ概算拂ヲ爲シ得ヘキ金額ハ左ノ制限ニ依ル

一　第五十九條第一號及第二號ニ該當スル經費ハ其ノ給額六箇月以內ノ金額、第三號ニ該當スル經費ハ契約ニ依ル一定ノ金額

二　第六十條第一號乃至第四號ニ該當スル經費ハ其ノ見積金額、第五號ニ該當スル經費ハ其ノ所要ヲ計リ三箇月分以內ノ金額、第六號ニ該當スル經費ハ其ノ所要ヲ計リ一主任官ニ對シ伐木事業ニ供スルモノハ五千圓以內其ノ他ハ五百圓以內ノ金額

三　前條第一號乃至第四號ニ該當スル經費ハ其ノ見積金額第五號ニ該當スル經費ハ一箇月以內ノ見積金額

第六十三條　第五十九條及第六十條ノ規定ニ依リ前拂又ハ前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外同一人ニ對シ更ニ前拂又ハ前渡ヲ爲スコトヲ得ス

一　前拂シタル俸給、手當又ハ學資金ノ月割數ニ應シ其ノ三分ノ二以上ノ時日ヲ經過シタルトキ

二　前渡シタル金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但シ仕拂未濟ノ金額ト更ニ前渡スヘキ金額ト合シテ前條第二號ノ制限金額ヲ超ユルコトヲ得ス

三　前渡シタル金額制限未滿ナルトキハ更ニ前渡スヘキ金額ト合シテ前條第二號ノ制限金額ヲ超エサルトキ

第六十四條　請負金又ハ物件購入代金ニシテ特別ノ事由アルトキハ左ノ區分ニ從ヒ前拂ヲ爲スコトヲ得

一　請負金又ハ物件購入代金ニ付テハ竣功又ハ皆納ニ至ラサルモ既成ノ部分又ハ既納ノ數量ニ對シ其ノ十分ノ七ニ該當スル金額

二　物品ノ製造ニシテ特ニ請負人ヲ選ヒテ請負ハシムル場合ニ於テハ請負金ノ一部又ハ全部ニ該當スル金額

三　官署、公共團體又ハ他ノ會計ヨリ購入スル物件ノ代金ニ付テハ其ノ全額

第六十五條　仕拂ヲ爲スヘキ金額ニシテ其ノ仕拂ヲ爲スヘキ年ヲ經過シタル後五年內ニ仕拂ノ請求又ハ現金引換ノ請求ナキトキハ其ノ債權ハ時效ニ因リテ消滅ス其ノ請求ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第六十六條　納入セシムヘキ金額ニシテ其ノ納入セシムヘキ年ヲ經過シタル後五年內ニ納入ノ催告ヲ爲ササルトキハ其ノ債權ハ時效ニ因リテ消滅ス其ノ催告ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第六十七條　前二條ノ規定ニ拘ラス皇室財產令ニ於テ準用スル民法及商法ノ規定ニ基ツキ五年ヨリ短キ時效ニ因リテ消滅スヘキ債權ニシテ金錢ヲ目的トスルモノハ其ノ規定ニ依ル

第六十八條　各年度ニ於テ發シタル仕拂命令ニシテ歲入歲出ニ關スル出納閉鎖ノ日マテニ現金引換ノ請求ナキトキハ其ノ仕拂命令ニ記載シタル金額ニ相當スル資金ハ內藏寮ニ於テ之ヲ整理スヘシ

第六十九條　前條ノ資金中時效ニ因リテ消滅シタル債權アルトキハ之ニ該當スル金額ハ時效ノ完成シタル年度ノ收入トス

第七十條　一年度內ニ完了スヘキ工事、製造其ノ他ノ事業ニ係ル臨時ノ費途ニシテ其ノ年度內ニ支出ヲ了スルコト能ハサル事由アルトキハ仕拂殘額ヲ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得一年度內ニ完了スヘキ運材事業ニ係ル費途ニ付キ亦同シ

第七十一條　數年度ヲ期シテ竣功スヘキ工事、製造其ノ他ノ事業ニ係ル臨時ノ費途ニシテ總額ヲ定メタル繼續費ハ各年度仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終マテ遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第七十二條　收入金及仕拂金ニ付テハ一錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ分納又ハ分割仕拂ノ場合亦同シ

第七十三條　御資會計收支部ニ於テハ出納上ノ都合ニ依リ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ帝室經濟會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第七十四條　通常會計及特別會計ニ於テ貸付金ヲ爲ストキハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外勅裁ヲ經ヘシ

第七十五條　各會計ニ於テハ相互ノ間ニ一時繰替貸借ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第七十六條　仕拂命令、納入告知書及納付書ヲ發スル官吏ハ宮内大臣之ヲ定ム

第四章　隨意契約

第七十七條　請負契約及物品ノ賣買ハ左ニ揭ケタル場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　行幸啓先ニ於テ工事ヲ請負ハシメ又ハ物品ヲ購入スルトキ

二　慈恵其ノ他公益上ノ必要ニ基ツキ又ハ技術奬勵ノ爲物品ノ製作ヲ請負ハシメ又ハ之ヲ購入スルトキ

三　有價證券又ハ地金銀ヲ購入シ又ハ賣拂フトキ

四　特別ノ技術家ニ非サレハ製作シ得ヘカラサル物品ノ製作ヲ其ノ技術家ニ請負ハシメ又ハ其ノ技術家ヨリ之ヲ購入スルトキ

五　非常急遽ノ際事業ヲ請負ハシメ又ハ物品ノ購入ヲ要スルニ當リ競爭ニ付スル遑ナキトキ

六　既ニ請負ヲ爲サシメタル事業ニ附隨シタル事業ヲ請負ハシムルトキ

七　外國ヨリ物品ヲ購入スルトキ

八　特種ノ物質ヲ要シ又ハ特別使用ノ目的アルニ因リ生產製造ノ場所又ハ生產者製造者ヨリ物品ノ購入ヲ要スルトキ

九　特許品ヲ購入スルトキ

十　品質ヲ檢定シテ物品ヲ購入スルトキ

十一　見積價格千圓ヲ超エサル事業ヲ請負ハシムルトキ

十二　見積價格千圓ヲ超エサル物品ヲ賣買スルトキ

十三　特種ノ事業ニシテ請負人ヲ選ヒ請負ハシムルコトヲ要スルトキ

十四　運送ヲ請負ハシムルトキ

十五　直營事業ニ要スル職工人夫ノ雇傭ヲ請負ハシムルトキ

十六　地方ノ狀況ニ依リ事業ノ請負又ハ物品ノ賣買ヲ競爭ニ付シ難キトキ

十七　一人又ハ一會社ノ專有スル物品ヲ購入スルトキ

十八　試驗ノ爲物品ノ製作ヲ請負ハシメ又ハ物品ヲ購入スルトキ

十九　請負ヲ爲サシメタル事業ノ爲必要ナル材料ヲ其ノ請負人ニ賣拂フトキ

二十　建築其ノ他特種ノ用ニ供スヘキ土石又ハ埋木ヲ發見シタル者ニ其ノ土石又ハ埋木ヲ賣拂フトキ

二十一　朝鮮臺灣及樺太ニ於テ事業ヲ請負ハシメ又ハ千五百圓ヲ超エサル物品ヲ賣買スルトキ

二十二　競爭ニ付シタルモ競爭者ナキトキ

二十三　競爭價格豫定價格ニ達セサルトキ

第七十八條　土地建物ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第七十九條　土地建物ノ賣拂ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二　殉難者、功臣、節義者ヲ表彰スル建造物ノ敷地ニ充ツルトキ

三　民有地、道路、河川等ノ間ニ介在スル一町歩以内ノ土地ヲ賣拂フトキ

四　道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル土地ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

五　特別ノ緣故アル土地建物ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ

六　見積價格千圓ヲ超エサル土地建物ヲ賣拂フトキ

七　競爭ニ付シタルモ競爭者ナキトキ

八　競爭價格豫定價格ニ達セサルトキ

第八十條　皇族ヨリ土地建物其ノ他ノ物件ヲ購入シ又ハ皇族ニ之ヲ賣拂フトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

官署、公署及公共團體ニ付キ亦同シ

前項ノ規定ハ各會計ノ間ニ於ケル物品ノ賣買ニ之ヲ準用ス

第八十一條　土地ノ產物、貯材及生產品ノ賣拂ニシテ隨時契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第五章　金庫

第八十二條　現金ノ出納保管ヲ取扱ハシムル爲宮内省本金庫ヲ置ク但シ必要アルトキハ支金庫ヲ置クコトヲ得

本金庫ハ支金庫ヲ統轄スルモノトス

第八十三條　金庫ノ事務ハ特定ノ銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第八十四條　金庫ハ内藏頭之ヲ管理ス

第八十五條　金庫ノ位置ハ宮内大臣之ヲ告示ス

第六項　出納官吏

第八十六條　出納官吏トアルハ現金、地金銀及有價證券ノ出納ヲ掌ル官吏竝現金前渡ヲ受タル官吏ヲ謂フ

第八十七條　出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル事務ニ付キ自身ニ其ノ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ宮内大臣ニ於テ特ニ代理官ヲ定メタルトキ其ノ代理官ノ所爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條　出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル事務ニ付キ帝室會計審查局ノ審查判決ヲ受クヘシ

第八十九條　宮内大臣ハ出納官吏ノ所爲ニ因リ損失ヲ生シタリト認メタル場合ニ於テハ帝室會計審查局ノ判決前ト雖其ノ出納官吏ニ辨償ヲ命スルコトヲ得

第九十條　前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作リ證憑書類ヲ添ヘ宮内大臣ヲ經由シテ之ヲ帝室會計審查局ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

宮内大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

帝室會計審査局ニ於テ其ノ出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ宮内大臣ハ直ニ既納ノ辨償金ヲ還付スヘシ

第九十一條　出納官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ保管スル所ノ現金、地金銀又ハ有價證券ヲ紛失シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ク得ヘカラサリシ事實ヲ帝室會計審査局ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第九十二條　宮内大臣ハ定時又ハ臨時ニ檢査員ヲ命シ出納官吏ノ保管スル帳簿及現金ヲ檢査セシムヘシ

前項ノ檢査ヲ執行スルニ當リ主任ノ出納官吏事故ニ依リ自身檢査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理官又ハ宮内大臣ノ特ニ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ出納官吏ノ交替及死亡ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十三條　本章ノ規定ハ出納官吏ノ代理官ニ之ヲ準用ス

附　則

第九十四條　本令ハ明治四十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十六年度ノ豫算ニ關シテハ本令施行前ニ在リテモ仍本令ノ規定ヲ適用ス

第九十五條　帝室博物館會計及學習院會計ハ當分ノ內通常會計ヨリ其ノ歲入ノ補足ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常會計ヨリ移入スル收入ハ其ノ會計ニ於ケル當該年度ノ歲入トス

第九十六條　從前特別會計トシテ分置シタル皇族家世襲財產準備金及御料部資本金ハ本令施行ノ際之ヲ御資會計本部ニ移入スヘシ

第九十七條　本令ニ依ル資金及基金ノ原額ハ別ニ之ヲ勅定ス

林野資金、帝室博物館基金、學習院基金及御料牧場資金ノ原額ハ本令施行ノ際從前ノ御資部ヨリ各主管ノ會計ニ移入スヘシ但シ出納上ノ都合ニ依リ分割シテ通常會計ヨリ移入スルコトヲ妨ケス

第九十八條　從前ノ學事基本金ハ學習院基金ノ原額ノ內ニ加ヘ從前學習院會計、帝室博物館會計及御料牧場會計ニ於テ積立タル豫備資ハ各其ノ會計ニ屬スル基金又ハ資金ノ原額ノ內ニ加フ

第九十九條　帝室博物館會計及學習院會計ニ於ケル各年度ノ剩餘金ハ當分ノ內各其ノ會計ニ屬スル基金ノ元資ニ組入レ又ハ次年度ニ繰越シ其ノ會計ノ歲入ト爲スコトヲ得

第百條　從前ノ社寺上地御料林野特賣規程及御料地拂下規程ハ本令施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

第百一條　本令施行前ノ債權ニ係ル時效ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百二條　本令施行前ニ發シタル仕拂切符及案內切符ハ各本令ノ仕拂命令又ハ案內仕拂命令ト看做ス

○皇室會計令施行規則（明治四五年七月宮內省令第六號）

皇室會計令施行規則左ノ通定ム

皇室會計令施行規則

第一章　總則

第一條　御資會計及通常會計ノ事務ハ內藏頭之ヲ掌理シ特別會計ノ事務ハ各主管部局長官之ヲ掌理ス

第二條　通常會計及特別會計ニ在リテハ主管部局長官ノ分任官又ハ其ノ代理官ヲ置ク

各主管部局長官ノ部下ニ屬スル分任官ノ代理官ハ其ノ長官之ヲ命ス

第三條　宮內大臣分任官ヲ命シタルトキハ其ノ旨及分任事務ヲ當該主管部局長官、內藏頭及帝室會計審査局長官ニ令達スヘシ

內藏頭前項ノ令達ヲ受ケタルトキハ分任官ノ官氏名及金庫ト關係アル分任事務ヲ本金庫ニ通達スヘシ

前二項ノ規定ハ分任官ノ交替及死亡ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條　主管部局長官分任官ノ代理官ヲ命シタルトキハ其ノ旨及代理事務ヲ內藏頭及帝室會計審査局長官ニ通牒スヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　各主管部局長官又ハ分任官ノ部下ニ屬スル出納官吏及其ノ代理官ハ其ノ長官又ハ分任官之ヲ命ス

第六條　第三條ノ規定ハ宮內大臣、分任官ノ代理官、出納官吏又ハ其ノ代理官ヲ命シタル場合ニ之ヲ準用シ第四條ノ規定ハ主管部局長官又ハ分任官、出納官吏又ハ其ノ代理官ヲ命シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　會計ノ事務ハ皇室會計令及本令ニ別段ノ定アルモノノ竝常規ニ依リ難キモノヲ除クノ外主管部局長官又ハ分任官之ヲ專決ス但シ常規ニ依リ難キモノニ付ラハ主管部局長官ハ宮內大臣ニ上申シテ其ノ指揮ヲ受クヘシ

主管部局長官ハ前項ノ規定ニ拘ラス宮內大臣ノ認可ヲ經テ分任官ノ專決スヘキ事項ニ制限ヲ加フルコトヲ得

第八條　內藏頭ハ各特別會計ノ主管部局長官又ハ分任官ニ對シ何時ニテモ其ノ主管ニ屬スル會計ノ現況ニ付キ報告ヲ求メ又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第九條　宮內大臣ニ提出スヘキ書類ニシテ會計ニ屬スルモノハ主管部局長官又ハ分任官豫メ內藏頭ニ合議シ宮內大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ハ之ヲ內藏頭ニ通牒スヘシ

主管部局長官ノ部下ニ屬スル分任官ニ係ルモノニ付テハ前項ノ手續ハ當該主管部局長官ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十條　會計處務規程、出納官吏專務規程及金庫事務規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　財本、資金、基金

第十一條　財本、資金及基金ノ保管出納ハ內藏頭ノ主管トス

第十二條　地金銀及有價證券ノ保管出納ハ專任ノ出納官吏ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

第十三條　內藏頭ハ金庫又ハ宮內大臣ノ指定シタル銀行ニ非サレハ地金銀若ハ有價證券ヲ保護預ケト爲シ又ハ現金ヲ預ケ入ルルコトヲ得ス

第十四條　內藏頭ハ宮內大臣ノ命令ニ依ルニ非サレハ地金銀、登錄國債及有價證券ノ引受、購入、賣拂又ハ轉換ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　皇室會計令第十八條第一項但書ノ規定ニ依リ次年度ニ繰越スヘキ金額ハ宮內大臣ノ認可ヲ經テ內藏頭之ヲ定ム

第十六條　年度內ニ於テ收支部ノ出納上剩餘金アルコト確實ナリト認メタルトキハ內藏頭ハ出納ノ狀況ヲ具シ財本部ニ移入スルコトヲ得ヘキ金額ヲ豫定シテ宮內大臣ニ上申スヘシ宮內大臣勅裁ヲ經タル時ハ其ノ旨ヲ內藏頭ニ令達スヘシ

第十七條　內藏頭第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ令達ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ帝室會計審查局長官ニ通牒スヘシ

第十八條　特別會計ニ屬スル資金又ハ基金ヨリ生スル收入アリタルトキハ內藏頭ハ其ノ都度收入ノ事由及金額ヲ當該主管部局長官ニ通牒スヘシ

前項ノ規定ハ宮內大臣ノ命令ニ依リ登錄國債又ハ有價證券ノ引受、購入、賣拂又ハ轉換ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　各特別會計ノ主管部局長官ハ內藏頭ニ對シ何時ニテモ其ノ主管ニ屬スル資金又ハ基金ノ現況ニ付キ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二十條　各特別會計ノ主管部局長官皇室會計令第十六條ノ規定ニ依リ資金又ハ基金ノ元資ヲ假用セムトスルトキハ其ノ事由及金額ヲ具シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主管部局長官前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ帝室會計審查局長官ニ通牒スヘシ

第二十一條　主管部局長官假用ノ金額ヲ償却シタルトキハ內藏頭ハ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ上申シ且帝室會計審查局長官ニ通牒スヘシ

第二十二條　豫備品資金ハ豫備用材ト豫備用品トニ區別シテ之ヲ經理スヘシ豫備品資金ヲ以テ購入シタル物件ノ價格ハ購入價格、運送賃、保險料、加工費、倉敷料等ヲ合シテ之ヲ計算ス

第二十三條　皇室會計令第十二條第二項ノ規定ニ依リ資金ヲ支出セムトスルトキハ當該會計ノ豫算ニ其ノ金額ヲ計上スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ補塡ノ年度割豫定書ヲ豫算ニ添附スヘシ

第二十四條　前條ノ規定ニ依リ支出シタル資金ノ補塡ニ付テハ年度割豫定書ニ基ツキ當該會計ノ豫算ニ其

ノ金額ヲ計上スヘシ

前項ノ場合ニ於テ年度割豫定書ニ基ツキ難キ事由アルトキハ其ノ事由ヲ具シタル書類ヲ豫算ニ添附スヘシ

第二十五條　地金銀、登錄國債及有價證券ノ賣拂、轉換其ノ他異動アリタル場合ニ於テ皇室會計令第七條第二項又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ增減ヲ生シタルトキハ其ノ差額ハ財本ニ付テハ財本部、資金及基金ニ付テハ各其ノ損益計算トス

資金又ハ基金ニ付キ差益ヲ生シタルトキハ其ノ差益金ハ之ヲ原額ニ組入レ差損ヲ生シタル場合ニ於テ資金又ハ基金ノ元資原額以下ニ下リタルトキハ其ノ不足額ハ通常會計ヨリ之ヲ補塡スヘシ

第十八條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　前條ノ規定ハ豫備品資金ヲ以テ購入シタル物件又ハ其ノ價格ニ異動アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　豫算、決算

第二十七條　內藏頭ハ每年度御資會計收支部、通常會計及各特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ前年十月三十一日マテニ宮內大臣ニ提出スヘシ資金及基金ニ關スル豫算ニ付キ亦同シ

第二十八條　歲入歲出ノ豫算中經常部ニ於ケル款、項、目ノ區分ハ別ニ之ヲ定ム

歲入歲出ノ豫算中臨時部ニ於ケル款、項、目ノ區分ハ豫算ト共ニ之ヲ定ム

第二十九條　各特別會計ノ主管部局長官ハ每年度其ノ主管ニ屬スル歲入歲出ノ豫定計算書ヲ調製シ前年八月三十一日マテニ之ヲ內藏頭ニ回付スヘシ

前項ノ期限ハ帝室林野管理局會計ニ付テハ前年九月十五日マテトス

第三十條　分任官ハ每年度其ノ主管ニ屬スル歲入歲出ノ豫定計算書ヲ調製シ前年七月十日マテニ當該會計ノ主管部局長官ニ之ヲ回付スヘシ

前項ノ期限ハ帝室林野管理局長ノ部下ニ屬スル分任官ニ付テハ前年七月三十一日マテトス

第三十一條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ經常臨時共ニ款、項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由及計算ノ基ツク所ヲ示スヘシ

第三十二條　前五條ノ規定ハ期限ニ關スルモノヲ除クノ外追加豫算ニ之ヲ準用ス

第三十三條　內藏頭ヨリ豫算ヲ提出シタルトキハ宮內大臣ハ直ニ之ヲ豫算委員會ノ審議ニ付ス

第三十四條　豫算委員ノ任期ハ十月一日ヨリ次年九月三十日マテトス

第三十五條　豫算委員會ハ委員長之ヲ招集ス

第三十六條　豫算委員會ハ委員過半數ノ出席アルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十七條　豫算委員會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ

以テ之ヲ決ス可否同數ナル場合ニ於テハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第三十八條　豫算委員會ハ豫算ノ款、項ノ金額ニ付キ議決ヲ爲ス但シ其ノ金額ヲ增加スルコトヲ得ス

第三十九條　豫算委員會ハ本豫算ニ付テハ十五日以內追加豫算ニ付テハ五日以內ニ之ヲ議決スヘシ緊急ヲ要スル追加豫算ニ付テハ宮內大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス別ニ期間ヲ定メ審議ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第四十條　內藏頭ハ豫算委員會ニ出席シテ豫算ニ付キ說明ヲ爲スヘシ

各特別會計ノ主管部局長官ハ豫算委員會ノ請求ニ依リ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十一條　豫算委員會ニ幹事一人書記二人ヲ置ク

幹事ハ宮內奏任官、書記ハ宮內判任官中ヨリ宮內大臣之ヲ命ス

第四十二條　幹事ハ豫算委員會ノ庶務ヲ掌ル

書記ハ豫算委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十三條　豫算委員會ニ關シ必要ナル規程ハ其ノ會ニ於テ議定シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條　豫算ノ勅裁アリタルトキハ宮內大臣ハ之ヲ內藏頭及帝室會計審查局長官ニ令達スヘシ

第四十五條　內藏頭前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ各特別會計ノ主管部局長官ニ其ノ主管ニ屬スル豫算ヲ通牒スヘシ

第四十六條　主管部局長官ハ分任官ノ分任事務ニ屬スル豫算金額ヲ當該分任官及帝室會計審查局長官ニ通牒スヘシ其ノ金額ヲ更定シタルトキ亦同シ

各特別會計ノ主管部局長官ハ前項ノ規定ニ依ルノ外內藏頭ニ通牒スヘシ

第四十七條　主管部局長官ハ豫算定額ニ基ツキ年度開始前月別仕拂豫定書ヲ調製シ其ノ分任官ノ主管ニ屬スルモノニ付テハ各別ニ仕拂豫定書ヲ調製スヘシ

各特別會計ノ主管部局長官ハ年度開始前ニ前項ノ仕拂豫定書ヲ內藏頭ニ回付スヘシ

第四十八條　前條ノ規定ハ期限ニ關スルモノヲ除クノ外追加豫算ニ之ヲ準用ス仕拂豫定書ノ更定ニ付キ亦同シ

第四十九條　仕拂豫定書及更定書ハ內藏頭ニ於テ之ヲ本金庫ニ令達スヘシ

第五十條　主管部局長官歲出豫算中目ノ金額ヲ流用セムトスルトキハ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主管部局長官前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ帝室會計審查局長官ニ通牒スヘシ

第五十一條　主管部局長官又ハ分任官ハ每月收入支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月中ニ之ヲ帝室會計審查局長官ニ回付スヘシ主管部局長官ノ部下ニ屬スル分任官計算書ヲ回付スルトキハ其ノ主管部局長官ヲ經由スヘシ

第五十二條　出納官吏ハ每月其ノ出納ノ計算書ヲ調製

シ證憑書類ヲ添ヘ翌月中ニ其ノ所屬部局長官又ハ分任官ヲ經由シテ之ヲ帝室會計審查局長官ニ回付スヘシ主管部局長官ノ部下ニ屬スル分任官ヲ經由スル場合ニ於テハ更ニ其ノ主管部局長官ヲ經由スヘシ

第五十三條　內藏頭ハ每年度御資會計收支部、通常會計及各特別會計ノ歲入歲出決算ヲ調製シ次年八月十五日マテニ宮內大臣ニ提出スヘシ御資會計財本部ノ計算竝資金及基金ニ關スル決算ニ付キ亦同シ

第五十四條　各特別會計ノ主管部局長官ハ每年度其ノ主管ニ屬スル歲入歲出ノ決算報告書ヲ調製シ次年六月三十日マテニ之ヲ內藏頭ニ回付スヘシ

第五十五條　分任官ハ每年度其ノ主管ニ屬スル歲入歲出ノ決算報告書ヲ調製シ次年五月三十一日マテニ當該會計ノ主管部局長官ニ之ヲ回付スヘシ

第五十六條　決算及御資會計財本部ノ計算ノ勅裁アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨ヲ內藏頭及帝室會計審查局長官ニ令達スヘシ

第五十七條　內藏頭前條ノ令達ヲ受ケクルトキハ決算ノ勅裁アリタル旨ヲ分任官及各特別會計ノ主管部局長官ニ通牒スヘシ

各特別會計ノ主管部局長官前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ部下ニ屬スル分任官ニ通牒スヘシ

第五十八條　歲入歲出ノ豫定計算書、仕拂豫定書、收入支出ノ計算書、出納計算書及歲入歲出ノ決算報告書ノ樣式竝之ニ添附スヘキ書類ハ別ニ之ヲ定ム

第四章　收入、支出

第五十九條　仕拂命令、納入告知書及納付書ハ主管部局長官又ハ分任官之ヲ發ス

納入告知書及納付書ハ分任官ノ代理官モ亦之ヲ發スルコトヲ得

第六十條　收入金ニシテ納期アルモノハ其ノ十日前、納期ナキモノハ隨時納期ヲ定メ納入者ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ

第六十一條　納入告知書ヲ發セサル納入者ヨリ納金ノ申出アリタル時ハ納付書ヲ交付シテ納入セシムヘシ

第六十二條　納入告知書ヲ發セス又ハ納付書ヲ交付セサル場合ニ於テ主任官吏現金ヲ領收シタルトキハ其ノ證明書ヲ作ルヘシ

第六十三條　領收證ハ現金ヲ領收シタル官吏又ハ金庫之ヲ發スヘシ

第六十四條　仕拂命令ハ左ノ事項ニ付キ調查ヲ遂ケ正確ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス

一　支出金ハ正當ニシテ且金額ニ誤ナキヤ

二　當該科目ノ豫算ニ超過スルコトナキヤ

三　支出科目及所屬年度ニ誤ナキヤ

四　豫算ヲ以テ定メタル目的ニ違フコトナキヤ

第六十五條　金庫所在地外ニ在ル者又ハ仕拂命令ニ指定シタル金庫以外ノ金庫所在地ニ在ル者ニ對シ仕拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ仕拂命令ノ裏面ニ送金拂又ハ振替拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シテ之ヲ當該金庫ニ交

付シ仕拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六十六條　同一科目ニシテ數人ニ對シ仕拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ金庫ニ對シ集合仕拂命令ヲ交付シ仕拂ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得

集合仕拂命令ハ送金拂、振替拂及金庫所在地拂ノ區別ニ依リ各別ニ之ヲ發シ金額氏名表ヲ添附スヘシ

第六十七條　前二條ノ規定ニ依リ仕拂命令ヲ金庫ニ交付シタルトキハ別ニ仕拂通知書ヲ各受取人ニ交付又ハ送付スヘシ

第六十八條　仕拂命令又ハ仕拂通知書ニ依リ金庫ヨリ現金ヲ受取ルヘキ期間ハ仕拂命令又ハ仕拂通知書ヲ發シタル日ヨリ三十日以內トス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ受取人ノ請求ニ依リ其ノ事由ヲ審明シ再交付ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ニ發シタル仕拂命令又ハ仕拂通知書ハ之ヲ返付セシムヘシ

第六十九條　左ノ場合ニ於テハ金庫ハ仕拂ヲ拒ムヘシ

一　案內仕拂命令又ハ集合仕拂命令到達セサルトキ

二　仕拂命令ト案內仕拂命令又ハ金額氏名表ト仕拂通知書ト符合セサルトキ

三　仕拂命令又ハ仕拂通知書毀損シ案內仕拂命令又ハ金額氏名表ニ照合シ難キトキ

第七十條　皇室會計令第五十七條及第五十八條ノ規定ハ仕拂通知書ヲ毀損又ハ亡失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條　前拂、前渡又ハ概算拂ヲ爲シタル場合ニ於テ返納金アリタルトキハ其ノ金額ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルヘシ

繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ返納金アリタルトキハ其ノ繰替ヲ爲シタル會計ニ戻入ルヘシ

第七十二條　過誤納金ノ下戻及過誤拂金ノ返納ハ出納閉鎖前ニ在リテハ當該科目ニ於テ之ヲ整理スヘシ

第七十三條　過誤納金ノ下戻及過誤拂金ノ返納ハ出納閉鎖後ニ在リテハ現年度ノ歲入歲出トス

前項ノ規定ハ豫算外ノ收入ニ之ヲ準用ス

第七十四條　現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ其ノ仕拂ヲ爲スヘキ地方ニ金庫アルトキハ其ノ金庫ニ現金ノ保管ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ現金ノ保管ヲ委託シタル場合ニ於テハ其ノ保管金ノ引出ハ保管ノ委託ヲ爲シタル官吏金庫ニ對シ引出切符ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第七十五條　主管部局長官第一豫備金ノ支出ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ事由及計算書ヲ具シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十六條　第四十六條乃至第四十九條及第五十條第二項ノ規定ハ第一豫備金支出ノ認可アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十七條　皇室會計令第五十七條及第五十八條ノ規定ハ仕拂通知書ヲ具シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十八條　第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨ヲ內藏頭、當該主管部局長官及帝室會計審查局長官ニ令達スヘシ

第七十九條　第四十六條乃至第四十九條ノ規定ハ第二豫備金支出ノ勅裁アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十條　金庫保管中ノ現金ヲ銀行ニ預ケ入レ又ハ預金ノ引戻ヲ要スルコトアルトキハ內藏頭ハ本金庫ニ對シ預ケ入レ又ハ引戻ヲ令達シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第八十一條　本令ノ規定ニ依リ入札保證金又ハ契約保證金ヲ收得シタルトキハ其ノ收得シタル金額ハ當該會計ニ於ケル現年度ノ收入トス

第八十二條　皇室會計令第六十九條ノ規定ニ依リ收入トナリタル金額及本令ノ規定ニ依リ收得シタル入札保證金又ハ契約保證金ニ付テハ主管部局長官又ハ分任官ハ金庫保管金中之ニ對スル金額ノ振替ヲ內藏頭ニ請求スヘシ

第八十三條　過年度ノ收支ハ發見年度ノ相當科目ニ依リ之ヲ整理スヘシ但シ相當科目ナキトキハ收入ハ雜收入、支出ハ雜出ニ立ツヘシ

第八十四條　貸付金ニ付テハ其ノ貸付ハ當該年度ノ仕拂トシ其ノ返納ハ當該年度ノ收入トス

第八十五條　主管部局長官皇室會計令第七十條及第七十一條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ必要ト認メタルトキハ次年三月三十一日マテニ繰越計算書ヲ調製シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十六條　皇室會計令第三十七條第一項ノ規定ニ依リ年度開始前其ノ年度ノ豫算ニ屬スル契約ヲ爲シ又ハ經費ノ支出ヲ爲サムトスルトキハ主管部局長官ハ其ノ事由及金額ヲ具シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十七條　繰越計算書ハ歲出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ且之ニ左ノ事項ヲ示スヘシ

一　繰越ヲ要スル科目ノ豫算額

二　既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

三　次年度ニ繰越ヲ要スル額

四　繰越ヲ要スル科目ノ豫算額中不用ニ歸スヘキ額

第八十八條　皇室會計令第七十條ノ規定ニ依リ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ次年度ニ繰越サムトスルトキハ繰越計算書ニ各事件每ニ竣功遲延ノ事由ヲ示シ其ノ請負ニ係ルモノハ請負人ノ氏名住所及職業ヲ示シ且契約書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八十九條　第四十六條乃至第四十九條ノ規定ハ繰越ノ認可アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十條　皇室會計令第三十七條第一項ノ規定ニ依リ第八十八條　皇室會計令第四十一條ノ規定ニ依ル繰替拂ハ宮內大臣ノ命令ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八十九條　皇室會計令第十九條ノ規定ニ依リ次年度ニ繰越スヘキ金額ハ宮內大臣ノ認可ヲ經テ內藏頭之ヲ定ム

第九十條　皇室會計令第三十七條第一項ノ規定ニ依リ年度開始前其ノ年度ノ豫算ニ屬スル契約ヲ爲シ又ハ經費ノ支出ヲ爲サムトスルトキハ主管部局長官ハ其ノ事由及金額ヲ具シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九十一條　皇室會計令第七十五條ノ規定ニ依リ各會計相互間一時繰替貸借ヲ爲サムトスルトキハ關係主管部局長官ハ其ノ事由及金額ヲ具シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九十二條　前三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルトキハ主管部局長官ハ其ノ旨ヲ帝室會計審査局長官ニ通牒スヘシ

第九十三條　左ノ場合ニ於テハ主管部局長官ハ其ノ事由及金額ヲ具シ宮內大臣ニ上申スヘシ

一　御資會計收支部ニ於テ借入金ヲ爲サムトスルトキ

二　豫算決定前其ノ年度ノ豫算ニ屬スヘキ契約ヲ爲シ又ハ經費ノ支出ヲ爲サムトスルトキ

三　數年ニ涉リテ負擔トナルヘキ契約ヲ爲サムトスルトキ

四　別段ノ定アルモノヲ除クノ外貸付金ヲ爲サムトスルトキ

第九十四條　宮內大臣皇室會計令第三十七條第二項、第四十二條、第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依リ勅裁ヲ經タルトキハ其ノ旨ヲ主管部局長官及帝室會計審査局長官ニ令達スヘシ

第九十五條　主管部局長官前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ內藏頭ニ在リテハ分任官、其ノ他ノ主管部局長官ニ在リテハ內藏頭及部下ニ屬スル分任官ニ其ノ旨ヲ通牒スヘシ

第九十六條　林野經營ノ爲ニスル請負又ハ賣買ニ付テハ見積金額一萬圓以上、其ノ他ノ請負又ハ賣買ニ付テハ見積金額千圓以上ノモノニ限リ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ土地ノ產物ヲ競賣ニ付スル場合及競爭ニ付シタルモ競爭者ナキ爲又ハ競爭價格豫定價格ノ制限ニ達セサル爲隨意契約ニ依リ土地ノ產物ヲ賣拂フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條　納入告知書、納付書、仕拂命令、仕拂通知書及引出切符ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　契約

第九十八條　請負又ハ物件ノ賣買ヲ競爭ニ付スル場合ニ於テハ一般入札、指名入札又ハ競賣ノ方法ニ依ルヘシ

一　一般入札又ハ指名入札ハ郵便ヲ以テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十九條　入札ヲ以テ請負ヲ爲サシメ又ハ物件ノ賣買ヲ爲サムトスルトキハ入札執行ノ期日ヨリ少クモ三日前ニ一般入札ニ在リテハ之ヲ被指定者ニ示スヘシ

一　契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

二　請負ニ付テハ其ノ事項、物件ノ賣買ニ付テハ其ノ種類、數量及品質

三　入札手續書及契約書案ヲ示スヘキ場所

四　入札ノ條件ヲ定メタルトキハ其ノ條件

五　入札ノ場所及年月日時

六　入札保證金ノ率

七　郵便ヲ以テ入札ヲ許ストキハ其ノ旨

八　前各號ノ外必要ナル事項

公告ハ入札ヲ行フヘキ地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第百條　請負又ハ物品供給ノ入札ヲ爲サムトスル者ニハ請負フヘキ事業又ハ供給スヘキ物品ノ販賣ニ二年以上從事スルコトヲ證明セシムヘシ

第百一條　請負又ハ物品賣買ノ入札ヲ爲シ又ハ其ノ契約ノ締結ヲ爲サムトスル者ニハ保證金ヲ提供セシムヘシ

保證金ノ率ハ入札ニ付テハ見積金ノ百分ノ五以上トシ契約ノ締結ニ付テハ契約金額ノ百分ノ十以上トス但シ保證金ニハ國債證券ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

第百二條　入札擔任ノ官吏及保證金ノ率額ハ當該主管部局長官又ハ分任官之ヲ定ムヘシ保證金ニ代用スル國債證券ノ擔保價格ニ付キ亦同シ

第百三條　保證金又ハ代用ノ國債證券ハ金庫アル地方ニ於テハ其ノ金庫ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第百四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ競爭ニ加ハラシムルコトヲ得ス但シ第四號乃至第九號ニ揭ケタル者ハ爾後滿二年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　物件其ノ他ノ買受代金又ハ借受料息納中ノ者

二　損害賠償金、辨償金又ハ違約金等ノ納入ヲ了ヘサル者

三　競爭ニ付スル物件ニ關シ罪ヲ犯シタル者

四　競爭ニ際シ不穩ノ擧動又ハ連合ヲ爲シタル者

五　競落シタルニ拘ラス引續キ二回以上契約ヲ締結セサリシ者

六　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落人ノ契約締結若ハ其ノ履行ヲ妨害シタル者

七　工事又ハ物件ノ檢查監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨害シタル者

八　請負ヒタル工事ヲ粗雜ニシ又ハ粗惡ナル物件ヲ供給シタル者

九　債務ノ不履行ニ因リ契約ヲ解除セラレタル者

主管部局長官又ハ分任官ハ事業又ハ物品ノ性質ニ依リ前各號ノ外特ニ競爭者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第百五條　入札擔任ノ官吏ハ競爭者ノ連合又ハ不穩ノ擧動其ノ他ノ事故ニ因リ正當ニ競爭ヲ執行スルコト能ハスト認メタルトキハ何時ニテモ其ノ執行ヲ取消シ又ハ其ノ競爭者ヲ退去セシムルコトヲ得

第百六條　請負及物件購入ノ場合ニ在リテハ豫定價格以下ニシテ最少額、物件賣拂ノ場合ニ在リテハ豫定價格以上ニシテ最多額ノ入札ヲ爲シタル者ヲ競落人トス

第百七條　競落トナルヘキ同額ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アリタルトキハ其ノ入札人ヲシテ直ニ追加入札ヲ爲サシムヘシ

追加入札ヲ爲ス者ナキトキ又ハ追加入札ヲ爲シタルモ其ノ金額尚同額ナルトキハ抽籤ニ依リ競落人ヲ定ムヘシ競落トナルヘキ同額ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アリタル場合ニ於テ郵便ヲ以テ入札ヲ爲シタル者アルトキ亦同シ

第百八條　前條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ヲ爲ササル者ハ其ノ入札ヲ取消シタルモノト看做ス

第百九條　競落人即時入札ノ取消ヲ爲シタル場合ニ於テハ第百六條ノ規定ニ依リ入札金額ノ多寡ニ從ヒ順次競落人ヲ定ムヘシ

前二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百十條　左ノ入札ハ之ヲ無效トス

一　記載事項ノ不明ナル入札

二　提供シタル保證金指定ノ率ニ達セサル入札但シ第百七條ノ規定ニ依リ追加入札ヲ爲サシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　郵便ヲ以テ入札ヲ爲シタル場合ニ於テ入札函ノ閉鎖時限マテニ到達セサル入札

第百十一條　第百四條ニ該當スル者ノ爲シタル入札ハ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第百十二條　入札金額豫定價格ノ制限ニ達セサル場合ニ於テハ入札擔任ノ官吏ハ其ノ入札ノ執行ヲ取消シ又ハ直ニ再入札ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ再入札ヲ爲サシメタルモ尚豫定價格ノ制限ニ達セサルトキ又ハ再入札ヲ爲ス者ナキトキハ其ノ入札ノ執行ヲ取消スヘシ

第百十三條　入札保證金ハ左ノ區分ニ從ヒ遲滯ナク之ヲ其ノ提供者ニ還付スヘシ但シ第百十一條ノ規定ニ依リ入札ヲ無效ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ入札保證金ヲ收得ス

一　入札ノ無效ナルトキハ其ノ保證金

二　入札ノ執行ヲ取消シタルトキハ入札人全員ノ保證金

三　競落人定マリタルトキハ他ノ入札人ノ保證金

四　競落人契約ヲ締結シタルトキハ其ノ保證金

二件以上ノ入札保證金ヲ一括シテ提供シタルトキハ其ノ全部ノ還付ヲ要スヘキ場合ニ非サレハ之ヲ還付セサルコトヲ得

第百十四條　入札ノ取消アリタル場合ニ於テハ入札保證金ハ違約金トシテ之ヲ收得ス

第百十五條　入札保證金ヲ收得スル場合ニ於テ國債證券アルトキハ其ノ提供者ハ入札ノ日ヨリ起算シ十日以内ニ入札保證金額ニ該當スル現金ヲ提供シ其ノ還付ヲ求ムルコトヲ得若シ其ノ期間内ニ提供セサルトキハ國債證券ヲ賣却シ其ノ金額ヲ以テ收得金及賣却費用ニ充テ過剩アリタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第百十六條　競落人ハ競落ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ契約保證金ヲ提供シテ契約ノ締結ヲ爲スヘシ競落金額千圓未滿ナルトキハ契約保證金ヲ提供セシメサルコトヲ得

第百十七條　入札保證金ハ之ヲ契約保證金ニ充當スルコトヲ得

第百十八條　競落人競落ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ契約ノ締結ヲ爲ササルトキハ其ノ入札ヲ取消シタルモノト看做ス

前條ノ場合ニ於テハ更ニ入札ヲ執行シ又ハ時宜ニ依リ第百九條第一項ノ規定ニ依リ順次競落人ヲ定ムルコトヲ得

第百十九條　契約ノ條項ニ違反シタル場合又ハ其ノ履行ヲ爲ササル爲契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ契約保證金ハ違約金トシテ之ヲ收得ス但シ違約金トシテ拾得スル金額ハ契約ノ定ムル所ニ依ル

第百二十條　入札ニ依リ締結スル契約ハ之ヲ準用ス

第百二十一條　第百一條乃至第百四條及前二項ノ規定ハ請負及物件ノ賣買ニ關スル隨意契約ニ之ヲ準用ス但シ金額千圓未滿ノ隨意契約ヲ爲ス場合ニ於テハ設計仕譯書、承諾書又ハ商工業上ノ慣習ニ從ヘル往復書ヲ以テ契約書ニ代フルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ契約ハ之ヲ締結スル官吏契約書ニ代ハル書類ヲ受理スルニ非サレハ確定セサルモノトス

第百二十二條　隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ保證金ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

第百二十三條　競爭者ナキ爲又ハ競爭價格豫定價格ノ制限ニ達セサル爲隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ其ノ競爭ニ附シタル件ヲ變更スルコトヲ得ス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第百二十四條　土地建物ノ購入及賣拂ハ宮内大臣ノ命令依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百二十五條　主管部局長官ハ入札及契約ニ關シ本令ニ規定スルモノノ外宮内大臣ノ認可ヲ經テ必要ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第百二十六條　本章中入札ニ關スル規定ハ競賣ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス但シ慣習アルトキハ其ノ慣習ニ從フコトヲ得

附　則

第百二十七條　本令ハ明治四十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十六年度ノ豫算ニ付テハ期限ニ關スルモノヲ除クノ外本令施行前ニ在リテモ仍本令ノ規定ヲ適用ス

第百二十八條　主管部局長官皇室會計令第九十九條ノ規定ニ依リ剩餘金ヲ基金ノ元資ニ組入レ又ハ次年度ニ繰越サムトスルトキハ其ノ事由及金額ヲ具シ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主管部局長官前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ内藏頭及帝室會計審査局長官ニ通牒スヘシ

第三類

○立木登記規則中改正（大正元年八月司法省令第二號）

立木登記規則中左ノ通改正ス

第十四條ノ二　登記所カ市區町村ヨリ實測圖面ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ便宜整理シ永久ニ之ヲ保存スヘシ

○不動產登記法中改正（大正二年四月法律第一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不動產登記法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不動產登記法中左ノ通改正ス

第十一條第一項第二號中「設定、」ヲ「設定及ヒ存續期間、存續期間ノ變更、」ニ改メ左ノ一號ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

四　所有權、質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ登記名義人ノ表示ノ變更

第十六條　登記簿ハ第一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙ノ一區ニ分チ尚ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各土地又ハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地又ハ建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ所有權以外ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十七條　削除

第二十一條ノ二　登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者カ不動產ノ目錄ヲ提出シタルトキハ登記所ハ其書面ヲ用キテ謄本又ハ抄本ヲ作成スルコトヲ得

第二十八條ノ二　滯納處分ニ因ル差押ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ官廳又ハ公署ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ不動產若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二十八條ノ三　第四十六條ノ二第五十條第三項、第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三十一條中「官廳」ヲ「官廳又ハ公署」ニ改ム

第三十七條　ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第二號ニ揭ケタル事項ハ前項ノ申請書ニハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第四十六條ノ二　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十條ニ左ノ一項ヲ加フ

第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スニハ前項ノ規定ニ依ルノ外事項欄ニ債權者ノ氏名又ハ名稱住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十九條ノ末尾ニ「字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ」ヲ加フ

第六十條ノ二　第四十六條ノ二ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ揭ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且登記濟ノ旨ヲ登記權利者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十三條ノ二　前條ノ場合ニ於テ登記ノ錯誤又ハ遺漏カ登記官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除ク外登記官吏ハ遲滯ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲シ其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス

前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ三　前二條ノ通知ハ第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條及第八十九條中「、字」ヲ削ル

第八十條　前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合減失若クハ增減シタル段別若クハ坪數竝ニ現在ノ段別若クハ坪數又ハ新地目若クハ新番號ヲ記載シ且土地臺帳謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十條　削除

第九十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

建物ノ敷地ノ番號ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條中「新地目、新字若クハ」及「又ハ增減シタル段別若クハ坪數竝ニ現在ノ段別若クハ坪數」ヲ削ル

第百條　第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更、建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更又ハ敷地ノ番號ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百條ノ二　行政區畫又ハ字ノ變更ニ伴ヒ土地ノ番號ノ變更アリタルトキハ土地臺帳所管廳ハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク登記用紙中表示欄ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條ノ三　既登記ノ土地カ河川ノ數地ト爲リタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滯ナク其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ登記用紙中表示欄ニ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載シ土地ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スル

コトヲ要ス此場合ニ於テハ第百二條ノ規定ヲ準用ス

第百三條　土地ノ收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ補償金ノ受取證又ハ供託受領證ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ起業者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滯ナク前二項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ「第百三條ノ二」ヲ「第百三條ノ三」ニ改ム

第百三條ノ二　第四十六條ノ二、第五十條第三項第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ第百二條ノ三第二項及ヒ前條第二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百二十二條ノ二　前條ノ場合ニ於テ不動產カ五箇以上ナルトキハ申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ目錄ニハ各不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第百二十二條ノ三　一箇又ハ數箇ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條ノ二　申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附セタル場合ニ於テ其一箇ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ共同擔保目錄ニ揭ケタル他ノ不動產ニ關スル權利ト共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

第百第二十四條ノ三　共同擔保目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第百二十四條ノ四　第百二十二條ノ三ノ規定ニ依ル登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ其登記及ヒ前ノ登記ニ各不動產ニ關スル權利カ共ニ擔保ノ目的タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條及ヒ第百二十四條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之レヲ準用ス

第百二十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

數箇ノ不動產ニ關スル權利カ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其一箇ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ他ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ第百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ニ其旨ヲ附記シ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス其一箇ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記

ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百二十六條ノ二　前條第一項ノ規定ニ從ヒテ爲スヘキ登記ハ共同擔保目錄アル場合ニ於テハ其目錄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十七條ノ二　第百三條及ヒ第百三條ノ二ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用ニ因ル權利移轉ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百四十九條ノ二　登記官吏ハ登記ヲ完了シタル後其登記カ第四十九條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記權利者、登記義務者及ヒ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ一个月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ商業登記ニ付キ定メタル公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スルコトヲ要ス

登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭載セシムルコトヲ得

第百四十九條ノ三　異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第百四十九條ノ四　前條第二項ノ卽時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百四十九條ノ五　異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

附　則

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　本法施行前ニ登記所ノ受附タル事件ハ從前ノ規定ニ依リ完結ス

第三條　本法施行前ニ調製シタル登記簿ハ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ關スル從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第四條　本法ニ依ル登記簿ニ始メテ登記ヲ爲ス場合ニ於ケル登記番號ハ從來ノ番號ヲ追ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條　從前ノ規定ニ依ル登記用紙中表題部又ハ區域カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ本法ニ依ル登記簿ニ繼續用紙ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ乙區事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ新ナル順ノ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條　所有權以外ノ權利ニ關スル登記ノ前後ハ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノト本法ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノトノ間ニ在リテハ受附番號ニ依ル

第七條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタル所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ付キ本法ニ依ル登記簿ニ附

記登記ヲ爲ス場合ニ於テハ主登記ヲ爲シタル區ノ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス

第八條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ本法ニ依ル登記簿ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルコトハ受附番號ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シ其左側ニ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ於ケル區ノ名稱及ヒ順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第九條　不動產登記法施行前ニ登記シタル不動產ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ本法ニ依ル登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ第百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十條　明治三十九年法律第五十五號ハ之ヲ廢止ス

○裁判所構成法中改正（大正二年四月法律第六號）

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所構成法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第十三條ノ二　區裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第十四條中「二百四」ヲ「五百四」ニ改ム

第十五條　區裁判所ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一　拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二　有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

第十六條ノ一及第十六條ノ二ヲ削リ第十六條ノ三ヲ第十六條ノ二ニ改ム

第十七條ノ二　司法大臣ハ區裁判所ニ屬スル事務ノ一部分ヲ取扱フ爲區裁判所出張所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二十一條中「每年」ヲ削ル

第三十七條中第二號ヲ削リ第三號ヲ左ノ如ク改ム

第二　地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第四十條中「五人」ヲ「三人」ニ改ム

第四十一條中「五人」ヲ「三人」ニ、「七人」ヲ「五人」ニ改ム

第五十條第一號ヲ左ノ如ク改ム

第一　終審トシテ

（イ）地方裁判所及控訴院ノ第二審判決ニ對スル上告

（ロ）地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令竝ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第五十三條中「七人」ヲ「五人」ニ改ム

第七十三條中「及第七十五條」ヲ「乃至第七十五條」ニ改ム

第七十四條ノ二　司法大臣ハ裁判事務上必要アルトキハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ判事ニ轉所ヲ命スルコトヲ得

第八十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ大審院長控訴院長檢事總長檢事長ニ各々其ノ裁判所又ハ檢事局ノ書記ヲ地方裁判所長檢事正ニ各〻其ノ裁判所及其ノ管轄區域內ノ區裁判所又ハ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ノ書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

第九十五條中「控訴院長」ヲ「地方裁判所長」ニ改ム

第百三十六條ノ二　合議裁判所長檢事總長檢事長檢事正ハ其ノ監督ニ屬スル判事若ハ檢事ヲシテ司法行政事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（本項ノ期日ハ大正二年四月勅令第五十四號ヲ以テ大正二年四月二十一日ト定メラレタリ）

本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ管轄ニ關スル從前ノ規定ヲ適用ス但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

○刑事略式手續法（大正二年四月法律第二〇號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事略式手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事略式手續法

第一條　區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ關スル刑事ノ事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ其ノ正本ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ裁判所書記本人ニ正本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第二條　略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三條　裁判所ハ前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス

又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラサルモノト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ

第四條　裁判所ハ略式命令ヲ發スル前被告人ニ對シ書面ヲ以テ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

被告人ハ豫告ヲ發シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三日內ニ書面ヲ以テ異議ノ申出ヲ爲スコトヲ得

被告人遠隔又ハ交通不便ノ地ニ在ルトキハ裁判所ハ

附加期間ヲ定ムルコトヲ得

第五條　略式命令ノ豫告ニハ被告事件、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝前條ノ期間内ニ異議ノ申出ヲ爲ササルトキハ略式命令ヲ爲スヘキ旨ヲ明示スヘシ

第六條　裁判所ハ異議ノ申出アリタルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ

裁判所豫告ヲ爲シタル後第三條ノ事由アリト思料スルトキ亦同項ニ同シ

第七條　略式命令ニハ罪ト爲ルヘキ事實適用スヘキ法令ノ規定科スヘキ刑及附隨ノ處分竝正本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ明示スヘシ

略式命令ノ原本ニハ裁判所及年月日ヲ記載シ判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

第八條　裁判所署式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ其ノ正本ヲ送致スヘシ

第九條　刑事訴訟法第十九條ノ規定ハ略式命令ノ送達ニ之ヲ準用ス

第十條　署式命令ヲ受ケタル者ハ正本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトヲ得

刑事訴訟法第十五條乃至第十七條第二百七條第二項第二百四十七條及第二百四十八條ノ規定ハ前項ノ申立及其ノ期間ニ之ヲ準用ス

第十一條　正式裁判ノ申立ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

正式裁判ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第十二條　正式裁判ノ申立ハ之ヲ拋棄シ又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第十三條　法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタル正式裁判ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ニハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

正式裁判ノ申立ヲ適法ナリトスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ

裁判所ハ此ノ場合ニ於テ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

第十四條　正式裁判ノ申立ヲ爲シタル被告人公判ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ對席トシテ裁判ヲ爲スヘシ

第十五條　正式裁判ノ申立ニ因リ判決アリタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條　略式命令ハ正式裁判ノ申立期間ノ經過又ハ其ノ申立ノ拋棄若ハ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ申立ヲ却下スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第十七條　刑事訴訟法第二十條及第二十一條ノ規定ハ本法ニ依リ作ルヘキ書類ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○刑事略式手續法施行期日

（大正二年五月勅令第七二號）

朕刑事略式手續法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事略式手續法ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○民事訴訟法施行條例中改正

（大正二年三月法律第一二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法施行條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法施行條例中左ノ通改正ス

第十二條　削除

附　則

本法ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前提起シタル上告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○非訟事件手續法中改正

（大正二年四月法律第一九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル非訟事件手續法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

第百二十五條中「第百五十一條ノ五ヲ」「第百五十一條ノ六」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第百六十五條ノ規定ハ夫婦財產契約ノ登記ノ更正ニ之ヲ準用ス

第百五十一條ノ六　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滯ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

第百五十七條中「及ヒ第二十四條」ヲ「第二十四條及ヒ第五十九條」ニ改ム

第百六十五條　登記所カ第百五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四類

○遺失物法中改正

（大正二年四月法律第四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル遺失物法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法中左ノ通改正ス

第九條中「第十六條」ヲ「拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ橫領シタル」ニ改ム

第十四條中「一箇月内」ヲ「六箇月内」ニ改ム

第十六條　削除

○娼妓取締規則中改正

（大正元年一二月内務省令第一七號）

娼妓取締規則中左ノ通改正ス

第十三條　左ノ事項ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　虚僞ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請セシメタル者

二　第六條第十二條ニ違背シタル者

三　第十條ニ依リ稼業ニ就クコトヲ得サル者又ハ稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者

四　本人ノ意ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登錄申請又ハ登錄削除申請ヲ爲サシメタル者

第十三條ノ二　左ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　虚僞ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請シタル者

二　第七條第九條第十條ニ違背シタル者

三　第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稼ヲ爲サシメタル者

四　第十一條ノ停止命令ニ違背シタル者

第五類

○所得稅法中改正

（大正二年四月法律第一三號）

睽帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法中左ノ通改正ス

第三條　所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種　法人ノ所得

甲　合名會社、合資會社所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

五千圓以下ノ金額	千分ノ四十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十
一萬五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十

乙　株式會社、株式合資會社、其ノ他ノ法人　千分ノ六十二、五

第二種　此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子　千分ノ二十

第三種　前二種ニ屬セサル所得　所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

千圓以下ノ金額	千分ノ三十五
二千圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五
三千圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十
七千圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百
一萬五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百四十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百二十

株式會社、株式合資會社ニシテ株主又ハ株主及社員ノ數二十人以下ヲ以テ組織シタルモノナルトキハ其ノ所得ニ對シテ第一種甲ノ稅率ヲ適用ス

前項ノ株主又ハ社員ノ數ハ事業年度末日ノ現在ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ無記名式ノ株券ニ對スル株主ノ數ハ其ノ無記名式ト爲スコトヲ請求シタル株主ノ數ニ依ル

第一種甲ノ稅率ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ法人ノ事業年度ノ月數ヲ以テ十二月ヲ除シタル數ヲ其ノ事業年度ノ所得金額ニ乘シタルモノニ對シ適用シテ算出シタル金額ヲ十二分シ其ノ事業年度ノ月數ヲ乘シテ其ノ稅額ヲ定ム

第三種ノ稅率ヲ適用スヘキ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ適用シテ算出シタル金額ヲ戶主及其ノ同居家族ノ所得ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條　第一種ノ所得ハ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依リ其ノ他ノ法人ニ在リテハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スルモノニ限ル

前項ノ場合ニ於テ總益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金又ハ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

保險會社ノ利益金又ハ剩餘金ノ計算ニ付亦同シ

第四條ノ二　第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條ノ三　第三種ノ所得ハ左記各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算出ス

一　俸給、給料、手當、歲費、年金、恩給、退隱料、營業ニ非サル貸金預金ノ利子及第二種所得ニ屬セサル公債社債ノ利子ハ其ノ收入豫算年額

二　田又ハ畑ノ所得ハ前三年間每年　總收入金額ヲ

リ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額

三　山林伐採ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

四　外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル法人ヨリ受クル配當金ハ前年ノ收入金額

五　其ノ他ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル收入豫算年額

第四條ノ四　第三種ノ所得中俸給、給料、手當、歲費ニ付テハ收入豫算年額ヨリ其ノ十分ノ一ヲ控除シタルモノヲ以テ所得トス

第四條ノ五　第三種ノ所得ニ付前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額五百圓以下ナルトキハ百五十圓ヲ七百圓以下ナルトキハ百圓ヲ千圓以下ナルトキハ五十圓ヲ其ノ所得ヨリ控除ス

第三條第六項ノ場合ニ於テハ其ノ合算額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第四條ノ六　府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第五條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ノ俸給、手當

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給、退隱料

三　旅費、學資金及法定扶養料

四　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

五　外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資產營業又ハ職業ニ依ル所得

六　此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及割賦賞與金

七　乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保續料

第五條ノ二　勅令ヲ以テ指定シタル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第六條中「三百圓」ヲ「四百圓」ニ、但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第三條第六項ノ合算額四百圓ニ滿ツルトキ又ハ第四條ノ五ノ規定ニ依ル金額ヲ控除シタル爲四百圓ニ滿タサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ヲ以テ定ムル期間內ニ各事業年度ニ於ケル財產目錄、貸借對照表、損益計算書及第四條ノ規定ニ依リ計算シタル所得ノ明細書ヲ添附シ政府ニ申告スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得ノ明細書ヲ添附スヘシ

第九條　第一種ノ所得金額ハ第七條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定シ第二種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第十一條及第十三條中「北海道」ヲ「北海道、沖繩縣」ニ改ム

第十四條　選擧區域內ニ住居シ前年第三種ノ所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタルモノハ調查委員選擧人ヲ選擧シ又ハ調查委員補闕員若ハ調查委員選擧人ニ選擧セラルルコトヲ得但シ左ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　無能力者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者及家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテノ者

六　第四十六條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

第十八條　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ自ラ投票所ニ至リ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ

第二十一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ投票ニ記載スヘキ被選擧人ノ數ハ調查委員又ハ補闕員ノ定數ノ二分ノ一トシ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人ニシテ計算ス

第二十四條　調查委員及補闕員ノ任期ハ選擧ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ其ノ選擧區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ終了スルモノトス

第二十四條ノ二　調查委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第二十四條ノ三　調查委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條ノ四　補闕員ヨリ調查委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

選擧區域ノ變更ニ依リ新ニ選擧セラレタル調查委員及補闕員ノ任期ハ選擧區域變更前ニ於ケル調查委員

及補闕員ノ選擧ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第二十四條ノ五　調査委員又ハ補闕員ニ選擧セラレタル者第十四條第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第三十三條中「日當」ヲ「手當」ニ改ム

第三十三條ノ二　第三種ノ所得ニ屬スル俸給、給料、手當、歲費、年金、恩給又ハ退隱料ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ヲ受クル者ノ氏名、住所及金額ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ調書ヲ提出シタル者ニ對シテ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第三十四條　稅務署長又ハ其ノ代理官ニ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條ノ規定ニ依リ調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第四十條中「山林ノ所得ヲ除クノ外」ヲ削リ「所得金額四分ノ一」ヲ「收入豫算年額四分ノ一」ニ改ム

第四十一條中「決定額」ヲ「收入豫算年額」ニ改ム

第四十二條中「十一月一日ヨリ三十日限」ヲ「十一月一日ヨリ十五日限」ニ「三十一日限」ヲ「十五日限」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第四十六條中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十七條ノ二　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第五十條中「沖繩縣」ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ

此法律ハ大正七年分所得稅ヨリ之ヲ沖繩縣ニ施行ス

附　則

本法ハ大正二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正二年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ正大二年分ニ限リ第八條ノ每年四月中ハ大正二年五月三十一日迄、第三十條ノ八月三十日ハ九月三十日、第四十二條ノ九月一日ヨリ三十日限ハ十月一日ヨリ十五日限トス

本法施行ノ際現ニ所得調査委員及補闕員タル者ノ任期ハ大正二年九月末日ヲ以テ終了ス

○所得稅法施行規則中改正

（大正二年四月勅令第七十號）

朕所得稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則中左ノ通改正ス

第一條中「第四條第一項第三號」ヲ「第四條ノ二」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

山林ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ立竹木ノ所得ハ之ヲ山林伐採ノ所得トス

第三條　第一種ノ所得ニ付納稅義務アル法人ハ每事業年度決算確定ノ日ヨリ七日內ニ所轄稅務署ニ所得稅法第七條ノ申告ヲ爲スヘシ

株式會社又ハ株式合資會社ハ其ノ事業年度末日ノ現在ニ依リ株主又ハ社員ノ數ヲ併セテ申告スヘシ但シ會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ無記名式ト爲スコトヲ請求シタル株主ノ數ヲ附記スヘシ

第四條中「第二項」ヲ「第六項」ニ改メ第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ俸給、給料、手當、歲費ニ付テハ其ノ收入豫算年額ヲ併セテ申告スヘシ

第四條ノ二中「北海道」ヲ「北海道、沖繩縣」ニ改ム

第九條中「及調査委員」ヲ「調査委員及補闕員」ニ改ム

第十九條　審査委員ノ選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ自ラ投票所ニ至リ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ

投票ハ郵便ヲ以テ送付スルコヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間ノ終了スル迄ニ到達セサリシ投票ハ無效トス

第三十一條　所得稅法第二十三條ノ二ニ依リ調書ヲ提出スル塲合ニ於テ手當ニ付テハ前年分支拂金額ヲモ調書ニ記載スヘシ

第三十一條ノ二　所得稅法第三十三條ノ二ニ依リ調書ヲ提出スル義務アル者ハ每年四月中ニ所轄稅務署ニ之ヲ提出シ其ノ年一月一日以後調書提出ノ時迄ニ金額ニ異動アリタルモノニ付テハ異動前ノ金額、異動月日及其ノ事由ヲ調書ニ附記スヘシ

前項ノ調書ヲ提出シタル後六月三十日迄ノ間ニ異動アリタルトキハ七月十日迄ニ其ノ異動調書ヲ提出スヘシ

第三十一條ノ三　前條ノ調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ其ノ調書ニ記載シタル一件一人每ニ金五厘ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細添書ヲ附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第三十二條　削除

第三十三條中「第二項」ヲ「第六項」ニ改ム

第三十四條中「公ニ募集シタル」ヲ削ル

第三十五條中「營利ヲ目的トセサル法人」ヲ「所得稅ヲ課セサル法人」ニ改メ但書ヲ削ル

第三十七條　所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ左記各號ノ定ムル所ニ依リ所得金額ヲ改算更訂シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

一　收入豫算年額ニ減損ヲ生シタルトキハ其ノ減損額カ收入豫算年額ノ四分ノ一ニ達スル塲合ニ限リ其ノ收入豫算年額ヨリ之ヲ控除ス但シ俸給、給料、手當又ハ歲費ノ收入豫算年額又ハ減損額ニ付テハ十分ノ九ヲ乘シタルモノニ依リ之ヲ計

算ス

二　所得稅法第四條ノ五ニ依リ控除スヘキ金額ハ前號ニ依リ計算シタル後之ヲ控除ス

附則

本令ハ大正二年法律第十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正二年ニ限リ第三十一條ノ二ノ每年四月中ハ大正二年五月三十一日迄、六月三十日ハ七月三十一日、七月十日ハ八月十日、第三十一條ノ三ノ七月三十一日ハ八月三十一日トス

○所得稅ヲ免除スヘキ製造業指定ノ件（大正元年正月勅令第六九號）

勅所得稅ヲ免除スヘキ製造業指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第五條ノ二ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金

二　ニノ條、竿、テー形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）

三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四　瓦鑞、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

五　燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン

六　製紙用バルプ

七　板硝子

八　コンデンスドミルク

九　絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第二條　前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ繼續ト認ムヘキ事實アル者ニ付テハ前ノ製造業者カ所得稅ノ免除期間內ニ在ルトキハ其ノ免除期間ヲ繼承シ免除期間內ニ在ラサルトキハ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第三條　第一條ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第一條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第一條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第四條　前條ノ申請アリタルトキハ其ノ免除スヘキ所得ヲ調査シテ申請者ノ所得ヨリ之ヲ控除シ所得稅法第三十五條ノ通知ヲ爲ストキ其ノ金額ヲ附記スヘシ但シ控除ノ結果納稅義務ナキニ至リタルトキハ單ニ其ノ旨通知スヘシ

第五條　第三條ノ申請ヲ爲シタル者ハ收稅官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ帳簿物件ノ檢查ヲ受クヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前開始シタル第一條ノ製造業ニ付テハ本令ヲ適用セス

○非常特別稅法廢止ニ關スル件（大正二年四月法律第一四號）

勅帝國議會ノ協贊ヲ經タル非常特別稅法廢止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非常特別稅法ハ大正二年法律第十三號施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○間接國稅犯則者處分法施行規則中改正（大正元年八月勅令第一三號）

勅間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法施行規則中左ノ通改正ス

第一條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三　出港稅

第十四條　本令中稅務署長ノ職務ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七類

○中學校令施行規則中改正

明治三十四年文部省令第三號中學校令施行規則中左ノ通改正ス（大正二年三月文部省令第三號）

第十八條第三項　削除

第二十條第一項中「四百人以下」ヲ「六百人以下」ニ「六百人マテ」ヲ「八百人マテ」ニ改ム

第三十六條第一項中「校舍」ヲ「位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更、校舍」ニ改ム

第四十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

○高等女學校令施行規則中改正（大正二年三月文部省令第四號）

明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則中左ノ通改正ス

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

體操ハ體操教練及遊戲ヲ授クヘシ

第二十五條第三項　削除

第二十七條第一項中「四百人以下」ヲ「六百人以下」ニ「六百人マテ」ヲ「八百人マテ」ニ改ム

第三十七條第一項中「校舍、」ヲ「位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更、校舍、」ニ改ム

第四十條中「公立高等女學校ノ費用負擔者」ヲ「公立高等女學校ノ設立者」ニ改ム

第八類

○保險業法施行規則中改正

（大正元年一二月農商務省令第二九號）

保險業法施行規則左ノ通改正ス

保險業法施行規則

第一章　總則

第一條　保險業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ申請書ニハ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス認可申請ヲ爲スヘキ事項ニシテ總會又ハ之ニ代ルヘキ機關ノ決議ヲ經ヘキモノナルトキハ申請書ニ其ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條　保險會社ノ商號又ハ名稱ニ示スヘキ保險ノ種類ハ其ノ主タル目的ノ事業ノ種類ヲ以テ足ル

第三條　農商務大臣ヨリ保險會社ニ對シテ爲シタル命令又ハ通知ニシテ其ノ書面ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ農商務大臣ハ官報ヲ以テ其ノ事由及命令又ハ通知ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ命令又ハ通知アリタルモノト看做ス

第四條　保險業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ特殊ノ事由ニ因リ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條　保險業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價額ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣ノ告示スル內外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第六條　保險會社ハ保險證券、保險契約申込書、被保險者ノ告知書ノ用紙及保險契約者ノ勸誘其ノ他廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部ツツ遲滯ナク農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條　保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及第七號ニ定ムル權利ノ範圍ニ付キ當事者ニ拂渡スヘキ金額、其標準若ハ第七號書式ニ準シ其ノ金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ金額ノ算出方法ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ生命保險會社カ將來ノ保險料ノ拂込ヲ免除シテ保險金額、保險種類若ハ保險期間ノ變更ヲ約シ又ハ返戻金若ハ配當金ノ支拂ニ代ヘテ保險料拂濟保險證券ノ發行若ハ保險金額ノ增加ヲ約シ又ハ保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　保險會社カ保險業法第四條ノ二、第十一條又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

前項ノ供託受領證ハ農商務大臣之ヲ保管シ其ノ保管ニ付キ農商務大臣ハ保管證書ヲ會社ニ交付スヘシ

保險會社カ供託物ノ全部ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ供託受領證返還申請書ニ保管證書ヲ添附スルコトヲ要ス其ノ一部ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ保管證書ノ外其ノ金額又ハ物件ノ品名及數量、有價證券ノ種類、額面、數量及番號、記名式ノ證券ナルトキハ其ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

前三項ノ規定ハ供託物ノ變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　第一條乃至第九條、第十二條、第十三條、第十五條乃至第五十一條ノ規定ハ明治三十三年七月一日前ニ設立シタル保險會社竝其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役、支配人及精算人ニ之ヲ準用ス

第二章　發起認可及事業免許

第十一條　保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請書ニハ保險業法第五條ニ定ムル書類ノ外發起目論見書ヲ添附スルコトヲ要ス

一　株主又ハ社員若ハ基金醵出者募集ノ有無竝募集ノ方法及其ノ範圍

二　各發起人ノ引受ケヘキ株式ノ數又ハ相互會社ノ各發起人ノ契約スヘキ被保險者又ハ保險ノ目的ノ數竝保險金額

三　事業開始後保險契約者募集ニ關スル豫定計畫ノ概要竝開業後三年間ノ收支豫算

第十二條　保險業法第五條第二號ノ書類ニハ左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　事業經營ノ地域、被保險者又ハ保險ノ目的ノ範圍竝保險種類ノ細別

二　支店若ハ從タル事務所、出張所及代理店ノ權限ニ關スル事項

三　保險金額及保險期間ノ制限

四　被保險者又ハ保險ノ目的ノ選擇竝保險契約締結ノ手續ニ關スル事項

五　保險料ノ收受、保險金ノ仕拂及保險料ノ拂戻其ノ他返戻金ニ關スル事項

六　保險契約申込書及保險證券ノ樣式竝保險證券ニ添附スヘキ書類ノ樣式

七　再保險ノ授受ニ關スル事項

八　保險契約ノ特約ニ關スル事項

九　保險契約ニ對スル利益又ハ剩餘金ノ分配ニ關スル事項

十　保險證券ニ對スル貸付ニ關スル事項

十一　保險料ノ拂込免除ノ爲保險金額ヲ減少シ又ハ保險種類若ハ保險期間ヲ變更スル場合ニ關スル事項

十二　危險ノ分布及保險ノ目的ノ檢査ニ關スル事項

第十三條　保險業法第五條第五號ノ書類ニハ第十六條

ノ範圍内ニ於テ左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　所有スヘキ財産ノ種類及其ノ制限

二　貸付ノ種類及其ノ制限

三　擔保貸付ニ在リテハ其ノ擔保物件ノ種類及制限

生命保險會社ニ在リテハ責任準備金及責任準備金以外ノ財産ニ分チテ前項ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第十四條　發起人ハ發起ノ認可ヲ受クルニ非サレハ株主、社員又ハ基金醵出者ヲ募集スルコトヲ得ス

第十五條　保險事業免許ノ申請ハ總取締役及總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ申請書ニハ保險業法第五條ニ定ムル書類ノ外非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第七號ニ定ムル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號、第三號及第五號ニ定ムル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第三章　財産ノ利用

第十六條　保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ國債證券ノ所有及之ヲ擔保トスル貸付ヲ除クノ外左ノ各號ニ付キ其ノ財産（未タ拂込ヲ爲ササル株金又ハ基金ヲ除ク）ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

一　公共團體ニ對スル無擔保貸付

二　第一號ニ該當セサル無擔保貸付

三　同一人ニ對スル貸付若ハ預金又ハ同一人ニ對スル債權ヲ擔保トスル貸付

四　同一會社ノ株券若ハ債券ノ所有又ハ之ヲ擔保トスル貸付

五　同一公共團體ノ債券ノ所有又ハ之ヲ擔保トスル貸付

六　同一物件ノ所有又ハ之ヲ擔保トスル貸付

七　不動産ノ所有

前項第二號及第四號又ハ第三號及第五號ノ方法ニ依リ利用スル金額ハ之ヲ通算ス

保證ハ第一號及第二號ノ適用ニ付テハ之ヲ擔保ト看做サス

第十七條　會社財産ノ價額ノ變動其ノ他會社ノ意志ニ基カサル事由ニ因リ前條ノ制限ニ反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但シ其ノ利用ノ方法ヲ變更スルトキハ前條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第四章　事業報告書及届出

第十八條　事業報告書ハ第一號書式ニ準シテ之ヲ作成シ取締役及監査役署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

第十九條　財産目錄、貸借對照表、損益計算書及基金ノ償却、其ノ利息ノ支拂、準備金竝利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第二號乃至第五號書式ニ準シテ之ヲ作成スルコトヲ要ス

第二十條　財産目錄及貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入スルコトヲ得ス

第二十一條　保險會社ハ第六號書式ニ準シテ每月其ノ事業ノ狀況報告書ヲ作成シ翌月十五日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第二十二條　保險會社ハ每月末日ニ於ケル總勘定元帳ノ殘高ニ依リ貸方借方對照表ヲ作リ翌月十五日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第五章　支拂備金及準備金

第二十三條　保險會社ハ事業年度ノ終ニ於テ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

一　保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其ノ支拂ヲ爲ササルモノアルトキハ其ノ金額

二　既ニ生シタル事由ノ爲ニ保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

三　保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ニ關シ訴訟繫屬中ノモノアルトキハ其ノ金額

第三十二條ノ規定ハ損害保險契約ヲ再保險ニ附シタル場合ニ於ケル支拂備金ノ積立ニ之ヲ準用ス

第二十四條　生命保險會社ハ其ノ生命保險契約ヲ再保險ニ附シタル場合ニ於テモ之ニ對スル責任準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

第二十五條　生命保險契約又ハ其ノ再保險契約ニ對スル責任準備金ハ保險料積立金及未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス但シ之ヲ區別スルコト能ハサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　生命保險會社カ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ算出セサルトキハ責任準備金明細表中各保險料積立金ノ下ニ純保險料式ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第六章　損害保險契約ニ付キ危險ノ發生セサル場合ニ於ケル支拂備金ノ積立

第二十七條　損害保險契約ニ對スル責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料（第三十二條ノ保險者ニ支拂ヒタル保險料ヲ控除ス）中ヨリ其ノ年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲ニ支拂ヒタル保險金額竝保險金額ノ外ニ保險契約ニ因リテ支拂ヒタル金額（第三十二條ノ保險者ヨリ得タル保險金額竝保險金額ノ外ニ保險契約ニ因リテ得タル金額ヲ控除ス）其ノ契約ノ爲ニ積立ツヘキ支拂備金（第二十三條第二項ノ規定ニ依リ積立ツルコトヲ要セサル支拂備金ヲ控除ス）及其ノ年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十八條　損害保險契約ニ付キ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其ノ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其ノ殘額ニ付キ前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十九條　前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金額ト會社ノ定ムル方法ニ依リテ計算シタル金額トノ間ニ差異アルトキハ會社ハ其ノ多額ナル金額ニ相當スル金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第三十條　前三條ノ規定ハ生命保險契約ノ再保險契約ニハ之ヲ適用セス

第三十一條　第二十三條及第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ保險會社カ法令ノ規定ニ依リ貸借對照表ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　保險會社カ損害保險契約ヲ再保險ニ附シタル場合ニ於テハ保險事業ヲ營ムコトヲ認許セラレタル保險者ニ再保險ヲ附シタル場合ニ限リ其ノ再保險ニ附シタル部分ニ付キ責任準備金ノ積立ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ規定ハ前項ノ保險者以外ノ保險者トノ再保險取引ニ付キ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　保險會社カ保險契約ニ因リ確定金額ノ配當ヲ約シタル場合ニ於テハ其ノ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス利益ノ配當ヲ約シタル場合亦同シ

第三十四條　保險契約ニ關スル準備金及未收保險料計算ノ爲ニ用ヰタル統計表、計算ノ基礎、方法及順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ三年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第六章　保險契約ノ移轉

第三十五條　保險契約移轉ノ決議ノ認可申請ハ雙方ノ會社連署シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スル事ヲ要ス

一　保險契約移轉契約書

二　各會社ノ財產目錄及貸借對照表

三　移轉セムトスル保險契約ノ類種、金額、件數、契約者數及其ノ地方別統計表

四　移轉セムトスル保險契約ノ責任準備金額竝其ノ金額算出ノ順序及方法ヲ示シタル書類

五　移轉セムトスル財產ノ總額竝其ノ種類別ニ各財產ノ數量及價額ヲ記載シタル書類

六　各會社ノ保險契約ノ件數、金額、契約者數竝保險契約ノ種類別ノ件數、金額、契約者數及責任準備金額ヲ記載シタル書類

七　保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類

保險金額ノ削減ヲ必要トスル場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ事由、削減ノ方法、削減額及之ニ因リテ生スヘキ責任準備金ノ減少額竝將來ノ保險料ヲ減額スヘキ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二項第二號乃至第六號及前項ニ定ムル書類ハ保險契約移轉ノ決議ノ日ヲ基準トシテ之ヲ作成スルコトヲ要ス

第一項ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ保險業法第二十條ノ三ノ公告ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條　保險契約移轉ノ認可申請ハ保險業法第二十條ノ三ノ異議申出期間終了後一箇月內ニ雙方ノ會社連署シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

異議ニ關スル書類ニハ異議ヲ述ヘタル者ノ有無、異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ氏名若ハ名稱、住所及其ノ保險金額ヲ記載シ且保險業法第二十條ノ三第三項ノ規定ニ違反セサルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十七條　保險契約ノ移轉ヲ爲シタル會社カ其ノ移轉シタル保險契約ニ付キ從來用ヰタル事業方法書、普通保險約款竝保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ハ前條ノ認可アリタル時ヨリ移轉ヲ受ケタル會社ニ於テ之ヲ承繼シタルモノト看做ス

保險契約ノ移轉ヲ受ケタル會社ハ移轉ヲ受ケタル財產ニ限リ移轉ヲ爲シタル會社ノ財產利用方法書ニ從ヒ之ヲ利用スルコトヲ得

財產ノ移轉ヲ受ケタル爲第十六條ノ制限ニ反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

財產ノ利用方法ヲ變更スルトキハ第十六條ノ制限及會社ノ財產利用方法書ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第三十八條　第三十六條ノ認可アリタルトキハ保險契約ノ移轉ヲ受ケタル會社ハ一箇月內ニ移轉セラレタル保險契約ノ契約者ニ其ノ旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十九條　保險業法第二十條ノ八ノ公告ハ保險業法第二十條ノ三ノ公告ト同一ノ方法ニ依リ遲滯ナク之ヲ爲スコトヲ要ス

第七章　任意解散、合併及組織變更

第四十條　任意解散ノ決議ノ認可申請書ニハ財產目錄、貸借對照表及保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十一條　合併ノ決議ノ認可申請ハ雙方ノ會社連署シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ認可申請書ニハ合併契約書、各會社ノ財產目錄、貸借對照表ノ外各會社ノ保險契約者ノ數及其ノ保險金額ノ地方別統計表、保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類竝合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條　保險業法第二十二條第一項ノ公告ヲ爲シタル後合併ヲ爲ササルニ至リタルトキハ各會社ハ其ノ公告ト同一ノ方法ニ依リ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十三條　合資會社ノ組織變更ノ決議ノ認可申請書ニハ財產目錄、貸借對照表及組織變更後ノ株式會社ノ定款、保險金額、契約者數及其ノ地方別統計表竝保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ合資會社ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八章　精算人

第四十四條　商法第八十九條、第九十九條ノ六及第二百二十六條第二項ノ規定ニ依リ保險會社ノ利害關係人カ清算人ノ選任ヲ請求スルニハ其ノ申請書ニ利害

關係人タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコト要ス

第四十五條　保險業法第十三條ノ二第四項ノ規定ニ依リ株主又ハ社員カ清算人ノ解任ヲ請求スルニハ其ノ申請書ニ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主タルコト若ハ社員ノ十分ノ一以上ニ當ル社員タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

定款ヲ以テ前項ノ請求ヲ爲ス社員ニ付キ他ノ標準ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ標準ニ適合スルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十六條　保險業法第十三條ノ三ノ規定ニ依リ定メタル報酬額ハ農商務大臣必要アリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第四十七條　保險會社ノ清算人ハ毎月ノ清算狀況ヲ翌月十五日マテニ農商務大臣ニ屆出ツルコトヲ要ス但シ重要ナル事項ニ付テハ其ノ都度遲滯ナク之ヲ屆ツルコトヲ要ス

第四十八條　保險會社ノ清算人カ商法第百九十二條、第二百二十七條又ハ第二百三十條ノ規定ニ依リ總會ニ於テ財產目錄、貸借對照表、事業報告書又ハ決算報告書ノ承認ヲ得タルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第四十九條　保險會社ノ清算人ハ商法第二百三十三條ノ規定ニ依ル保存者ノ選任アリタルトキハ其ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ遲滯ナク農商務大臣ニ屆出ツルコトヲ要ス

第九章　罰則

第五十條　保險會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第八條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ保險證券ニ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル書面ヲ添附シタルトキ

二　第七條、第十四條、第十六條、第十七條、第二十條、第三十四條、又ハ第三十七條第四項ノ規定ニ違反シタルトキ

第五十一條　保險會社ノ取締役、監査役、支配人又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ科料ニ處ス

一　第三十五條、第四十一條及第四十三條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ認許シタル方法ニ違反シテ公告ヲ爲シタルトキ

二　第三十九條及第四十二條ニ定ムル方法ト異ル方法ニ依リ公告ヲ爲シタルトキ

三　第六條、第二十一條、第二十二條、第四十七條又ハ第四十八條ノ規定ニ違反シテ屆出又ハ書類ノ差出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第十章　附則

第五十二條　本則ハ明治四十五年法律第十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條　本則ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ其ノ施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生シタル効力ヲ妨ケス

第五十四條　保險會社ニシテ明治四十五年法律第十八號附則第三條第一項ノ規定ニ依リ保險業法第五條第五號ノ書類ニ定ムヘキ事項ニ付キ認可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク認可ノ時ニ於ケル財產ノ利用現狀ヲ農商務大臣ニ屆出ツルコトヲ要ス

第五十一條第三號ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　本則施行後六箇月間ニ限リ第八條第三項ニ規定スル事項ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十六條　本則施行ノ當時現ニ利用スル會社ノ財產ニシテ第十六條ノ規定ニ違反スルモノヲ改ムルコトヲ要セス但シ本則施行ノ後其ノ利用方法ヲ變更スルトキハ第十六條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第五十條第二號ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之準用ス

第五十七條　第十八條、第十九條及第二十一條ノ規定ニ該當スル事項ニ付テハ本則施行ノ際既ニ開始セル事業年度ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十八條　本則施行ノ際保險事業ヲ營ムコトヲ認許セラレサル保險者ト現ニ再保險ノ取引ヲ爲セル保險會社カ本則施行後引續キ其ノ保險者ニ再保險ヲ附セントスルトキハ本則施行後六箇月內ニ第三十二條第二項ノ認可申請ヲ爲シタル場合ニ限リ其ノ處分ヲ受クルニ至ル迄其ノ保險者トノ再保險取引ニ付キ第三十二條第二項ノ認可ヲ受ケタルモノト看破ス

（書式ハ之ヲ略ス）

○保險業法中改正ノ件施行期日

（大正元年一二月勅令第五六號）

朕明治四十五年法律第十八號施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治四十五年法律第十八號ハ大正二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○肥料取締法施行規則中改正

（大正元年八月農商務省令第一號）

肥料取締法施行規則中左ノ通改正シ大正元年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條第四號ヲ削ル

第二條第二號ヲ「製造法ノ大要」ニ改メ第三號ヲ左ノ如ク改ム

第十三條第一項第一號又ハ第四號ニ該當スル肥料ニ在リテハ各原料ニ含有スル百分ノ一以上ノ窒素、燐酸、加里ノ最少量及同第四號ニ該當スル肥料ニ付角粉、蹄粉、皮紛、毛粉、羽粉、骨炭末、骨灰、「グアノ」其ノ他之ニ類スル原料ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ配合歩合ノ最多量

第三條第四號ヲ「賣買營業者ヲ除クノ外保證票ヲ添附スヘキ肥料ニ在リテハ其ノ保證成分量」ニ改メ第五號ヲ削ル

第五條第二項ヲ削ル

第六條中「行商鑑札」ノ上ニ「肥料營業ノ免許ヲ與ヘタル地方長官ノ所轄區域外ニ於テ行商スルノ目的ヲ以テ」ヲ加ヘ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ依リ地方長官ニ差出シタル書類ノ寫ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ直ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第八條中「若ハ賣買」ヲ削リ「第五號」ヲ「第四號」ニ改ム

第九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

肥料營業者ハ第一條第一號、第三號、第三條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ニ變更アリタルトキ又ハ其ノ營業ヲ廢止若ハ休止シタルトキハ二週間內ニ、其ノ休止シタル營業ヲ開始シタルトキハ直ニ、各製造場營業所及藏置所所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十條中「輸入港又ハ移入港」ヲ削ル

第十二條第一號中「亞麻仁油粕」ノ下ニ「麻實油粕、植物雜油粕、米糠油粕」第二號中「魚族荒粕」ノ下ニ「獸肉搾粕、蠶蛹油粕」第三號中「硫酸アンモニア」ノ下ニ「加里鹽類」ヲ加フ

第十三條第一項中「シテ販賣」及「內部及」ヲ削リ第三號中「及亞麻仁油粕」ヲ「亞麻仁油粕、麻實油粕、植物雜油粕、米糠油粕」ニ改メ第二項中「肥料ヲ分割シ」ヲ「天災其ノ他特別ノ事故ニ因リ其ノ主成分量ニ異動ヲ生シ」ニ改ム

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ肥料ニ含有スル百分ノ一未滿ノ主成分量ト雖之カ記載ヲ命スルコトヲ得

第十五條第一項第五號中「日」ヲ削リ第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

前項第三號ノ主成分量ハ其ノ肥料ニ含有スル百分ノ一以上ノ窒素、燐酸、加里ノ各全量ノ最少量ヲ記載スヘキモノトシ尙窒素ニ在リテハ硝酸性及「アンモニア」性窒素ノ各最少量ヲ記載シ燐酸ニ在リテハ水ニ溶解スル燐酸ト水ニ溶解セスシテ枸櫞酸「アンモニア」ニ溶解スル燐酸トノ和ノ最少量ヲ可溶解燐酸ノ量トシテ記載スヘシ但シ燐酸二石灰、燐酸四石灰ヲ燐酸ノ主成分トスル肥料ニ在リテハ燐酸 其ノ全量ノ最少量ノ外枸櫞酸ニ溶解スル燐酸ノ最少量ヲ記載スヘシ

第十五條ノ二 左記ノ肥料ニ在リテハ其ノ下ニ掲クル主成分ノ最少量ヲ記載シテ前條ノ記載ニ代フルコトヲ得

「アンモニア」鹽類　「アンモニア」性窒素
硝酸鹽類　硝酸性窒素
石灰窒素　窒素石灰
肉粉乾血

角粉　蹄粉　窒素全量
皮粉　毛粉
羽粉
骨炭末　骨灰　燐酸全量
骨粉「タンケージ」
「グアノ」油粕　窒素全量及燐酸全量
粉末魚肥搾粕

第十九條中「陸揚前」ヲ「陸揚後」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ大豆油粕ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 肥料營業者ハ各營業所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓受ケ若ハ肥料營業者ニ之ヲ讓渡ス每ニ其ノ名稱、數量、價額、年月日、相手方ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

肥料製造營業者ハ前項ノ外其ノ製造場ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ製造スル每ニ其ノ名稱、數量及年月日ヲ記載スヘシ

前二項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二年以上之ヲ保存スヘシ

第二十一條 肥料ノ製造、輸入又ハ移入ノ營業者ハ各營業所ニ於テ前年中ニ製造、輸入又ハ移入シタル肥料ノ名稱別ノ數量及價格ヲ製造、輸入又ハ移入ニ區別シ每年二月末日迄ニ各營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

肥料製造營業者ハ各製造場ニ於テ前年中ニ製造ノ原料ニ供シタル肥料ノ名稱別ノ數量及價額ヲ前項ノ屆出ト同時ニ屆出ツヘシ

營業者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ屆出ト同時ニ前各項ニ準シ屆出ツヘシ

營業者死亡シタルトキハ相續人ヨリ其ノ屆出ト同時ニ前各項ニ準シ屆出ツヘシ

第二十三條 削除

第二十四條中「貳拾五圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第十類

○郵便規則中改正（大正元年八月遞信省令第七號）

郵便規則中左ノ通改正ス

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條ノ三 約束郵便物ニハ日附印ヲ押捺セス

○同上（大正元年一二月遞信省令第二六號）

郵便規則中左ノ通改正ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條中「其ノ納付人ノ請求ニ依リ」ノ下ニ「通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨、郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ」ヲ加フ

○同上（大正元年一〇月遞信省令第一四號）

郵便爲替規則中左ノ通改正ス

本令ハ大正元年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十八條　削除

第五十九條　拂渡郵便局所ニ於テ拂渡濟通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ請求ノ區別ニ依リ郵便又ハ電報ヲ以テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

○通常郵便物市内特別取扱規則中改正（大正元年八月遞信省令第一號）

通常郵便物市内特別取扱規則中左ノ通改正ス

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　市内特別取扱ノ無封同文書狀ニハ到著日附印第三種及第四種郵便物ニハ引受及到著日附印ヲ押捺セス

○郵便貯金規則中改正（大正元年一一月遞信省令第一六號）

郵便貯金規則中左ノ通改正ス

第四條、第十五條、第十六條、第二十二條ノ二、第二十六條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十五條、第三十六條、第三十九條、第六十一條、第六十三條、第七十七條、第七十九條、第八十二條、第八十三條、第八十七條、第九十一條、第九十七條、第九十九條及第百二十八條中「郵便貯金局又ハ同支局又ハ「郵便貯金局若ハ同支局」トアルヲ「貯金原簿所管廳」ニ改ム

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

貯金預ケ人其ノ住所ヲ他ノ貯金原簿所管廳ノ受持區域内ニ移轉シタルトキハ當該原簿所管廳ニ預ケ人原簿ノ移替ヲ請求スル旨ヲ通知スルヲ要ス

預ケ人前項ノ請求ヲ爲スニハ貯金通帳ヲ提出スヘシ

第十七條　削除

第十八條　貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十條　削除

第二十一條　削除

第二十二條　貯金ノ拂戻ハ貯金通帳ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　削除

第二十四條　削除

第二十五條　削除

第二十六條　削除

第二十七條　削除

第二十八條　削除

第二十九條　削除

第三十條　削除

第三十一條　削除

第三十二條　削除

第三十三條　削除

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　削除

第三十七條　削除

第三十八條　削除

第三十九條　削除

第四十條　削除

第四十一條　削除

第四十二條　削除

第四十三條　削除

第四十四條　削除

第四十五條　削除

第四十六條　削除

第四十七條　削除

第四十八條　削除

第四十九條　削除

第五十條　削除

第五十一條　削除

第五十二條　削除

第五十三條　削除

第五十四條　削除

第五十五條　削除

第五十六條　削除

第五十七條　削除

第五十八條　削除

第五十九條　削除

第六十條　削除

第六十一條　削除

第六十二條　削除

第六十三條　削除

第六十四條　削除

第六十五條　削除

第六十六條　削除

第六十七條　削除

第六十八條　削除

第六十九條　削除

第七十條　削除

第七十一條　削除

第七十二條　削除

第七十三條　削除

第七十四條　削除

第七十五條　削除

第七十六條　削除

第七十七條　削除

第七十八條　削除

第七十九條　削除

第八十條　削除

第八十一條　削除

第八十二條　削除

第八十三條　削除

第八十四條　削除

第八十五條　削除

第八十六條　削除

第八十七條　削除

第八十八條　削除

第八十九條　削除

第九十條　削除

第九十一條　削除

第九十二條　削除

第九十三條　削除

第九十四條　削除

第九十五條　削除

第九十六條　削除

第九十七條　削除

第九十八條　削除

第九十九條　削除

第百條　削除

第百一條　削除

第百二條　削除

第百三條　削除

第百四條　削除

第百五條　削除

第百六條　削除

第百七條　削除

第百八條　削除

第百九條　削除

第百十條　削除

第百十一條　削除

第百十二條　削除

第百十三條　削除

第百十四條　削除

第百十五條　削除

第百十六條　削除

第百十七條　削除

第百十八條　削除

第百十九條　削除

第百二十條　削除

第百二十一條　削除

第百二十二條　削除

第百二十三條　削除

第百二十四條　削除

第百二十五條　削除

第百二十六條　削除

第百二十七條　削除

第百二十八條　削除

第百二十九條　削除

第百三十條　削除

第百三十一條　削除

第百三十二條　削除

第百三十三條　削除

第百三十四條　削除

第百三十五條　削除

第百三十六條　削除

第百三十七條　削除

第百三十八條　削除

第百三十九條　削除

第百四十條　削除

第百四十一條　削除

第百四十二條　削除

第百四十三條　削除

第百四十四條　削除

第百四十五條　削除

第百四十六條　削除

第百四十七條　削除

第百四十八條　削除

第百四十九條　削除

第百五十條　削除

第百五十一條　削除

第百五十二條　削除

第百五十三條　削除

第百五十四條　削除

第百五十五條　削除

第百五十六條　削除

第百五十七條　削除

第百五十八條　削除

第百五十九條　削除

第百六十條　削除

第百六十一條　削除

第百六十二條　削除

第百六十三條　削除

第百六十四條　削除

第百六十五條　削除

第百六十六條　削除

第百六十七條　削除

第百六十八條　削除

第百六十九條　削除

第百七十條　削除

第百七十一條　削除

第百七十二條　削除

第百七十三條　削除

第百七十四條　削除

第百七十五條　削除

第百七十六條　削除

第百七十七條　削除

第百七十八條　削除

第百七十九條　削除

第百八十條　削除

第百八十一條　削除

第百八十二條　削除

第百八十三條　削除

第百八十四條　削除

第百八十五條　削除

第百八十六條　削除

第百八十七條　削除

第百八十八條　削除

第百八十九條　削除

第百九十條　削除

第百九十一條　削除

第百九十二條　削除

第百九十三條　削除

第百九十四條　削除

第百九十五條　削除

第百九十六條　削除

第百九十七條　削除

第百九十八條　削除

第百九十九條　削除

第二百條　削除

第二百一條　削除

第二百二條　削除

第二百三條　削除

第二百四條　削除

第二百五條　削除

第二百六條　削除

第二百七條　削除

第二百八條　削除

第二百九條　削除

第二百十條　削除

第二百十一條　削除

第二百十二條　削除

第二百十三條　削除

第二百十四條　削除

第二百十五條　削除

第二百十六條　削除

第二百十七條　削除

第二百十八條　削除

第二百十九條　削除

第二百二十條　削除

第二百二十一條　削除

第二百二十二條　削除

第二百二十三條　削除

第二百二十四條　削除

第二百二十五條　削除

第二百二十六條　削除

第二百二十七條　削除

第二百二十八條　削除

第二百二十九條　削除

第二百三十條　削除

第二百三十一條　削除

第二百三十二條　削除

第二百三十三條　削除

第二百三十四條　削除

第二百三十五條　削除

第二百三十六條　削除

第二百三十七條　削除

第二百三十八條　削除

第二百三十九條　削除

第二百四十條　削除

第二百四十一條　削除

第二百四十二條　削除

第二百四十三條　削除

第二百四十四條　削除

第二百四十五條　削除

第二百四十六條　削除

第二百四十七條　削除

第二百四十八條　削除

第二百四十九條　削除

第二百五十條　削除

第二百五十一條　削除

第二百五十二條　削除

第二百五十三條　削除

第二百五十四條　削除

第二百五十五條　削除

第二百五十六條　削除

第二百五十七條　削除

第二百五十八條　削除

第二百五十九條　削除

第二百六十條　削除

第二百六十一條　削除

第二百六十二條　削除

第二百六十三條　削除

第二百六十四條　削除

第二百六十五條　削除

第二百六十六條　削除

第二百六十七條　削除

第二百六十八條　削除

第二百六十九條　削除

第二百七十條　削除

第二百七十一條　削除

第二百七十二條　削除

第二百七十三條　削除

第二百七十四條　削除

第二百七十五條　削除

第二百七十六條　削除

第二百七十七條　削除

第二百七十八條　削除

第二百七十九條　削除

第二百八十條　削除

第二百八十一條　削除

第二百八十二條　削除

第二百八十三條　削除

第二百八十四條　削除

第二百八十五條　削除

第二百八十六條　削除

第二百八十七條　削除

第二百八十八條　削除

第二百八十九條　削除

第二百九十條　削除

第二百九十一條　削除

第二百九十二條　削除

第二百九十三條　削除

第二百九十四條　削除

第二百九十五條　削除

第二百九十六條　削除

第二百九十七條　削除

第二百九十八條　削除

第二百九十九條　削除

第三百條　削除

第三百一條　削除

第三百二條　削除

第三百三條　削除

第三百四條　削除

第三百五條　削除

第三百六條　削除

第三百七條　削除

第三百八條　削除

第三百九條　削除

第三百十條　削除

第三百十一條　削除

第三百十二條　削除

第三百十三條　削除

第三百十四條　削除

第三百十五條　削除

第三百十六條　削除

第三百十七條　削除

第三百十八條　削除

第三百十九條　削除

第三百二十條　削除

第三百二十一條　削除

第三百二十二條　削除

第三百二十三條　削除

第三百二十四條　削除

第三百二十五條　削除

第三百二十六條　削除

第三百二十七條　削除

第三百二十八條　削除

第三百二十九條　削除

第三百三十條　削除

第三百三十一條　削除

第三百三十二條　削除

第三百三十三條　削除

第三百三十四條　削除

第三百三十五條　削除

第三百三十六條　削除

第三百三十七條　削除

第三百三十八條　削除

第三百三十九條　削除

第三百四十條　削除

第三百四十一條　削除

第三百四十二條　削除

第三百四十三條　削除

第三百四十四條　削除

第三百四十五條　削除

第三百四十六條　削除

第三百四十七條　削除

第三百四十八條　削除

第三百四十九條　削除

第三百五十條　削除

第三百五十一條　削除

第三百五十二條　削除

第三百五十三條　削除

第三百五十四條　削除

第三百五十五條　削除

第三百五十六條　削除

第三百五十七條　削除

第三百五十八條　削除

第三百五十九條　削除

第三百六十條　削除

第三百六十一條　削除

第三百六十二條　削除

第三百六十三條　削除

第三百六十四條　削除

第三百六十五條　削除

第三百六十六條　削除

第三百六十七條　削除

第三百六十八條　削除

第三百六十九條　削除

第三百七十條　削除

第三百七十一條　削除

第三百七十二條　削除

第三百七十三條　削除

第三百七十四條　削除

第三百七十五條　削除

第三百七十六條　削除

第三百七十七條　削除

第三百七十八條　削除

第三百七十九條　削除

第三百八十條　削除

第三百八十一條　削除

第三百八十二條　削除

第三百八十三條　削除

第三百八十四條　削除

第三百八十五條　削除

第三百八十六條　削除

第三百八十七條　削除

第三百八十八條　削除

第三百八十九條　削除

第三百九十條　削除

第三百九十一條　削除

第三百九十二條　削除

第三百九十三條　削除

第三百九十四條　削除

第三百九十五條　削除

第三百九十六條　削除

第三百九十七條　削除

第三百九十八條　削除

第三百九十九條　削除

第四百條　削除

第四百一條　削除

第四百二條　削除

第四百三條　削除

第四百四條　削除

第四百五條　削除

第四百六條　削除

第四百七條　削除

第四百八條　削除

第四百九條　削除

第四百十條　削除

第四百十一條　削除

第四百十二條　削除

第四百十三條　削除

第四百十四條　削除

第四百十五條　削除

第四百十六條　削除

第四百十七條　削除

第四百十八條　削除

第四百十九條　削除

第四百二十條　削除

第四百二十一條　削除

第四百二十二條　削除

第四百二十三條　削除

第四百二十四條　削除

第四百二十五條　削除

第四百二十六條　削除

第四百二十七條　削除

第四百二十八條　削除

第四百二十九條　削除

第四百三十條　削除

第四百三十一條　削除

第四百三十二條　削除

第四百三十三條　削除

第四百三十四條　削除

第四百三十五條　削除

第四百三十六條　削除

第四百三十七條　削除

第四百三十八條　削除

第四百三十九條　削除

第四百四十條　削除

第四百四十一條　削除

第四百四十二條　削除

第四百四十三條　削除

第四百四十四條　削除

第四百四十五條　削除

第四百四十六條　削除

第四百四十七條　削除

第四百四十八條　削除

第四百四十九條　削除

第四百五十條　削除

第四百五十一條　削除

第四百五十二條　削除

第四百五十三條　削除

第四百五十四條　削除

第四百五十五條　削除

第四百五十六條　削除

第四百五十七條　削除

第四百五十八條　削除

第四百五十九條　削除

第四百六十條　削除

第四百六十一條　削除

第四百六十二條　削除

第四百六十三條　削除

第四百六十四條　削除

第四百六十五條　削除

第四百六十六條　削除

第四百六十七條　削除

第四百六十八條　削除

第四百六十九條　削除

第四百七十條　削除

第四百七十一條　削除

第四百七十二條　削除

第四百七十三條　削除

第四百七十四條　削除

第四百七十五條　削除

第四百七十六條　削除

第四百七十七條　削除

第四百七十八條　削除

第四百七十九條　削除

第四百八十條　削除

第四百八十一條　削除

第四百八十二條　削除

第四百八十三條　削除

第四百八十四條　削除

第四百八十五條　削除

第四百八十六條　削除

第四百八十七條　削除

第四百八十八條　削除

第四百八十九條　削除

第四百九十條　削除

第四百九十一條　削除

第四百九十二條　削除

第四百九十三條　削除

第四百九十四條　削除

第四百九十五條　削除

第四百九十六條　削除

第四百九十七條　削除

第四百九十八條　削除

第四百九十九條　削除

第五百條　削除

第五百一條　削除

第五百二條　削除

第五百三條　削除

第五百四條　削除

第五百五條　削除

第五百六條　削除

第五百七條　削除

第五百八條　削除

第五百九條　削除

第五百十條　削除

第五百十一條　削除

第五百十二條　削除

第五百十三條　削除

第五百十四條　削除

第五百十五條　削除

第五百十六條　削除

第五百十七條　削除

第五百十八條　削除

第五百十九條　削除

第五百二十條　削除

第五百二十一條　削除

第五百二十二條　削除

第五百二十三條　削除

第五百二十四條　削除

第五百二十五條　削除

第五百二十六條　削除

第五百二十七條　削除

第五百二十八條　削除

第五百二十九條　削除

第五百三十條　削除

第五百三十一條　削除

第五百三十二條　削除

第五百三十三條　削除

第五百三十四條　削除

第五百三十五條　削除

第五百三十六條　削除

第五百三十七條　削除

第五百三十八條　削除

第五百三十九條　削除

第五百四十條　削除

第五百四十一條　削除

第五百四十二條　削除

第五百四十三條　削除

第五百四十四條　削除

第五百四十五條　削除

第五百四十六條　削除

第五百四十七條　削除

第五百四十八條　削除

第五百四十九條　削除

第五百五十條　削除

第五百五十一條　削除

第五百五十二條　削除

第五百五十三條　削除

第五百五十四條　削除

第五百五十五條　削除

第五百五十六條　削除

第五百五十七條　削除

第五百五十八條　削除

第五百五十九條　削除

第五百六十條　削除

第五百六十一條　削除

第五百六十二條　削除

第五百六十三條　削除

第五百六十四條　削除

第五百六十五條　削除

第五百六十六條　削除

第五百六十七條　削除

第五百六十八條　削除

第五百六十九條　削除

第五百七十條　削除

第五百七十一條　削除

第五百七十二條　削除

第五百七十三條　削除

第五百七十四條　削除

第五百七十五條　削除

第五百七十六條　削除

第五百七十七條　削除

第五百七十八條　削除

第五百七十九條　削除

第五百八十條　削除

第五百八十一條　削除

第五百八十二條　削除

第五百八十三條　削除

第五百八十四條　削除

第五百八十五條　削除

第五百八十六條　削除

第五百八十七條　削除

第五百八十八條　削除

第五百八十九條　削除

第五百九十條　削除

第五百九十一條　削除

第五百九十二條　削除

第五百九十三條　削除

第五百九十四條　削除

第五百九十五條　削除

第五百九十六條　削除

第五百九十七條　削除

第五百九十八條　削除

第五百九十九條　削除

第六百條　削除

第六百一條　削除

第六百二條　削除

第六百三條　削除

第六百四條　削除

第六百五條　削除

第六百六條　削除

第六百七條　削除

第六百八條　削除

第六百九條　削除

第六百十條　削除

第六百十一條　削除

第六百十二條　削除

第六百十三條　削除

第六百十四條　削除

第六百十五條　削除

第六百十六條　削除

第六百十七條　削除

第六百十八條　削除

第六百十九條　削除

第六百二十條　削除

第六百二十一條　削除

第六百二十二條　削除

第六百二十三條　削除

第六百二十四條　削除

第六百二十五條　削除

第六百二十六條　削除

第六百二十七條　削除

第六百二十八條　削除

第六百二十九條　削除

第六百三十條　削除

第六百三十一條　削除

第六百三十二條　削除

第六百三十三條　削除

第六百三十四條　削除

第六百三十五條　削除

第六百三十六條　削除

第六百三十七條　削除

第六百三十八條　削除

第六百三十九條　削除

第六百四十條　削除

第六百四十一條　削除

第六百四十二條　削除

第六百四十三條　削除

第六百四十四條　削除

第六百四十五條　削除

第六百四十六條　削除

第六百四十七條　削除

第六百四十八條　削除

第六百四十九條　削除

第六百五十條　削除

第六百五十一條　削除

第六百五十二條　削除

第六百五十三條　削除

第六百五十四條　削除

第六百五十五條　削除

第六百五十六條　削除

第六百五十七條　削除

第六百五十八條　削除

第六百五十九條　削除

第六百六十條　削除

第六百六十一條　削除

第六百六十二條　削除

第六百六十三條　削除

第六百六十四條　削除

第六百六十五條　削除

第六百六十六條　削除

第六百六十七條　削除

第六百六十八條　削除

第六百六十九條　削除

第六百七十條　削除

第六百七十一條　削除

第六百七十二條　削除

第六百七十三條　削除

第六百七十四條　削除

第六百七十五條　削除

第六百七十六條　削除

第六百七十七條　削除

第六百七十八條　削除

第六百七十九條　削除

第六百八十條　削除

第六百八十一條　削除

第六百八十二條　削除

第六百八十三條　削除

第六百八十四條　削除

第六百八十五條　削除

第六百八十六條　削除

第六百八十七條　削除

第六百八十八條　削除

第六百八十九條　削除

第六百九十條　削除

第六百九十一條　削除

第六百九十二條　削除

第六百九十三條　削除

第六百九十四條　削除

第六百九十五條　削除

第六百九十六條　削除

第六百九十七條　削除

第六百九十八條　削除

第六百九十九條　削除

第七百條　削除

第七百一條　削除

第七百二條　削除

第七百三條　削除

第七百四條　削除

第七百五條　削除

第七百六條　削除

第七百七條　削除

第七百八條　削除

第七百九條　削除

第七百十條　削除

第七百十一條　削除

第七百十二條　削除

第七百十三條　削除

第七百十四條　削除

第七百十五條　削除

第七百十六條　削除

第七百十七條　削除

第七百十八條　削除

第七百十九條　削除

第七百二十條　削除

第七百二十一條　削除

第七百二十二條　削除

第七百二十三條　削除

第七百二十四條　削除

第七百二十五條　削除

第七百二十六條　削除

第七百二十七條　削除

第七百二十八條　削除

第七百二十九條　削除

第七百三十條　削除

第七百三十一條　削除

第七百三十二條　削除

第七百三十三條　削除

第七百三十四條　削除

第七百三十五條　削除

第七百三十六條　削除

第七百三十七條　削除

第七百三十八條　削除

第七百三十九條　削除

第七百四十條　削除

第七百四十一條　削除

第七百四十二條　削除

第七百四十三條　削除

第七百四十四條　削除

第七百四十五條　削除

第七百四十六條　削除

第七百四十七條　削除

第七百四十八條　削除

第七百四十九條　削除

第七百五十條　削除

第七百五十一條　削除

第七百五十二條　削除

第七百五十三條　削除

第七百五十四條　削除

第七百五十五條　削除

第七百五十六條　削除

第七百五十七條　削除

第七百五十八條　削除

第七百五十九條　削除

第七百六十條　削除

第七百六十一條　削除

第七百六十二條　削除

第七百六十三條　削除

第七百六十四條　削除

第七百六十五條　削除

第七百六十六條　削除

第七百六十七條　削除

第七百六十八條　削除

第七百六十九條　削除

第七百七十條　削除

第七百七十一條　削除

第七百七十二條　削除

第七百七十三條　削除

第七百七十四條　削除

第七百七十五條　削除

第七百七十六條　削除

第七百七十七條　削除

第七百七十八條　削除

第七百七十九條　削除

第七百八十條　削除

第七百八十一條　削除

第七百八十二條　削除

第七百八十三條　削除

第七百八十四條　削除

第七百八十五條　削除

第七百八十六條　削除

第七百八十七條　削除

第七百八十八條　削除

第七百八十九條　削除

第七百九十條　削除

第七百九十一條　削除

第七百九十二條　削除

第七百九十三條　削除

第七百九十四條　削除

第七百九十五條　削除

第七百九十六條　削除

第七百九十七條　削除

第七百九十八條　削除

第七百九十九條　削除

第八百條　削除

第八百一條　削除

第八百二條　削除

第八百三條　削除

第八百四條　削除

第八百五條　削除

第八百六條　削除

第八百七條　削除

第八百八條　削除

第八百九條　削除

第八百十條　削除

第八百十一條　削除

第八百十二條　削除

第八百十三條　削除

第八百十四條　削除

第八百十五條　削除

第八百十六條　削除

第八百十七條　削除

第八百十八條　削除

第八百十九條　削除

第八百二十條　削除

第八百二十一條　削除

第八百二十二條　削除

第八百二十三條　削除

第八百二十四條　削除

第八百二十五條　削除

第八百二十六條　削除

第八百二十七條　削除

第八百二十八條　削除

第八百二十九條　削除

第八百三十條　削除

第八百三十一條　削除

第八百三十二條　削除

第八百三十三條　削除

第八百三十四條　削除

第八百三十五條　削除

第八百三十六條　削除

第八百三十七條　削除

第八百三十八條　削除

第八百三十九條　削除

第八百四十條　削除

第八百四十一條　削除

第八百四十二條　削除

第八百四十三條　削除

第八百四十四條　削除

第八百四十五條　削除

第八百四十六條　削除

第八百四十七條　削除

第八百四十八條　削除

第八百四十九條　削除

第八百五十條　削除

第八百五十一條　削除

第八百五十二條　削除

第八百五十三條　削除

第八百五十四條　削除

第八百五十五條　削除

第八百五十六條　削除

第八百五十七條　削除

第八百五十八條　削除

第八百五十九條　削除

第八百六十條　削除

第八百六十一條　削除

第八百六十二條　削除

第八百六十三條　削除

第八百六十四條　削除

第八百六十五條　削除

第八百六十六條　削除

第八百六十七條　削除

第八百六十八條　削除

第八百六十九條　削除

第八百七十條　削除

第八百七十一條　削除

第八百七十二條　削除

第八百七十三條　削除

第八百七十四條　削除

第八百七十五條　削除

第八百七十六條　削除

第八百七十七條　削除

第八百七十八條　削除

第八百七十九條　削除

第八百八十條　削除

第八百八十一條　削除

第八百八十二條　削除

第八百八十三條　削除

第八百八十四條　削除

第八百八十五條　削除

第八百八十六條　削除

第八百八十七條　削除

第八百八十八條　削除

第八百八十九條　削除

第八百九十條　削除

第八百九十一條　削除

第八百九十二條　削除

第八百九十三條　削除

第八百九十四條　削除

第八百九十五條　削除

第八百九十六條　削除

第八百九十七條　削除

第八百九十八條　削除

第八百九十九條　削除

第九百條　削除

第九百一條　削除

第九百二條　削除

第九百三條　削除

第九百四條　削除

第九百五條　削除

第九百六條　削除

第九百七條　削除

第九百八條　削除

第九百九條　削除

第九百十條　削除

第九百十一條　削除

第九百十二條　削除

第九百十三條　削除

第九百十四條　削除

第九百十五條　削除

第九百十六條　削除

第九百十七條　削除

第九百十八條　削除

第九百十九條　削除

第九百二十條　削除

第九百二十一條　削除

第九百二十二條　削除

第九百二十三條　削除

第九百二十四條　削除

第九百二十五條　削除

第九百二十六條　削除

第九百二十七條　削除

第九百二十八條　削除

第九百二十九條　削除

第九百三十條　削除

第九百三十一條　削除

第九百三十二條　削除

第九百三十三條　削除

第九百三十四條　削除

第九百三十五條　削除

第九百三十六條　削除

第九百三十七條　削除

第九百三十八條　削除

第九百三十九條　削除

第九百四十條　削除

第九百四十一條　削除

第九百四十二條　削除

第九百四十三條　削除

第九百四十四條　削除

第九百四十五條　削除

第九百四十六條　削除

第九百四十七條　削除

第九百四十八條　削除

第九百四十九條　削除

第九百五十條　削除

第九百五十一條　削除

第九百五十二條　削除

第九百五十三條　削除

第九百五十四條　削除

第九百五十五條　削除

第九百五十六條　削除

第九百五十七條　削除

第九百五十八條　削除

第九百五十九條　削除

第九百六十條　削除

第九百六十一條　削除

第九百六十二條　削除

第九百六十三條　削除

第九百六十四條　削除

第九百六十五條　削除

第九百六十六條　削除

第九百六十七條　削除

第九百六十八條　削除

第九百六十九條　削除

第九百七十條　削除

第九百七十一條　削除

第九百七十二條　削除

第九百七十三條　削除

第九百七十四條　削除

第九百七十五條　削除

第九百七十六條　削除

第九百七十七條　削除

第九百七十八條　削除

第九百七十九條　削除

第九百八十條　削除

第九百八十一條　削除

第九百八十二條　削除

第九百八十三條　削除

第九百八十四條　削除

第九百八十五條　削除

第九百八十六條　削除

第九百八十七條　削除

第九百八十八條　削除

第九百八十九條　削除

第九百九十條　削除

第九百九十一條　削除

第九百九十二條　削除

第九百九十三條　削除

第九百九十四條　削除

第九百九十五條　削除

第九百九十六條　削除

第九百九十七條　削除

第九百九十八條　削除

第九百九十九條　削除

第千條　削除

第千一條　削除

第千二條　削除

第千三條　削除

第千四條　削除

第千五條　削除

第千六條　削除

第千七條　削除

第千八條　削除

第千九條　削除

第千十條　削除

第千十一條　削除

第千十二條　削除

第千十三條　削除

第千十四條　削除

第千十五條　削除

第千十六條　削除

第千十七條　削除

第千十八條　削除

第千十九條　削除

第千二十條　削除

第千二十一條　削除

第千二十二條　削除

第千二十三條　削除

第千二十四條　削除

第千二十五條　削除

第千二十六條　削除

第千二十七條　削除

第千二十八條　削除

第千二十九條　削除

第千三十條　削除

第千三十一條　削除

第千三十二條　削除

第千三十三條　削除

第千三十四條　削除

第千三十五條　削除

第千三十六條　削除

第千三十七條　削除

第千三十八條　削除

第千三十九條　削除

第千四十條　削除

第千四十一條　削除

第千四十二條　削除

第千四十三條　削除

第千四十四條　削除

第千四十五條　削除

第千四十六條　削除

第千四十七條　削除

第千四十八條　削除

第千四十九條　削除

第千五十條　削除

第千五十一條　削除

第千五十二條　削除

第千五十三條　削除

第千五十四條　削除

第千五十五條　削除

第千五十六條　削除

第千五十七條　削除

第千五十八條　削除

第千五十九條　削除

第千六十條　削除

第千六十一條　削除

第千六十二條　削除

第千六十三條　削除

第千六十四條　削除

第千六十五條　削除

第千六十六條　削除

第千六十七條　削除

第千六十八條　削除

第千六十九條　削除

第千七十條　削除

第千七十一條　削除

第千七十二條　削除

第千七十三條　削除

第千七十四條　削除

第千七十五條　削除

第千七十六條　削除

第千七十七條　削除

第千七十八條　削除

第千七十九條　削除

第千八十條　削除

第千八十一條　削除

第千八十二條　削除

第千八十三條　削除

第千八十四條　削除

第千八十五條　削除

第千八十六條　削除

第千八十七條　削除

第千八十八條　削除

第千八十九條　削除

第千九十條　削除

第千九十一條　削除

第千九十二條　削除

第千九十三條　削除

第千九十四條　削除

第千九十五條　削除

第千九十六條　削除

第千九十七條　削除

第千九十八條　削除

第千九十九條　削除

第千百條　削除

第千百一條　削除

第千百二條　削除

第千百三條　削除

第千百四條　削除

第千百五條　削除

第千百六條　削除

第千百七條　削除

第千百八條　削除

第千百九條　削除

第千百十條　削除

第千百十一條　削除

第千百十二條　削除

第千百十三條　削除

第千百十四條　削除

第千百十五條　削除

第千百十六條　削除

第千百十七條　削除

第千百十八條　削除

第千百十九條　削除

第千百二十條　削除

第千百二十一條　削除

第千百二十二條　削除

第千百二十三條　削除

第千百二十四條　削除

第千百二十五條　削除

第千百二十六條　削除

第千百二十七條　削除

第千百二十八條　削除

第千百二十九條　削除

第千百三十條　削除

第千百三十一條　削除

第千百三十二條　削除

第千百三十三條　削除

第千百三十四條　削除

第千百三十五條　削除

第千百三十六條　削除

第千百三十七條　削除

第千百三十八條　削除

第千百三十九條　削除

第千百四十條　削除

第千百四十一條　削除

第千百四十二條　削除

第千百四十三條　削除

第千百四十四條　削除

第千百四十五條　削除

第千百四十六條　削除

第千百四十七條　削除

第千百四十八條　削除

第千百四十九條　削除

第千百五十條　削除

第千百五十一條　削除

第千百五十二條　削除

第千百五十三條　削除

第千百五十四條　削除

第千百五十五條　削除

第千百五十六條　削除

第千百五十七條　削除

第千百五十八條　削除

第千百五十九條　削除

第千百六十條　削除

第千百六十一條　削除

第千百六十二條　削除

第千百六十三條　削除

第千百六十四條　削除

第千百六十五條　削除

第千百六十六條　削除

第千百六十七條　削除

第千百六十八條　削除

第千百六十九條　削除

第千百七十條　削除

第千百七十一條　削除

第千百七十二條　削除

第千百七十三條　削除

第千百七十四條　削除

第千百七十五條　削除

第千百七十六條　削除

第千百七十七條　削除

第千百七十八條　削除

第千百七十九條　削除

第千百八十條　削除

第千百八十一條　削除

第千百八十二條　削除

第千百八十三條　削除

第千百八十四條　削除

第千百八十五條　削除

第千百八十六條　削除

第千百八十七條　削除

第千百八十八條　削除

第千百八十九條　削除

第千百九十條　削除

第千百九十一條　削除

第千百九十二條　削除

第千百九十三條　削除

第千百九十四條　削除

第千百九十五條　削除

第千百九十六條　削除

第千百九十七條　削除

第千百九十八條　削除

第千百九十九條　削除

第千二百條　削除

第千二百一條　削除

第千二百二條　削除

第千二百三條　削除

第千二百四條　削除

第千二百五條　削除

第千二百六條　削除

第千二百七條　削除

第千二百八條　削除

第千二百九條　削除

第千二百十條　削除

第千二百十一條　削除

第千二百十二條　削除

第千二百十三條　削除

第千二百十四條　削除

第千二百十五條　削除

第千二百十六條　削除

第千二百十七條　削除

第千二百十八條　削除

第千二百十九條　削除

第千二百二十條　削除

第千二百二十一條　削除

第千二百二十二條　削除

第千二百二十三條　削除

第千二百二十四條　削除

第千二百二十五條　削除

第千二百二十六條　削除

第千二百二十七條　削除

第千二百二十八條　削除

第千二百二十九條　削除

第千二百三十條　削除

第千二百三十一條　削除

第千二百三十二條　削除

第千二百三十三條　削除

第千二百三十四條　削除

第千二百三十五條　削除

第千二百三十六條　削除

第千二百三十七條　削除

第千二百三十八條　削除

第千二百三十九條　削除

第千二百四十條　削除

第千二百四十一條　削除

第千二百四十二條　削除

第千二百四十三條　削除

第千二百四十四條　削除

第千二百四十五條　削除

第千二百四十六條　削除

第千二百四十七條　削除

第千二百四十八條　削除

第千二百四十九條　削除

第千二百五十條　削除

第千二百五十一條　削除

第千二百五十二條　削除

第千二百五十三條　削除

第千二百五十四條　削除

第千二百五十五條　削除

第千二百五十六條　削除

第千二百五十七條　削除

第千二百五十八條　削除

第千二百五十九條　削除

第千二百六十條　削除

第千二百六十一條　削除

第千二百六十二條　削除

第千二百六十三條　削除

第千二百六十四條　削除

第千二百六十五條　削除

第千二百六十六條　削除

第千二百六十七條　削除

第千二百六十八條　削除

第千二百六十九條　削除

第千二百七十條　削除

第千二百七十一條　削除

第千二百七十二條　削除

第千二百七十三條　削除

第千二百七十四條　削除

第千二百七十五條　削除

第千二百七十六條　削除

第千二百七十七條　削除

第千二百七十八條　削除

第千二百七十九條　削除

第千二百八十條　削除

第千二百八十一條　削除

第千二百八十二條　削除

第千二百八十三條　削除

第千二百八十四條　削除

第千二百八十五條　削除

第千二百八十六條　削除

第千二百八十七條　削除

第千二百八十八條　削除

第千二百八十九條　削除

第千二百九十條　削除

第千二百九十一條　削除

第千二百九十二條　削除

第千二百九十三條　削除

第千二百九十四條　削除

第千二百九十五條　削除

第千二百九十六條　削除

第千二百九十七條　削除

第千二百九十八條　削除

第千二百九十九條　削除

第千三百條　削除

第千三百一條　削除

第千三百二條　削除

第千三百三條　削除

第千三百四條　削除

第千三百五條　削除

第千三百六條　削除

第千三百七條　削除

第千三百八條　削除

第千三百九條　削除

第千三百十條　削除

第千三百十一條　削除

第千三百十二條　削除

第千三百十三條　削除

第千三百十四條　削除

第千三百十五條　削除

第千三百十六條　削除

第千三百十七條　削除

第千三百十八條　削除

第千三百十九條　削除

第千三百二十條　削除

第千三百二十一條　削除

第千三百二十二條　削除

第千三百二十三條　削除

第千三百二十四條　削除

第千三百二十五條　削除

第千三百二十六條　削除

第千三百二十七條　削除

第千三百二十八條　削除

第千三百二十九條　削除

第千三百三十條　削除

第千三百三十一條　削除

第千三百三十二條　削除

第千三百三十三條　削除

第千三百三十四條　削除

第千三百三十五條　削除

第千三百三十六條　削除

第千三百三十七條　削除

第千三百三十八條　削除

第千三百三十九條　削除

第千三百四十條　削除

第千三百四十一條　削除

第千三百四十二條　削除

第千三百四十三條　削除

第千三百四十四條　削除

第千三百四十五條　削除

第千三百四十六條　削除

第千三百四十七條　削除

第千三百四十八條　削除

第千三百四十九條　削除

第千三百五十條　削除

第千三百五十一條　削除

第千三百五十二條　削除

第千三百五十三條　削除

第千三百五十四條　削除

第千三百五十五條　削除

第千三百五十六條　削除

第千三百五十七條　削除

第千三百五十八條　削除

第千三百五十九條　削除

第千三百六十條　削除

第千三百六十一條　削除

第千三百六十二條　削除

第千三百六十三條　削除

第千三百六十四條　削除

第千三百六十五條　削除

第千三百六十六條　削除

第千三百六十七條　削除

第千三百六十八條　削除

第千三百六十九條　削除

第千三百七十條　削除

第千三百七十一條　削除

第千三百七十二條　削除

第千三百七十三條　削除

第千三百七十四條　削除

第千三百七十五條　削除

第千三百七十六條　削除

第千三百七十七條　削除

第千三百七十八條　削除

第千三百七十九條　削除

第千三百八十條　削除

第千三百八十一條　削除

第千三百八十二條　削除

第千三百八十三條　削除

第千三百八十四條　削除

第千三百八十五條　削除

第千三百八十六條　削除

第千三百八十七條　削除

第千三百八十八條　削除

第千三百八十九條　削除

第千三百九十條　削除

第千三百九十一條　削除

第千三百九十二條　削除

第千三百九十三條　削除

第千三百九十四條　削除

第千三百九十五條　削除

第千三百九十六條　削除

第千三百九十七條　削除

第千三百九十八條　削除

第千三百九十九條　削除

第千四百條　削除

第千四百一條　削除

第千四百二條　削除

第千四百三條　削除

第千四百四條　削除

第千四百五條　削除

第千四百六條　削除

第千四百七條　削除

第千四百八條　削除

第千四百九條　削除

第千四百十條　削除

第千四百十一條　削除

第千四百十二條　削除

第千四百十三條　削除

第千四百十四條　削除

第千四百十五條　削除

第千四百十六條　削除

第千四百十七條　削除

第千四百十八條　削除

第千四百十九條　削除

第千四百二十條　削除

第千四百二十一條　削除

第千四百二十二條　削除

第千四百二十三條　削除

第千四百二十四條　削除

第千四百二十五條　削除

第千四百二十六條　削除

第千四百二十七條　削除

第千四百二十八條　削除

第千四百二十九條　削除

第千四百三十條　削除

第千四百三十一條　削除

第千四百三十二條　削除

第千四百三十三條　削除

第千四百三十四條　削除

第千四百三十五條　削除

第千四百三十六條　削除

第千四百三十七條　削除

第千四百三十八條　削除

第千四百三十九條　削除

第千四百四十條　削除

第千四百四十一條　削除

第千四百四十二條　削除

第千四百四十三條　削除

第千四百四十四條　削除

第千四百四十五條　削除

第千四百四十六條　削除

第千四百四十七條　削除

第千四百四十八條　削除

第千四百四十九條　削除

第千四百五十條　削除

第千四百五十一條　削除

第千四百五十二條　削除

第千四百五十三條　削除

第千四百五十四條　削除

第千四百五十五條　削除

第千四百五十六條　削除

第千四百五十七條　削除

第千四百五十八條　削除

第千四百五十九條　削除

第千四百六十條　削除

第千四百六十一

シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面」ヲ加フ

第四十九條第一項及第七十三條第一項中「三百人」ヲ「百人」ニ改ム

第七十一條第一項中「及第二十七條」ヲ「第二十七條及第三十八條」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

○耕地整理及土地改良奨勵費

規則法改正（大正元年一〇月農商務省令第九號）

明治四十二年農商務省令第二號耕地整理及土地改良奨勵費規則中左ノ通改正ス

第二條第一號ヲ左ノ如ク改ム

耕地整理事業中當該年度ニ於テ行フ工事又ハ設備ニ要スル費用ニ對スル補助金

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ前年度ノ補助金交付申請書ニ添附シタルモノト變更ナキ規程ハ之ヲ添附スルヲ要セス

第四條第一項ノ末尾ニ「前條但書ノ規定ニ依リ添附セサリシ規程ヲ變更セムトスルトキ亦同シ」ヲ加フ

第五條中「五月」ヲ「七月」ニ改ム

第六條ヲ削除ス

第三號樣式ヲ左ノ如ク改メ第四號樣式及第五號樣式中「國庫補助額ニ對スル決算額ノ差」ノ一欄ヲ削ル

第三號樣式

大正何年度耕地整理補助金交付成績報告

耕地整理組合名又ハ整理施行地區名	地區線何郡何町村大字何字何	面積 町	工事費豫算總額 円	前年度迄ニ本年度ニ於テ終了シタル工事費額 円	本年度ニ於テ終了シタル工事費額 円	本年度補助金交付額 円
計						

附　則

本令ハ大正二年度以降ノ事業ニ對シテ之ヲ適用ス

勅令第九十二號

○耕地整理登記令中左ノ通改正ス

第八條ノ二　耕地整理ニ依ル土地ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ必要アルトキハ整理施行者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代リ土地ノ表示若ハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第八條ノ三　不動産登記法第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及第六十三條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第九條中「丙區」ヲ「乙區」ニ改ム

第二十六條中「敷地ノ地目、字若ハ番號又ハ段別若ハ坪數」ヲ「敷地ノ番號」ニ改ム

第二十六條ノ二　第八條ノ二及第八條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十三號

○船舶登記規則中左ノ通改正ス

第一條　不動産登記法第二條乃至第七條、第九條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第百一條、第百二條、第百八條、第百十七條、第百十九條、第百二十條、第百二十二條乃至第百二十七條、第百四十一條、第百四十二條、第百四十四條乃至第百四十八條、第百四十九條ノ五及ヒ第百五十條乃至第百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三條第二項ヲ削ル

第六條中「甲乙丙丁ノ四區」ヲ「甲乙丙ノ三區」ニ改メ「抵當權」ノ下ニ「及ヒ賃借權」ヲ加ヘ第七項ヲ削ル

第二十一條ノ二　前條第一項ノ場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條　削除

附　則

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年法律第十八號附則第二條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス但シ同法附則第五條中「乙區」トアルハ「丙區」ヲ謂フ

司法省令第十五號

○不動産登記法施行細則中左ノ通改正ス

第四條第二項但書ヲ削ル

第十四條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、共同擔保目錄、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　謄本抄本交付帳

二　申請書嘱託書通知書附屬書類綴込帳

三　圖面綴込帳

四　受領證原符元帳

五　各種通知簿
六　登記立會調書綴込帳
七　決定原本綴込帳
八　登記簿謄本綴込帳
九　土地登記濟通知簿
十　抗告書類綴込帳
十一　本登記濟證交付帳
十二　印鑑簿
十三　印鑑證明書綴込帳
十四　還納受領證綴込帳

第十四條ノ二　前條第一號、第二號、第四號乃至第十一號、第十三號及ヒ第十四號ノ帳簿ハ一个年毎ニ別冊ト爲スヘシ

第十五條中「囑托書」ノ下ニ「通知書」ヲ加フ

第十六條ノ二　共同擔保目錄ノ表紙ニハ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ番號ヲ附スヘシ

第十六條ノ三　共同擔保目錄ハ一个年毎ニ其番號ヲ更新シ之ヲ別冊ト爲スヘシ

第十八條　第十四條第五號ノ通知簿ニハ不動產登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十五條ノ三、第七十五條第一項、第百三條ノ二、第百十四條第二項、第百二十六條、第二項第百二十七條ノ二、第百四十九條ノ二第一項、第百五十三條第二項及ヒ本令第六十二條第一項、第六十三條第一項、第六十九條、第六十九條ノ二ノ通知事項、通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第十九條　不動產登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲シタル場合ニ於テハ地方裁判所長ノ許可書ハ第十四條第二號ノ帳簿ニ之ヲ合綴スヘシ

第三十二條ノ二　不動產登記法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動產ノ目錄ハ登記簿及ヒ共同擔保目錄ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動產ノ目錄ハ美濃罫紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三十五條ノ二　登記簿ノ謄本ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外登記簿一用紙ノ全部ヲ謄寫シテ之ヲ作ルヘシ但請求ニ因リ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シテ之ヲ作ルコトヲ得此場合ニ於テハ認證文ニ其旨ヲ附記スヘシ

第三十五條ノ三　前條但書ノ規定ハ登記簿ノ謄本ノ交付ノ申請書ニ共同人名簿又ハ共同擔保目錄ノ謄寫ヲ除ク旨記載アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條ノ二　第一項中「土地臺帳謄本及ヒ」ヲ削リ第二項ヲ左ノ如ク改ム

受附帳、登記立會調書綴込帳及ヒ登記簿謄本綴込帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第三十七條ノ三　共同擔保目錄ハ先取特權、質權又ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第四十三條中「第二號」ヲ削ル

第四十三條ノ二　共同擔保目錄ハ附錄第十號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十三條ノ三　申請人ハ共同擔保目錄ノ表紙ニ不動產共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第四十三條ノ四　共同擔保目錄ニ不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スニハ其表示ノ順序ヲ追ヒテ番號欄ニ番號ヲ附記スヘシ

第四十四條ノ二　不動產登記法第百二十二條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニハ共同擔保目錄ノ番號又ハ登記番號及ヒ順位番號ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四十四條ノ三　不動產登記法第百二條ノ三第一項ノ規定ニ依リ當該官廳カ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ囑託書ニ河川法ノ規定ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

第四十四條ノ四　法人又ハ外國會社ノ代表者カ不動產ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ其法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條ノ五　法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動產所在地ヲ管轄スル登記所ト異ナル場合ト雖モ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ハ一箇ノ申請書ノミニ一通ヲ添附スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第四十四條ノ六　前條ノ規定ハ數箇ノ申請書ニ戶籍吏ノ書面ヲ添附スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條ノ七　不動產登記法第百六條第一號ノ規定ニ依リテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記番號ヲ記載スル外證明書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條ノ八　申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第五十七條ノ二　不動產登記法第百二十四條ノ二ノ規定ニ依ル記載ハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ共同擔保目錄ノ番號ヲモ記載スヘシ

第五十七條ノ三　申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附シタル

場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ其目錄ニ揭ケタル各不動產ニ關スル權利ノ表示ノ上ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、登記番號及ヒ順位番號ヲ記載シ且申請書ニ共同擔保目錄ノ番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ四　不動產登記法第百二十六條ノ二ノ規定ニ依リ共同擔保目錄ニ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニハ第四十三條ノ四ノ規定ニ依ル番號ヲ用ヒテ之ヲ豫備欄ニ記載シ登記官吏捺印シ其變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十七條ノ五　前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ豫備欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第五十七條ノ六　共同擔保目錄用紙中豫備欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其目錄ニ繼續用紙ヲ編綴シ之ニ契印ヲ爲スヘシ

第五十七條ノ七　不動產登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱、許可ノ年月日及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第六十一條ノ二　不動產登記法第百四十九條ノ五ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其事由及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第六十三條ノ二　不動產登記法第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ表示欄ニ登記ヲ爲スニハ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ不動產登記法第二十八條ノ三及ヒ第百三條ノ二ノ規定ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ二　不動產登記法第百四十九條ノ二第一項ノ通知ハ同法第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スヘシ

第六十九條ノ三　不動產登記法第百四十九條ノ二第一項ノ通知ニハ登記ヲ完了シタル事件ノ表示及ヒ事件カ登記所ノ管轄ニ屬セサルコト若クハ登記スヘキモノニ非サルコトヲ記載スヘシ

第七十條　不動產登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第七十五條第一項、第百三條ノ二、第百二十七條ノ二、第百四十九條ノ二第一項、第百五十三條第二項及ヒ本令第六十九條第六十九條ノ二ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條　第二項ヲ左ノ如ク改ム

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫若クハ字又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫若クハ字又ハ其名稱ヲ變更スヘシ

附錄第一號、第二號第五號及ヒ第六號雛形ヲ別記ノ如ク改ム

附　則

第一條　本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ノ謄本ハ從前ノ規定ニ依ル謄本用紙ヲ以テ作成スヘシ

第三條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スル場合ニ於テハ敷地ノ地目及ヒ段別若クハ坪數ハ之ヲ移シ又ハ轉寫スルコトヲ要セス舊登記簿ヨリ從前ノ規定ニ依ル登記簿又ハ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキ亦同シ

第四條　前條ノ規定ハ舊建物登記簿及ヒ從前ノ規定ニ依ル建物登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　不動產登記法施行前ニ登記シタル不動產ニ付キ本令施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ改正登記簿ニ登記ヲ爲スニハ第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條　本令施行前ニ調製シタル土地登記見出帳及ヒ土地分合登記見出帳ハ當分ノ內其儘之ヲ使用スルコトヲ得

第七條　土地臺帳謄本及ヒ土地異動通知書綴込帳ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ廢毀スルコトヲ得

區裁判所出帳所カ前項ノ許可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

司法省令第十八號

○船舶登記取扱手續中左ノ通改正ス

第十一條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、共同擔保目錄、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　謄本抄本交付帳
二　登記證書交付帳
三　申請書囑託書通知書附屬書類綴込帳
四　受領證原符元帳
五　各種通知簿
六　登記立會調書綴込帳
七　決定原本綴込帳
八　登記簿謄本綴込帳
九　船舶登記濟通知簿
十　抗告書類綴込帳
十一　本登記濟證交付帳
十二　印鑑簿
十三　印鑑證明書綴込帳
十四　還納受領證綴込帳

第十一條ノ二　前條第一號乃至第十一號、第十三號及ヒ第十四號ノ帳簿ハ一个年每ニ別冊ト爲スヘシ

第十一條ノ三　共同擔保目錄ハ附錄第七號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第十一條ノ四　申請人ハ共同擔保目錄ノ表紙ニ船舶共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第十四條ノ二　第二項ヲ左ノ如ク改ム

受附帳登記立會調書綴込帳及ヒ登記簿謄本綴込帳ハ

十年間之ヲ保存スヘシ

第十四條ノ三　共同擔保目錄ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第二十條　登記官吏カ地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲シタル場合ニ於テハ其許可書ハ第十一條第三號ノ帳簿ニ之ヲ合綴スヘシ

第二十一條　削除

第二十四條　不動產登記法施行細則第二條第二項、第三項、第四條、第九條、第十條、第十二條、第十三條、第十五條、第十六條ノ二乃至第十八條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第二十九條、第三十二條ノ二、第三十三條、第三十四條、第三十五條ノ二乃至第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十三條ノ四、第四十四條ノ二、第四十四條ノ四乃至第四十四條ノ六、第四十五條、第四十六條、第四十七條第四項、第五十一條乃至第六十條、第六十二條ノ二、第六十三條ノ二、第六十四條乃至第六十七條第八十九條乃至第七十二條、第七十二條乃至第七十六條及ヒ商業登記取扱手續第十三條、第四十六條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

附錄第一號及ヒ第二號雛形ヲ別記ノ如ク改ム

附　則

第一條　本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ノ謄本ハ從前ノ規定ニ依ル謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三條　本令施行前ニ調製シタル船舶登記見出帳ノ分ノ內其儘之ヲ使用スルコトヲ得

第四條　船舶異動通知書綴込帳ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ廢棄スルコトヲ得

區裁判所出帳所カ前項ノ許可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

勅令第二百九十八號

○小學校令中左ノ通改正ス

第三十條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ教育兵事產業衞生慈善等ノ目的ノ爲特別ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第三項及第四項ヲ削ル

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

第四十一條中「府縣免許狀」ヲ「免許狀」ニ改ム

第四十九條第一項中第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號トス第五十六條中「府縣免許狀」ヲ「免許狀」ニ改ム

第六十二條中「市制第六十一條町村制第六十五條」ヲ「市制第八十三條町村制第六十九條」ニ改ム

第六十四條中「市制第百二十四條町村制第百二十八條」ヲ「市制第百七十條町村制第百五十條」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前府縣知事ニ於テ授與シタル免許狀ハ本令ノ免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス明治二十五年勅令第四十

號ニ依リ北海道廳長官ニ於テ授與シタル免許狀ニ付亦同シ

文部令第二一號

○小學校令施行規則中左ノ通リ改正ス

第三條第九項及第十項ヲ左ノ如ク改ム

國語ヲ授クル際ニハ語句文章ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムヘシ

他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習及文字ノ書キ方ニ注意セシメンコトヲ要ス

第十條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

尋常小學校ニ於テハ體操、教練及遊戲ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ

又男兒及女兒ノ別ニ依リ其ノ授クヘキ事項ヲ斟酌スヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ

第十九條第一項本文ヲ左ノ如ク改ム

土地ノ情況ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ左ノ制限內ニ於テ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル時數ヲ增減スルコトヲ得

第二十六條中「府縣知事」ヲ「學校長」ニ改ム

第三十一條第四項ヲ左ノ如ク改ム

特別ノ事情アルトキハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十二條　削除

第三十四條　土地ノ情況ニ依リ小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルコトヲ得

第三十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

土地ノ情況ニ依リ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人又ハ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置クコトヲ得

第四十條　削除

第五十四條第一項中「此ノ場合ニ於テハ五日以內ニ文部大臣ニ報告スルコトヲ要ス」ヲ削リ第二項中「府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ」ヲ削ル

第五十七條中「二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金」ヲ「三月以下ノ禁錮又ハ百圓以內ノ罰金」ニ改ム

第七十七條　削除

第九十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

會長ハ道廳府縣內務部長ヲ以テ之ニ充ツ

第百二條第一項中「府縣判任官」ヲ「道廳府縣判任官」ニ改ム

第百四條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削ル

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第百七條第一項第二號削除

第百九條第一項但書ヲ「但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ」ニ第一項ノ科目中「體操、普通體操及兵式體操」ヲ「體操

體操及教練」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ科目中農業及商業ハ男子ニ限リ裁縫ハ女子ニ限ル

第百十一條第一項但書ヲ「但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ」ニ第一項ノ科目中「體操　體操及教練」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

第百十二條第一項但書ヲ「但シ女子ニ在リテハ體操ハ第百十一條第一項但書ニ準シ其程度ヲ斟酌スヘシ」ニ第一項ノ科目中「體操　普通體操及兵式體操」ヲ體操及教練」ニ改ム

第百十六條　削除

第百十七條中「府縣免許狀」ヲ「免許狀」ニ改ム

第百二十條　免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手數料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

第百二十一條　免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ府縣知事之ヲ公告ス

第百二十二條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ

五　私立小學校ノ教員又ハ外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

六　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第百二十四條　休職ノ期間ハ第百二十二條第一號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第六號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尚三箇月トス但シ第百二十二條第五號後段ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第百七十六條　特別ノ事情アルトキハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第百八十三條中「市長、市參事會」ヲ「市長」ニ改ム

○閣令第四號

官吏恩給法施行規則、官吏遺族扶助法施行規則、軍人恩給法施行規則、明治二十四年閣令第一號及大正二年閣令第二號中「郵便貯金局」ヲ「爲替貯金局」ニ改ム

○文官任用令改正（大正二年七月三十一日勅令第二六一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令左ノ通改正ス

第一條　文官ノ任用ハ親任式ヲ以テ任スル官及特別ノ規程ヲ設クルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依レ

第二條　勅任文官ハ第五條第一項ノ資格ヲ有シ一年以上

上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用ス

第三條　第五條第一項ノ資格ヲ有セス二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得但シ大正二年勅令第二百六十二號第一條ニ揭クル文官ノ職ニ在リタル者ハ此者限ニ在ラス

第四條　陸海軍將官ハ各其ノ部內ノ刺任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條　奏任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　文官高等試驗ニ合格シタル者

二　外交及領事官試驗ニ合格シ二年以上外交官又ハ領事官ノ職ニ在リタル者

三　二年以上判事又ハ檢事ノ職ニ在リタル者

二年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ文部部內ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條　判任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

二　一般ノ專門學校ニ入學スルニ試驗檢定ニ合格シタル者

三　專門學校令ニ依リ法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ二年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者

文官普通試驗ニ合格シタル者

四　文官高等試驗ニ合格シタル者

五　三年以上文官ノ職ニ在リタル者

六　五年以上雇員タル者

七　教官、技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試驗委員、判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ任用分限又ハ官等ノ初敘陞敘ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大正二年七月三十一日勅令第二六二號）

第一條　左ニ揭クル諸官ニハ文官任用令、文官分限令竝高等官官等俸給令第四條及第五條ノ規定ヲ適用セス

內閣書記官長

法制局長官

各省次官（陸軍次官及海軍次官ヲ除ク）

警視總監

貴族院書記官長

衆議院書記官長

內務省警保局長
勅任ノ各省參事官
祕書官
祕書
第二條　敎官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ニハ高等官官等俸給令第四條ノ規定ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第百六十二號明治四十三年勅令第二百八十八號及同年勅令第二百八十九號ハ之ヲ廢止ス

追補

◎府縣制中改正（大正三年三月三一日法律第三五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル府縣制中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

府縣制中左ノ通改正ス

目錄中「第二款　歲入出豫算及決算」ノ次ニ「第五章ノ二　府縣組合」ヲ加フ

第五條中「內務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削リ第三項ヲ左ノ如ク改ム

議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス

第六條中「神官」ノ下ニ「神職」ヲ加ヘ第九項ヲ左ノ如ク改ム

府縣ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人ハ其ノ府縣ニ於テ被選擧權ヲ有セス

第七條第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

府縣會議員中闕員アルトキハ三箇月以內ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

第十二條第九項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ選擧人名簿ヲ調製シ又ハ之ヲ縱覽ニ供スヘシ

同條第十項中「前項名簿」ヲ「前二項ノ名簿」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

府縣郡市町村ノ廢置分合境界變更ノ場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該選擧區區又ハ投票區ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ少クトモ七日前ニ之ヲ告示スヘシ

第十五條　投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得

投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

投票所ハ市町村長ニ於テ選擧ノ日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ヲ適用シ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條　選擧人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ渉リ投票ニ

關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者投票所ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第十八條第三項ヲ左ノ如ク改ム

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經又ハ確定裁決書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ

同條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

投票時間內ニ投票所ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

選擧人名簿調製ノ後選擧人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ仍選擧權ヲ有スルトキハ前住所地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第三十二條第一項若ハ第三十六條ノ選擧又ハ補闕選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條ニ左ノ一號ヲ加フ

六　現ニ府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

第二十九條　府縣會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ其ノ選擧區ニ配當セラレタル議員定數ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條中「選擧ノ效力」ヲ「選擧及當選ノ效力」ニ改ム

第三十一條中「前三項」ヲ「前二項」ニ改メ第四項ヲ削ル

第三十二條中「同年月ナルトキ」ヲ「年齡同シキトキ」ニ改ム

第三十四條中「選擧ノ日ヨリ」ヲ「選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ」ニ改メ「申立ノ有無ニ拘ラス」ノ下ニ「選擧ニ關シテハ」ヲ「報告ヲ受ケタル日ヨリ」ヲ加ヘ第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ場合ニ於テハ府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

第三十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

第三十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十九條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

府縣會議員ニシテ被選擧者ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ除ク外其ノ被選擧權ノ有無ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決議ス

同條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三十四條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ヘ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村其ノ組合ノ管理者ハ之ヲ町村長ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十八條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

前項假議長ノ選擧ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條　議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ府縣會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條中「選擧ヲ行フトキハ」ノ下ニ「本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外」ヲ加ヘ「匿名投票」ヲ「無記名投票」ニ「同年月ナルトキ」ヲ「年齡同シキトキ」ニ改メ「其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス」ヲ削リ第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ場合ニ於テハ第十八條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

第一項ノ選擧ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用ウルコトヲ得

第五十七條ニ左ノ二項ヲ加フ

議員定員ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十八條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第六十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

府縣會ノ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十五條中「八名」ヲ「十名」ニ「六名」ヲ「七名」ニ改ム

第六十六條第三項乃至第五項ヲ左ノ如ク改ム

前二項ノ場合ニ於テハ第十八條第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選擧ノ時ヲ異ニスルトキハ選擧ノ前後ニ依リ選擧同時ナルトキハ得票數ニ依リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ抽籤ニ依ル仍闕員アル場合ニ於テハ臨時補闕選擧ヲ行フヘシ

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ每年之ヲ選擧スヘシ

名譽職參事會員ハ後任者就任ノ前日マテ在任ス府縣會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ

第七十條中「第四十九條」ノ下ニ「第五十一條第三項第五十五條第五十七條第一項」ヲ加フ

第七十四條中「第六十六條第三項」ヲ「第六十六條第四項」ニ改ム

第八十二條中「法律命令」ノ下ニ「若ハ會議規則」ヲ加フ

第八十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第九十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第九十五條乃至第九十七條中「退職給與金」ノ下ニ「死亡給與金」ヲ加フ

第百條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料五圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第百六條中「若ハ使用シ」ヲ「使用シ若ハ占有シ」ニ改メ但書ヲ削ル

第百七條　納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス住所滯在同時ニ府縣ノ內外ニ涉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第百八條　府縣ノ內外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅附加稅所得稅附加稅又ハ鑛產稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ步合ヲ定ム若協議調ハサルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

鑛區又ハ破鑛區カ府縣ノ內外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅又ハ砂鑛區稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第百十六條第三項乃至第六項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收金ノ先取特權ノ順位ハ國ノ徵收金ニ次クモノトス府縣ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ハ其ノ年度經過後五年ヲ以テ完成ス但シ府縣債ニ付テハ國債ノ例ニ依ル

第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百二十六條中「府縣吏員」ヲ「府縣出納吏及府縣吏員ニ改ム

第五章ノ二　府縣組合

第百二十六條ノ二　府縣ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣組合ヲ設クルコトヲ得

府縣組合ハ法人トス

第百二十六條ノ三　府縣組合ノ規約ニハ其ノ名稱組合ヲ組織スル府縣組合ノ共同事務組合會ノ組織事務ノ管理費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

府縣組合ノ事務ハ內務大臣ノ指定シタル府縣知事之ヲ管理ス

第百二十六條ノ四　府縣組合ノ組合府縣數ヲ增減シ共同事務ノ變更ヲ爲シ其ノ他規約ヲ變更セントスルトキ又ハ府縣組合ヲ解カムトスルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ其ノ財產處分ニ付亦同シ

第百二十六條ノ五　前三條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第百二十六條ノ六　公益上必要アル場合ニ於テハ內務大臣ハ關係アル府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ケ若ハ之ヲ解キ組合規約ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第百二十六條ノ七　府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但シ府縣組合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組合事務ヲ管理スル府縣知事之ヲ行フ

第百二十八條　異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百三十三條中左ノ如ク改ム

三　削除
五　削除
七　削除

第百三十四條　府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セントスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十九條ノ二　第四十九條及第七十六條ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監亦之ヲ行フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

名譽職參事會員及其ノ補充員ノ任期ニ關シテハ次ノ總選擧マテ仍從前ノ規定ニ依ル

●不動產登記法施行細則中改正

不動產登記法施行細則中左ノ通改正ス

第四十三條ノ五　質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

●戶籍法（大正三年三月三〇日法律第二六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル戶籍法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戶籍法

第一章　戶籍事務ノ管掌
第二章　戶籍簿
第三章　戶籍ノ記載手續
第四章　屆出
第一節　通則
第二節　出生
第三節　認知
第四節　養子緣組
第五節　養子離緣
第六節　婚姻
第七節　離婚
第八節　親權及ヒ後見
第九節　隱居
第十節　死亡及ヒ失踪
第十一節　家督相續
第十二節　推定家督相續人ノ廢除
第十三節　家督相續人ノ指定
第十四節　入籍、離婚及ヒ復籍拒絕
第十五節　廢家及ヒ絕家
第十六節　分家及ヒ廢絕家再興
第十七節　國籍ノ得喪
第十八節　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵
第十九節　轉籍及ヒ就籍
第五章　戶籍ノ訂正
第六章　抗告
第七章　罰則
附　則

戶籍法

第一章　戶籍事務ノ管掌

第一條　戶籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條　市町村長ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル戶籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス

第三條　戶籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戶籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ屆出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第五條　市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

第六條　市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村市町村長及ヒ市役所竝ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地區、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條　第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戶籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス

第八條　本法ノ規定ニ依リテ納付スル工數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章　戶籍簿

第九條　戶籍ハ市町村ノ區域內ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戶主ヲ本トシテ一戶毎ニ之ヲ編製ス

第十條　戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿トス一ノ市町村內ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム

第十一條　戶籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條　新ニ戶籍ヲ編製シタルトキハ市町村長ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條　戶籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村役場外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第十四條　戶籍簿ヲ閱覽シ又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本

ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第十五條　戸籍簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第十六條　家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條　第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之ヲ準用ス

第三章　戸籍ノ記載手續

第十八條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名

二　戸主ノ本籍

三　戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱

四　家族カ戸主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱

五　戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日

六　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日

七　戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族ト實父母トノ續柄

八　戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其養親竝ニ實父母ノ氏名及ヒ養子ト養親竝ニ實父母トノ續柄

九　戸主ト前戸主及ヒ家族トノ續柄

十　家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其家族トノ續柄

十一　他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スルトキハ其續柄

十二　他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍、原籍ノ戸主ノ氏名及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

十三　後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ氏名、本籍及ヒ其就職竝ニ任務終了ノ年月日

十四　其他戸主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十九條　戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

第一　戸主

第二　戸主ノ直系尊屬

第三　戸主ノ配偶者

第四　戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者

第五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコトヲ要ス

第二十條　戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第二十一條　戸籍ニハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

一　届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名

二　報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報告者又ハ請求者ノ職氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ作製者竝ニ謄本發送者ノ職氏名

四　戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十二條　市町村長カ届書報告書、其他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本籍地ノ市町村長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條　家督相續、家督相續回復其他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付キ届出、申請又ハ請求アリタルトキハ其届出申請又ハ請求及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スルコトヲ要ス

家督相續人カ胎兒ナルトキハ其出生ノ記載ヲ爲スマテハ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ヲ抹消シ家督相續人カ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　復籍拒絶ノ届出アリタルトキハ復籍拒絶者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後新戸籍ヲ編製スルトキハ之ニ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ移記スルコトヲ要ス

復籍ヲ拒絶セラレタル者カ死亡シ其他復籍スルコトナキニ至リタルトキハ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條　家督相續人指定ノ届出アリタルトキハ其指定ヲ爲シタル者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコ

トヲ要ス

第二十六條　離籍又ハ廢家ニ因ル除籍ノ手續ハ離籍セラレタル者ノ一家創立又ハ廢家ヲ爲ス者ノ入籍ノ手續アリタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ籍入ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用キス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日ヲ記載スルニハ壹弐參拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ市町村長之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尚ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二十九條　戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ市町村長ハ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用キ盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條　届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ市町村ヨリ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十二條　前條ノ場合ヲ除ク外他ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十三條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出ヲ受理シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其届書及ヒ前ニ受理シタル届書ニ付キ之ヲ適用ス

第三十四條　前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條　届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ市町村長ニ入籍ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　戸籍ノ記載ニ續ヲ完了シタルトキハ届書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

第三十七條　前條第一項ノ書類ハ一个月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第三十八條　第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若シクハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遲滯ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

但其錯誤又ハ遺漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

第四章　届出

第一節　通則

第四十三條　届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條　日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル届出ハ其寄留地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

所在地ノ市町村長カ届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第四十五條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出アリタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第四十六條　届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　届出事件

二　届出ノ年月日

三　届出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十九條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治産者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　無能力ノ原因

三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第五十條　無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツルコトヲ要ス禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十一條　證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及ヒ本籍ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十二條　届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條　届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條　第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ届書ニ之ヲ準用ス

第五十六條　二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尚ホ一通ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書ニ代フルトコヲ得

第五十七條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其書面ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　届出事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承認ヲ要スルトキハ届書ニ其同意承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但同意承諾又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ署名捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條　届書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第六十條　外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ徒ヒ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　外國ニ在ル日本人カ其國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一箇月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス

大使、公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ一箇月内ニ本籍地ノ市町村長ニ證書ノ謄本ヲ發送スルコトヲ要ス

第六十二條　大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ一箇月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條　届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條　市町村長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコト

ヲ得

第三十九條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　市町村長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ届書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者ヲシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　届出期間經過後ノ届出ト雖モ市町村長ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條　届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ書類ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條　届出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第二節　出生

第六十九條　出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名及ヒ男女ノ別

二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨

三　出生ノ年月日及ヒ場所

四　父母ノ氏名本籍及ヒ職業

五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所

七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條　出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　嫡出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ揭ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一　戸主

第二　同居者

第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四　分娩ヲ介抱シタル者

第七十三條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖モ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第六十九條第二項ニ揭ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使公使又ハ領事ハ一箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十六條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時間内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ申出アリタルトキハ市町村長ハ氏名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品、發見ノ場所、年月日時其他ノ狀況及ヒ氏名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝ニ本籍ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス其調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第七十九條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一箇月内ニ第六十九條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條　第七十八條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　認知

第八十一條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名、男女ノ別、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名竝ニ本籍及ヒ父ノ職業

四　子カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ト子トノ續柄

第八十二條　胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其旨、母ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十三條　父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其届出ハ認知届出ノ効力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付キ父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十四條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添附シ第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　第五十七條第三項ノ規定ハ第八十一條及ヒ第八十二條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第八十八條　緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ緣組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條　配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條　民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ緣組ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ緣組ノ届出ヲ爲ストキハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第九十二條　緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條　緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名及ヒ本籍

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　養子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

五　裁判確定ノ日

第九十四條　第五十七條第三項ノ規定緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第九十五條　離緣ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第九十六條　民法第八百六十六條第二項ノ規定ニ依リテ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離緣ヲ爲ス場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第百條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業

二　父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

四　入夫婚姻又ハ婿養子緣組ナルトキハ其旨

五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ルトキハ其旨

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外實家ノ戸主、養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百一條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ婿養子緣組ノ場

合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條 第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滯ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條 第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節 離婚

第百四條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二 父母ノ氏名及ヒ本籍
三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四 婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五 婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第百五條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六條 第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 親權及ヒ後見

第百七條 父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八條 第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

此場合ニ於テハ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條 後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
三 後見開始ノ原因及ヒ年月日
四 後見人就職ノ年月日

第百十條 後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十一條 遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百十二條 後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 被後見人ノ氏名及ヒ本籍
二 後見終了ノ原因及ヒ年月日

第百十三條 前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十四條 後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節 隱居

第百十五條 隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 隱届者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二 家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄
三 隱居ノ原因

第十節 死亡及ヒ失踪

第百十六條 死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 死亡者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二 死亡ノ年月日時及ヒ場所
三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

第百十七條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス但順序ニ拘ハラス届出ヲ爲スコトヲ得

第一 戸主
第二 同居者
第三 家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第百十八條 死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條 水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條 前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スル

コトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十三條　第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十四條　失踪宣告ノ届出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　失踪者ノ氏名及ヒ本籍

二　民法第三十條ニ定メタル期間滿了ノ日

三　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第十一節　家督相續

第百二十五條　家督相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日

二　前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト戸主トノ續柄

戸主ト爲リタル者カ外國ニ在ル場合ニ於テハ三个月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第百二十六條　選定ニ因ル家督相續人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ選定ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百二十七條　家督相續人カ胎兒ナルトキハ母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ診斷書ヲ添附シ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　家督相續ノ原因及ヒ相續開始ノ年月日

二　家督相續人カ胎兒ナルコト

三　前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第百二十五條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　前條ノ届出ヲ爲シタル後胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母一箇月内ニ醫師又ハ産婆ノ檢案書ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

母カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ分娩ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十九條　家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第百二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十條　第百二十五　及ヒ前三條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二節　推定家督相續人ノ廢除

第百三十一條　推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍

二　廢除ノ原因

三　裁判確定ノ日

第百三十二條　廢除取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍

二　裁判確定ノ日

第十三節　家督相續人ノ指定

第百三十三條　家督相續人指定ノ届書ニハ指定セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十四條　家督相續人指定取消ノ届書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十五條　遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百三十六條　指定家督相續人カ死亡シタルトキハ指定者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第十四節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第百三十七條　民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ家族ト爲ラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二　入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

三　原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第百三十八條　民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ家族ト爲サント欲スル者ハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外入籍スヘキ者ノ氏名及ヒ出生ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條　戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スル時ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツル事ヲ要ス

一　離籍セラルヘキ者ノ氏名

二　離籍ノ原因

第百四十條　離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　離籍者ノ氏名及ヒ本籍

二　離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄

三　離籍ノ原因及ヒ年月日

第百四十一條　戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出

出ツルコトヲ要ス

一　復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名及ヒ本籍

二　復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名

三　復籍拒絶ノ原因

第百四十二條　復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ縁組若クハ婚姻ノ取消又ハ離縁若クハ離婚ノ届書ニ其場所ヲ記載セサリシトキハ一家創立ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　復籍拒絶者又ハ廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二　復籍拒絶ノ原因及ヒ年日日又ハ廢絶ノ年月日

第十五節　廢家及ヒ絶家

第百四十三條　廢家ヲ爲サント欲スル者ハ其者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツル事ヲ要ス但家督相續ニ依リテ戸主ト爲リタル者ニ非サル時ハ其旨ヲ届書ニ記載スル事ヲ要ス

第百四十四條　絶家ノ家族ハ絶家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二　絶家ノ原因及ヒ年月日

第十六節　分家及ヒ廢絶家再興

第百四十五條　分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ事項ヲ

届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　本家ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト分家ノ戸主トノ續柄

二　民法第七百四十三條第二項ノ規定ニ依リ分家ノ家族トナルヘキ者アルトキハ其氏名及出生ノ年月日

三　分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ本籍

第百四十六條　廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二　廢絶家ノ年月日

三　廢絶家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四　再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第十七節　國籍ノ得喪

第百四十七條　外國人カ養子緣組又ハ婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ緣組又ハ婚姻ノ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十八條　外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

認知者カ父ナルトキハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十九條　歸化ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　歸化ヲ爲シタル者ノ原國籍

二　父母ノ氏名及ヒ國籍

三　許可ノ年月日

四　歸化ヲ爲シタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

歸化ヲ爲シタル者ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十條　國籍喪失ノ届出ハ戸主又ハ家督相續人其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　國籍喪失者ノ氏名及ヒ本籍

二　國籍喪失ノ原因及ヒ年月日

三　新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其國籍

第百五十一條　國籍喪失者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其者カ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

國籍喪失者カ日本ノ官職ヲ帶ヒタル者ナルトキハ其官職ヲ失ヒタルコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十二條　國籍回復ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日

二　國籍回復前ニ有セシ國籍

三　許可ノ年月日

四　國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百五十三條　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

氏名變更ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　變更前ノ氏名

二　變更シタル氏名

三　許可ノ年月日

第百五十四條　新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日内ニ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　新舊族稱

二　族稱變更ノ原因

三　辭令又ハ許可ノ年月日

第百五十五條　得ヲ喪キタル者ハ酵合書ノ交附ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ酵合ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十六條　華族又ハ士族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ族稱喪失ノ原因及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十七條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第十九節　轉籍及ヒ就籍

第百五十八條　轉籍セント欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十九條　轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十條　本籍ヲ有セサル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第十八條ニ揭ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十一條　就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十二條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十三條　第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第五章　戸籍ノ訂正

第百六十四條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ存スル市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十五條　届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スル事ヲ得

第百六十六條　前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一箇月内ニ其謄本ヲ添附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六十七條　確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滯ナク戸籍ノ訂正ヲ請求スルコトヲ要ス

第百六十八條　第四十三條、第四十六條乃至第五十條第五十二條乃至第五十九條及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六章　抗告

第百六十九條　戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百七十條　抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲ス抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十一條　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ送付シテ其意見ヲ求ムル事ヲ要ス

第百七十二條　市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第百七十三條　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第百七十四條　裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十五條　抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第七章　罰則

第百七十六條　正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十七條　第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十八條　市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二　戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三　正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ戸籍若クハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ第六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ

五　其他戸籍事件ニ付キ職務ヲ怠リタルトキ

第百七十九條　過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁

判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百八十條　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者亦同シ

附　則

第百八十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八十二條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十三條　本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十四條　舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其効力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スル事ヲ得

司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラス本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百八十五條　舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第百八十六條　身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

○寄留法

（大正三年三月三〇日法律第一四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル寄留法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

寄留法

第一條　九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ハ之ヲ寄留者トス本籍ナキ者本籍分明ナラサル者及日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ場所ニ居住スルモノ亦同シ

寄留ニ關スル事項ハ届出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス

第二條　寄留ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

戸籍法第三條、第五條及第六條ノ規定ハ寄留ニ關スル事務ニ之ヲ準用ス

第三條　寄留ニ關スル届出、届出義務者、届出期間、寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　寄留ニ關スル届出ヲ怠リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス

戸籍法第百七十九條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○裁判所構成法中改正

（大正三年四月一四日法律第三九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル裁判所構成法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第五十七條　判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ定メタル者ヲ除ク外試補トシテ一年六月以上裁判所及檢事局ニ於テ實務ノ修習ヲ爲シ且考試ヲ經ルコトヲ要ス

實務ノ修習及考試ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五十八條　試補ハ成規ノ試驗ニ合格シタル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

前項ノ試驗ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　削除

第六十二條　司法大臣ハ試補ノ行狀其ノ地位ニ適セス又ハ修習ノ成績考試ニ合格スヘキ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ罷免スルコトヲ得

第六十五條第一項中「試驗」ノ下ニ「及考試」ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

第六十七條　判事ハ終身官トシ親任勅任又ハ奏任トス

第六十八條　大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ヲ親補ス控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第七十九條第三項ヲ左ノ如ク改ム

檢事總長ハ勅任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス

檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ勅任檢事又ハ奏任檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

附　則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（本項ノ施行期日ハ大正三年四月一十日勅令第七十二號ヲ以テ本法中、裁判構成法第六十七條、第六十八條及第七十九條ノ改正ニ關スル規定ハ大正三年五月一日ヨリ施行スル旨定メラレタリ）

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ判事檢事又ハ試補タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

○辯護士法中改正

（大正三年四月一四日法律第四〇號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル辯護士法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

辯護士法中左ノ通改正ス

第二條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二　裁判所構成法第五十八條ノ試驗ニ合格シタルコト

第三條　削除

第四條　左ニ掲クル者ハ試驗ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一　判事檢事タル資格ヲ有スル者
第二　法律學ヲ修メタル法學博士

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

○執達吏規則中改正

（大正三年三月三〇日法律第三〇號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル執達吏規則中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

執達吏規則中左ノ通改正ス

第五條　執達吏ハ所屬區裁判所ノ管轄區域内ニ於テ地方裁判所長ノ指定シタル地ニ役場ヲ設クヘシ

第五條ノ二　區裁判所又ハ其出張所ノ所在地ニ執達吏ナキ場合ニ於テハ地方裁判所長ハ其管轄内ノ執達吏ニ役場ノ出張所ノ設置ヲ命シ又ハ裁判所書記ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

裁判所書記カ執達吏ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ掲クル者其他適當ト認ムル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第六條　執達吏ハ其役場ノ所在地ニ住所ヲ定ムヘシ

第十四條　執達吏又ハ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者其職務ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ區裁判所ノ交付シタル證票ヲ携帶スヘシ

第十七條ノ二　第五條ノ二第二項ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（本法施行ノ期日ハ大正三年四月十三日勅令第五十五號ヲ以テ大正三年五月一日ト指定セラレタリ）

○執達吏手數料規則中改正

（大正三年三月三〇日法律第三一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル執達吏手數料規則中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

執達吏手數料規則中左ノ通改正ス

第十八條中「役場」ノ下ニ「又ハ其出張所」ヲ加フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（本法施行ノ期日ハ大正三年三月十三日勅令第五十五號ヲ以テ大正三年五月一日ト指定セラレタリ）

○醫師法中改正

（大正三年四月二日法律第三八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル醫師法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

醫師法中左ノ通改正ス

第十四條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ニ依リ醫術開業前期試驗ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出テ特ニ定メタル醫術開業後期受驗資格名簿ニ登錄スルヲ要ス

受驗資格名簿ニ登錄シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試驗ヲ擧行ス

同條第二項中「前項」ヲ「前三項」ニ改ム

○賣藥法

（大正三年三月三〇日法律第一四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル賣藥法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

賣藥法

第一條　本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者ヲ謂フ

原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ス

第二條　賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名原料品名及其ノ分量、調製ノ方法、用法、用量竝効能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第三條　賣藥營業者二箇所以上ノ營業所ヲ設ケタルトキハ營業所毎ニ所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條　賣藥ニハ毒藥、劇藥及其ノ性狀又ハ配伍ノ結果ニ由リ危害ヲ生スルノ虞アル藥品ヲ使用スルコトヲ得ス但シ毒藥、劇藥ハ其ノ用法、用量ニ依リ行政官廳ニ於テ危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　賣藥ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノハ其ノ所定ノ性狀品質、之ニ記載セサルモノハ第二條第二項ノ見本品ト同樣ノ性狀品質ヲ具備スルヲ要ス

第六條　藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ醫師ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ス

第七條　賣藥免許ハ前條ニ掲クル者ニ限リ之ヲ讓受ケ又ハ相續スルコトヲ得

第八條　賣藥ノ効能ニ關シテハ文書、言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス免許ヲ得タル事項ヲ說明スルノ外之ヲ誇張シテ公示スルトコヲ得ス

第九條　賣藥ニ關スル廣告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セスシテ頒布スル文書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

一　猥褻ニ渉ル記事又ハ圖畫

二　避姙又ハ墮胎ヲ暗示スル記事

三　虚僞誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ効能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムルノ虞アル記事

四　醫治ノ無効ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

第十條　地方長官ハ衞生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ賣藥營業者ニ對シ其ノ免許ヲ得タル事項

ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條　賣藥營業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル處分ニ違反シタル者ニ付地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ當該官吏ヲシテ賣藥ヲ調製シ若ハ販賣スル場所ニ臨檢セシメ又ハ賣藥ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限リ當該官吏ヲシテ賣藥又ハ其ノ原料品ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第十四條　第二條第一項若ハ第五條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反スル賣藥ハ地方長官其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者又ハ所有者ニ於テ衛生上危害ヲ生スル處ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十五條　第二條第一項、第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第三條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條　賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者又ハ賣藥請賣業者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　輸出又ハ移出スル賣藥ニ付テハ第二條乃至第十一條、第十四條及第十五條ノ規定ヲ適用セス其ノ取締上必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ賣藥ヲ調製セムトスル者ハ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

附　則

第二十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　賣藥規則ハ之ヲ廢止ス

他ノ法令中賣藥規則トアルハ本法ヲ指シタルモノト看做ス

第二十三條　從前ノ規定ニ依リ受ケタル賣藥免許ハ之ヲ本法ニ依リ受ケタル賣藥免許ト看做ス

第二十四條　本法公布ノ際現ニ賣藥營業者タル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ拘ヲス賣藥ヲ調製シテ販賣シ又ハ賣藥免許ヲ讓受ケ若ハ相續スルコトヲ得但シ賣藥ヲ輸入若ハ移入シテ販賣スル者又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　本法公布前免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ毒藥、劇藥又ハ藥品營業竝藥品取扱規則ノ指定藥品ヲ含有セサルモノニ付テハ第六條及第七條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條　第三條及第二十條ノ屆出ハ賣藥稅法ヲ適用ニ付テハ之ヲ免許ト看做ス

○豫戒令廢止

（大三年一月二〇日勅令第四號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ豫戒令廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

豫戒令ハ之ヲ廢止ス

○國稅徵收法中改正

（大正三年三月二七日法律第一二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國稅徵收法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

附　則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス

○地租條例中改正

（大正三年三月三〇日法律第一八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租條例中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地租條例中左ノ通改正ス

第一條第一項中「田畑地價百分ノ四箇七」ヲ「田畑地價百分ノ四箇五」ニ改ム

同條第二項中「田畑地價百分ノ三箇四」ヲ「田畑地價百分ノ三箇二」ニ改ム

附　則

本法ハ大正四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○同　上

（大正三年三月三〇日法律第一九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租條例中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地租條例中左ノ通改正ス

第四條第六號中「軌道用地」ヲ「軌道用地、運河用地」ニ第十六條中「埋立」ヲ「埋立テ又ハ干拓シ」ニ改ム

○災害地地租免除法

（大正三年二月一九日法律第一一九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル災害地地租免除法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

災害地地租免除法

第一條　北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除ス

前項ノ申請ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條　地目變換若ハ開墾成功ノ屆出アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ地價ノ配當メ申出アリタル土地ニシテ土地臺帳ニ登錄セラレサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ現地租ニ付前條ノ規定ヲ準用ス但シ耕地整理ノ場合ニ於テ免除スヘキ地租ノ金額ハ配賦スヘキ地價ニ依リ算出シタルモノトス

第三條　被害ノ調査中ハ其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セス

附　則

第五條　本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

第七條　本法ハ本法施行前一年內ニ北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑又ハ第二條ニ該當スル土地ノ地租ニ之ヲ適用ス但シ明治三十四年法律第二十七號又ハ明治三十六年法律第三號ニ依リ地租ノ免除又ハ年賦延納ヲ出願シ不許可ト爲リタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ大正三年五月三十一日限リ被害ノ事實ヲ證明シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス但シ明治三十四年法律第二十七號又ハ明治三十六年法律第三號ニ依ル地租ノ免除又ハ年賦延納ノ出願ハ本法ニ依ル地租ノ免除ノ申請ト看做ス

第八條　明治三十六年法律第三號ニ依リ許可シタル延納年賦金ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス

○同　施　行　方 （大正三年二月二三日大藏省令第五號）

災害地地租免除法施行方左ノ通之ヲ定ム

第一條　災害地地租免除法ニ依リ地租免除ヲ受ケムトスル者ハ收穫皆無ニ歸シタル事由、土地ノ番號、地目、段別及地價ヲ記載シタル書面ヲ以テ所轄稅務署長ニ申請スヘシ但シ段別及他價ニ付テハ各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナシ

第二條　前條ノ申請ヲ爲ストキハ收穫皆無ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ作毛ノ存置ヲ爲スコトヲ要ス但シ所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　災害地地租免除法ニ依リ耕地整理ノ場合ニ於ケル免除スヘキ地租額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　換地ノ全部ニ被害アリタルトキハ現地租額ニ相當スル金額

二　換地ノ一部ニ被害アリタルトキハ其ノ部分ニ相當スル地價ヲ見積リ其ノ見積地價ト換地ノ全部ニ配賦スヘキ地價トノ割合ニ依リ現地租額ニ對シ算出シタル金額

第四條　災害地地租免除法ニ依リ免除スヘキ地租ハ免除處分ノ時期如何ニ拘ラス被害ノ年ノ一年分地租トス

第五條　稅務署長ニ於テ災害地地租免除法ニ依リ地租ノ免除處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ稅務監督局長ニ稟議スヘシ

被害區域カ他ノ稅務監督局管內ニ涉ルトキハ稅務監督局長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ

附　則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

災害地地租免除法第七條第二項ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ第二條ノ規定ヲ適用セス

災害地地租免除法第八條ニ依ル延納年賦金ノ免除ニ付テハ特ニ指令ヲ爲サス

○營業稅法中改正 （大正三年三月三〇日法律第二〇號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法中左ノ通改正ス

第二條中「千圓」ヲ「二千圓」ニ改メ第二項第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　一定ノ製造場ヲ設ケス物品ヲ製造シテ販賣スル者

第三條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第四條中「使役」ヲ「使用」ニ「五百圓」ヲ「千圓」ニ「二人」ヲ「三人」ニ改ム

第五條ノ一中「雇人二人」ヲ「從業者三人」ニ改ム

第五條ノ二中「及輕便鐵道法」ヲ「、輕便鐵道法又ハ軌道條例」ニ改ム

第七條中「職工雇人ヲ通シテ二人」ヲ「從業者三人」ニ改ム

第八條中「五十圓」ヲ「百圓」ニ「千圓」ヲ「二千圓」ニ改ム

第九條及第十條ノ一中「雇人三人」ヲ「從業者四人」ニ改ム

第十條ノ二中「百圓」ヲ「二百圓」ニ改ム

第十二條　營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ每年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣 甲 萬分ノ八　乙 萬分ノ十一 小賣 甲 萬分ノ二十　乙 萬分ノ三十
	建物賃貸價格	千分ノ七十
	從業者	一人每ニ金二圓

銀行業 保險業	資本金額 建物賃貸價格 從業者	千分ノ四、五 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓	
金錢貸付業 物品貸付業	運轉資本金額 建物賃貸價格 從業者	千分ノ六 千分ノ七十 毎ニ金二圓	
製造業 印刷業 出版業 寫眞業	資本金額 建物賃貸價額 從業者ノ內職工勞役者	千分ノ三 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢	
運送業、運河業、棧橋業、船舶碇泊場業、貨物陸揚場業	資本金額 從業者ノ內職工勞役者	千分ノ五 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢	
倉庫業	建物賃貸價格 從業者ノ內職工勞役者	千分ノ八十 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢	
鑛業 道業	收入金額 從業者ノ內職工勞役者	千分ノ二十 一人毎ニ金二圓 一人ニ金毎五十錢	
請負業 貸席業	請負金額 從業者ノ內職工勞役者	千分ノ四 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢	
貸席業 料理店業	建物賃貸價格 從業者	千分ノ百十五 一人毎ニ金二圓	
旅人宿業	建物賃貸價格 從業者	千分ノ百二十 一人毎ニ金二圓	
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	報償金額 從業者	千分ノ七十五 一人毎ニ金二圓	
		千分ノ三十 一人毎ニ金二圓	

物品販賣業中米、麥、豆、石油、肥料、鹽、煙草、薪炭ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ繭、白絹絲、白絹布、棉花、綿、白綿絲、白綿布、白麻絲、白麻布、紙、麥稈眞田、麻眞田、經木眞田、花莚、砂糖、麥粉、燐寸、銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣

上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲、小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣小賣共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス

第十三條　納稅義務アル營業者ハ每年一月三十一日迄ニ營業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ第二十一條ノ期間內ニ在ル營業者及他ノ法令ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル營業者ニ付テモ亦同シ

新ニ開業シタル者ハ其ノ際前項ノ申告ヲ爲スヘシ

第十三條ノ二　納稅義務アル營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ申告スヘシ

第十五條第二項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ內國ト外國トニ渉リ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アルモノニシテ資本ヲ區分セサルモノハ內國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舖其ノ他ノ營業場內國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ內國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス

第十六條中「資本金」ヲ「資本金、運轉資本金」ニ、「資本金額」ヲ「資本金額及運轉資本金額」ニ改メ第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三　從業者ハ前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均ニ依ル但シ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トス

第十七條　製造業ノ資本金額カ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上增加シタルトキハ其ノ增加額ハ二年間之ヲ課稅標準ヨリ控除ス但シ二年繼續シテ資本金額ヲ增加シタル場合ニ於テ前前年ノ資本金額ニ對シ五

分ノ一以上增加シタルトキハ其ノ年ニ限リ前前年ニ對スル增加額ヲ控除ス

第十八條　課稅標準ト爲スヘキ建物賃貸價格ハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地又ハ建物ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ店舖其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ノ前年中ノ平均額ニ依リ之ヲ算定ス

同一區域內ニ在ル土地建物ト雖直接又ハ間接ニ營業ニ使用セサルモノハ賃貸價格ニ計算セス

第十九條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ營業者ヲ除クノ外十五歲未滿ノ者及營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條中「其ノ年五月、十一月」ヲ「第一期ハ其ノ年六月一日ヨリ二十日限第二期ハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限」ニ改ム

第二十六條　課稅標準ハ營業稅調查委員會ノ調查ニ依リ政府之ヲ決定ス

調查委員會閉會後納稅義務アルコトヲ申出テタルトキハ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二　稅務署長ハ每年納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ課稅標準ヲ調查シ其ノ調查書ヲ營業稅調查委員會ニ送付スヘシ

第二十六條ノ三　各稅務署所轄內ニ營業稅調查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄內ニ在ル市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調查委員會ヲ置クコトヲ得

調查委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ增減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條ノ四　調查委員ハ調查委員選擧人之ヲ選擧ス

第二十六條ノ五　調查委員ノ選擧區域ハ調查委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調查委員選擧人ノ選擧區域ハ市町村及北海道沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第二十六條ノ六　選擧區域內ニ於テ營業シ前年營業稅ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調查委員選擧人ヲ選擧シ又ハ調查委員補闕員若ハ調查委員選擧人ニ選擧セラルルコトヲ得但シ左ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　無能力者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者及家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六　第三十四條ノ二ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後

五年ヲ經サル者
營業繼續ノ場合ニ於テハ前ノ營業者ノ爲シタル納税又ハ申告ハ命令ノ定ムル所ニ依リ後ノ營業者ノ納税又ハ申告ト看做ス
營業者カ法人ナル場合ニ於テハ代表者ヲ定メ政府ニ申告スヘシ
調査委員ニ當選シタル者又ハ第一項但書ニ該當スル者ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス
第二十六條ノ七　調査委員選擧人ノ定數ハ其ノ選擧區域內ニ於ケル前年營業税ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス
第二十六條ノ八　調査委員選擧人ノ選擧事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選擧事務ハ税務署長之ヲ執行ス
第二十六條ノ九　税務署長ハ調査委員選擧人ノ選擧期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ
市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選擧期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ
第二十六條ノ十　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル但シ選擧區域ヲ異ニシ各別ニ營業税ヲ納ムルトキハ選擧區域毎ニ一人トシテ計算ス
選擧人ハ自ラ投票所ニ至リ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ但シ前項但書ノ場合ニ於テハ代人ヲシテ投票セシムルコトヲ得
第二十六條ノ十一　選擧ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
第二十六條ノ十二　調査委員選擧人ノ選擧終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ
第二十六條ノ十三　税務署長ハ選擧期日ヲ定メ少クトモ七日以前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選擧ヲ行ハシムヘシ
前項ノ選擧ニ關シテハ第二十六條ノ十及第二十六條ノ十一ノ規定ヲ準用ス但シ投票ニ記載スヘキ被選擧人ノ數ハ調査委員又ハ補闕員ノ定數ノ二分ノ一トシ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トシテ計算ス
第二十六條ノ十四　調査委員及補闕員ノ選擧終了シタルトキハ税務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ
第二十六條ノ十五　一人ニシテ數選擧區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタルトキハ當選シタル者ノ選擇スル所ニ依ル
第二十六條ノ十六　調査委員又ハ補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス
第二十六條ノ十七　調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ其ノ選擧區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ終了スルモノトス

第二十六條ノ十八　調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ
第二十六條ノ十九　調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
第二十六條ノ二十　補闕員ヨリ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
選擧區域ノ變更ニ依リ新ニ選擧セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選擧ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス
第二十六條ノ二十一　調査委員又ハ補闕員ニ選擧セラレタル者第二十六條ノ六第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ其ノ選擧區域內ニ於テ納税義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ
第二十六條ノ二十二　調査委員會ノ開會日數ハ三十日以內トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十六條ノ二十三　調査委員會ハ税務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク
第二十六條ノ二十四　調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ
第二十六條ノ二十五　調査委員會ハ定數ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル
第二十六條ノ二十六　調査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス
第二十六條ノ二十七　五月三十一日迄ニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ課税標準ヲ決定ス
調査委員會開會ノ日ヨリ第二十六條ノ二十二ノ期間以內ニ又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ課税標準調査未濟ノモノニ限リ政府其ノ課税標準ヲ決定ス
第二十六條ノ二十八　政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以內ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ課税標準ヲ決定ス
第二十六條ノ二十九　税務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得
第二十六條ノ三十　調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス
第二十六條ノ三十一　政府ニ於テ課税標準ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ
第二十七條　納税義務者政府ノ通知シタル課税標準ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セス
第二十八條ノ一　前條ノ請求アリタルトキハ審査委員

會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

第二十六條ノ二十八ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第二十八條ノ二　各稅務監督局所轄內ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ組織ス

收稅官吏ヲ以テスヘキ審査員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査員ハ稅務監督局所轄內ノ調査委員之ヲ選擧ス

審査委員ノ選擧及審査委員會ノ會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ十七、第二十六條ノ十八及第二十六條ノ二十ノ規定ハ審査委員ニ之ヲ準用ス

第二十九條中「資本金額」ヲ「資本金額、運轉資本金額」ニ「以上ヲ」ヲ「未滿ニ」ニ「從業者ノ人員屆出人員二分ノ一以下」ヲ「從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員二分ノ一未滿」ニ改ム

第三十條中「翌年一月迄」ヲ削ル

第三十一條中「資本金額」ヲ「資本金額、運轉資本金額」ニ「從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ屆出」ヲ「從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均」ニ改ム

第三十三條中「尋問」ヲ「質問」ニ改ム

第三十四條中「屆出」ヲ「申告」ニ改メ「其ノ脫稅シタル者ハ脫稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス」ヲ削ル

第三十四條ノ二　營業稅ヲ逋脫シタル者ハ脫稅金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第三十四條ノ三　營業稅ノ調査又ハ審査ニ參與シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第三十五條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

附　則

本法ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○相續稅法中改正

（大正三年三月三〇日　法律第二二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル相續稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

相續稅法中左ノ通改正ス

第三條ノ二　家督相續ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ算出シタル課稅價格三千圓以下ナルトキハ一千圓ヲ、五千圓以下ナルトキハ五百圓ヲ控除ス

第六條　課稅價格カ家督相續ニ在リテハ二千圓、遺產相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス但シ第三條ノ二ノ規定ニ依ル金額ヲ控除シタル爲二千圓ニ滿タサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續

課稅價格	稅率
五千圓以下ノ金額	千分ノ五
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ六
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五
二十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ十萬圓毎ニ（百萬圓ニ至テ止ム）	千分ノ五ヲ加フ

遺產相續

課說價格	稅率
千圓以下ノ金額	千分ノ十
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十
二十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ十萬圓毎ニ（百萬圓ニ至テ止ム）	千分ノ五ヲ加フ

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

附　則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

○登錄稅法中改正（大正三年三月三〇日法律第二一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

登錄稅法中左ノ通改正ス

第三條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

四ノ二　委付　船舶價格　千分ノ三

第六條中「債券發行」ヲ「社債」ニ、「債權總金額」ヲ「拂込金額」ニ改メ同條第一項ニ左ノ二號ヲ加フ

十一ノ二　第二回以後ノ社債拂込　每回拂込金額　千分ノ二

十六ノ二　合名會社、合資會社設立ノ取消　每一件　金五圓

第十六條第一項第一號中「廢置分合若ハ境界變更」ヲ「廢置分合又ハ境界變更」ニ改メ「權利ノ取得」ノ下ニ「又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存」ヲ、第二號中「權利ノ取得」ノ下ニ「又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存」ヲ加ヘ、第三號中「又ハ組織變更」ヲ削リ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ（第二項中「前項各號」ヲ「前二項」ニ改ム）

他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ前項第三號ニ依ル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

第十九條第一號乃至第三號中「登記」ヲ「登記又ハ登錄」ニ改ム

第十九條ノ二　登記所カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ

第十九條ノ三　前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ四　前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ五　登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ

第十九條ノ六　當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス

第十九條ノ七　評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク

第十九條ノ八　評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ九　評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○砂糖消費稅法施行規則中改正（大正三年三月一八日勅令第三四號）

朕砂糖消費稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

砂糖消費稅法施行規則中左ノ通改正ス

第九條　砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出ムセトスル者ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別、斤數、移出ノ日、移出先及移出先到達豫定日ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ取締上支障ナシト認ムル場合ニ限リ移出ノ承認ヲ爲スヘシ

前項ノ承認ヲ爲シタル場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第九條ノ二　內地移入糖ハ砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ

第九條ノ三　移入場ノ指定ハ移入場主ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス、前項ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ大藏大臣ニ提出スヘシ

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ移入場主ニ對シ內地移入糖ノ藏置ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムル事ヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ內地移入糖ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ四　內地移入糖ヲ積載シタル船舶移入地ニ到達シタルトキハ船長ハ到達ノ時ヨリ二十四時間內ニ其ノ旨移入地所轄稅務署ニ申告シ且當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出スヘシ

第九條ノ五　移入地ニ到達シタル內地移入糖ハ收稅官吏ノ指揮ニ從ヒ積卸ヲ爲シ移入場ニ庫入スヘシ

第九條ノ六　移入場庫入前內地移入糖ニ付砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依ル原料引取ノ申告ヲ爲シ移入地所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ移入場ニテ庫入ヲ爲サスシテ直ニ之ヲ砂糖、糖水又ハ酒精ノ

製造場ニ引取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移入場ニ
庫入アリタルモノト看做シ引取ノ承認ヲ爲シタルト
キヲ以テ移入場ヨリ引取リタルモノト看做ス
第九條ノ七　內地移入糖ノ移入者ハ當該官廳ノ下付シ
タル移出承認書ノ回付ヲ受ケ置キ內地移入糖ヲ移入
シタルトキ直ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ移入ノ證明
ヲ受クヘシ
第九條ノ八　內地移入糖ヲ船積シタル後移入者ニ於テ
其ノ移入地ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨新移入地
所轄稅務署ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ
第九條ノ九　內地移入糖ヲ船積シタル後移入地到達前
ニ於テ內地移入糖ノ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長
ハ其ノ旨最寄稅務署ニ申告シ當該官廳ノ證明シタル
積載明細書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
前項ニ依リ積換ヲ爲シタルトキハ船長ハ前項積載明
細書ニ準シ更ニ積載明細書ヲ作成シ當該稅務署ニ提
出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ
第九條ノ十　船積シタル內地移入糖災害ニ因リ亡失シ
タルトキハ船長ハ直ニ最寄稅務署ニ其ノ事實ヲ申告
シ證明書ノ下附ヲ受クヘシ
前項ノ證明書又ハ當該官廳ノ下付シタル亡失證明書
ハ第九條ノ四ノ規定ニ依ル積載明細書ノ提出ト同時
ニ移入地所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ
第九條ノ十一　移入場ニ於ケル內地移入糖ノ藏置ニ關
シテハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第九條ノ十二　所轄稅務署ニ於テ必要アリト認ムルト
キハ移入場ニ於ケル藏置期間ヲ指定スルコトヲ得
第十條　製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引
取ラムトスル者ハ引取ノ目的及砂糖消費稅法第三條
ノ種別、斤數ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
第十一條中「第九條條二項」ヲ「第九條第三項」ニ改ム
第十一條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依
リ原料引取ノ承認ヲ請フ者アル場合ニ於テ所轄稅務
署ニ於テ必要ト認ムルトキハ每回ノ引取斤數ヲ制限
スルコトヲ得
第十七條中「糖水製造者、稅關又ハ保稅倉庫」ヲ「糖水
ノ製造者又ハ稅關」ニ改ム
第二十五條ノ二　收稅官吏職務ノ爲內地移入糖ヲ積載
スル船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘ
シ
第二十五條ノ三　收稅官吏ハ內地移入糖ヲ積載スル船
舶ニ就キ內地移入糖又ハ之ニ關スル帳簿書類等ヲ檢
査スルコトヲ得
收稅官吏必要ト認ムルトキハ內地移入糖ニ封印ヲ施
シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得
第二十八條ノ二　本令ニ於テ內地移入糖ト稱スルハ臺
灣ヨリ移出シ內地又ハ樺太ニ移入スル砂糖、糖蜜、糖
水ヲ謂フ
第二十九條中「稅關又ハ保稅倉庫」ヲ「保稅地域」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍召集令

（大正二年一一月四日勅令第二九九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍召集令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍召集令

第一章　總　則

第一條　在鄉軍人及國民兵ノ召集竝在鄉軍人ノ簡閱點呼ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條　召集ヲ分チテ充員召集、臨時召集、國民兵召集、演習召集、敎育召集及補缺召集トス
第三條　召集及簡閱點呼ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外在鄉軍人及國民兵ノ本籍地所管師團長之ヲ掌ル
第四條　將官同相當官ニ對スル召集ノ令達ハ師團長直ニ之ヲ行フ
第五條　戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官ハ時機切迫交通斷絕シテ命ヲ請フコト能ハサルトキハ獨斷ヲ以テ充員召集臨時召集及國民召集ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ該司令官ハ召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス
第六條　召集事務ニ關シ師團長ノ定メタル規程ハ地方長官、憲兵隊長及其ノ所部ノ官吏公吏之ヲ遵行スヘシ
前項ノ規程ニシテ公示ヲ要スルモノニ付テハ明治二十六年勅令第百九十九號第一條乃至第三條ノ規程ヲ準用ス
第七條　師團長ハ定期又ハ臨時ニ地方行政廳ノ召集事務ヲ檢閱シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ檢閱セシムヘシ
地方長官憲兵司令官及憲兵隊長ハ其ノ所部ノ召集事務ヲ檢閱シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢閱セシムヘシ
第八條　召集及簡閱點呼ハ令狀ニ依リ之ヲ爲ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ傳達ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
召集令狀ニハ召集部隊、到著地及到著日時ヲ指定シ點呼令狀ニハ點呼場及到著日時ヲ指定スヘシ
第九條　應召員令狀又ハ召集ノ傳達ヲ受ケタルトキハ演習召集又ハ敎育召集中ノ者ニ對シ充員召集又ハ臨時召集ヲ令達スルノ方法ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル
第十條　召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ旅費ヲ給ス
事故ニ依リ指定ニ從ヒ應召スヘシ
指定ニ從ヒ應召スルコト能ハサル者ニ付テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル
簡閱點呼ニ參會スル者ニハ旅費ヲ給セス
第十一條　本令中在鄉軍人ト稱スルハ待命休職停職豫備役後備役ノ將校同相當官准士官、豫備役後備役ノ下士兵卒、歸休兵、補充兵及十二月一日以後ニ於テ未タ入營セサル現役兵ヲ謂フ

第十二條　本令中國民兵ニ關スル規定ハ志願ニ依リ國民軍編入ヲ許可セラレタル者ニ之ヲ適用ス

第十三條　本令中應召員ト稱スルハ召集ニ應スヘキ者ヲ謂フ

第十四條　本令中郡市町村ニ關スル規定ハ各左記下欄ノ地ニ之ヲ適用ス

郡	島司ヲ置キタル島嶼（小笠原島ヲ除ク） 島司郡長ニ準スヘキ者ノ管轄區 北海道ニ在リテハ支廳長ノ管轄區
市	區長ヲ以テ戸籍吏ト爲シタル市ニ在リテハ區長 北海道又ハ沖繩縣ニ在リテハ區 小笠原島司 島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル島嶼
町村	島司郡長若ハ之ニ準スヘキ者又ハ北海道廳支廳長ノ管轄區內ニ於ケル町村長ニ準スヘキ者ノ管轄區

第十五條　本令中聯隊區司令官、郡長、市長又ハ町村長ニ關スル規定ハ各左記下欄ノ者ニ之ヲ適用ス

聯隊區司令官	警備隊司令官 警備隊區司令官
郡長	島司（小笠原島司ヲ除ク） 島司郡長ニ準スヘキ者 北海道ニ在リテハ支廳長

市長	區長ヲ以テ戸籍吏ト爲シタル市ニ在リテハ區長 北海道又ハ沖繩縣ニ在リテハ區長 小笠原島司
町村長	島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者 島司郡長若ハ之ニ準スヘキ者又ハ北海道廳支廳長ノ管轄區內ニ於ケル町村長ニ準スヘキ者

第十六條　本令中地方長官ニ關スル規定ハ東京府ニ在リテハ警視總監ニ亦之ヲ適用ス

第十七條　師團長ハ本令ノ一部ヲ實施スルコト能ハサル島嶼ニ付キ適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第十八條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ於テ行フヘキ演習召集、教育召集及簡閱點呼ニ關シテハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二章　充員召集

第一款　通則

第十九條　充員召集トハ動員ニ當リ諸部隊ノ要員ヲ充足スル爲在鄉軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第二十條　充員召集事務ニ關シ職責アル者ハ平時之ニ關スル諸件ヲ遺漏ナク計畫準備シ召集實施ニ當リ支障ナカラシムルコトヲ要ス

第二十一條　地方長官ハ第六條ノ規定ニ依ル場合ノ外充員召集ノ準備又ハ實施ニ關シ師團長ヨリ要求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ又ハ自ラ召集ヲ容易ナラシム

ル措置ヲ爲スヘシ

第二款　充員召集ノ準備

第二十二條　師團長ハ要員ノ配當其ノ他充員召集ノ準備ニ關シ必要ナル事項ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

聯隊區司令官ハ前項ノ達ニ基キ充員召集名簿及充員召集令狀ヲ作リ之ヲ郡市長ニ送付スヘシ

第三款　充員召集ノ實施

第二十三條　充員召集ハ動員令ニ依リ之ヲ實施ス

第二十四條　師團長ハ動員令ヲ聯隊區司令官及師團司令部所在地外ニ在ル衞戍司令官ニ達シ且其ノ要旨ヲ關係アル地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第二十五條　聯隊區司令官動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ關係アル郡市長ニ達スヘシ

第二十六條　師團司令部所在地外ニ在ル衞戍司令官動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ要旨ヲ其ノ地ニ在ル憲兵分隊長又ハ憲兵分遣所長ニ通知スヘシ

第二十七條　憲兵隊長動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ衞戍地外ニ在リテ該動員ニ關係アル憲兵分隊長ニ之ヲ達スヘシ

第二十八條　地方長官動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察署長、警察分署長及區長ヲ以テ戸籍吏ト爲シタル市ノ市長ニ通知スヘシ但シ東京府ニ在リテハ警察署長及警察分署長ヘノ通知ハ警視總監之ヲ爲スヘシ

第二十九條　郡長動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ町村長ニ送付スヘシ

市長動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ應召員ニ交付シ又ハ召集傳達ノ手續ヲ爲スヘシ町村長前項令狀ノ送付ヲ受ケタルトキ亦同シ

第四款　充員召集ノ解除

第三十條　充員召集ノ解除ハ復員令ニ依リ之ヲ實施ス但シ必要アルトキハ復員令ニ依ラス一部ノ召集解除ヲ行フコトヲ得

第三十一條　前條ノ復員令ニ付テハ第二十四條乃至第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　郡長復員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第三章　臨時召集

第三十三條　臨時召集トハ戰時又ハ事變ニ際シ必要アル場合ニ於テ臨時在鄉軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第三十四條　充員召集實施後缺員ヲ補充スル場合ヲ除クノ外臨時召集ヲ實施スヘキ時期ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三十五條　臨時召集事務ニ關シ職責アル者ハ召集實施ニ當リ支障ナカラシムル爲所要ノ準備ヲ整頓シ置クコトヲ要ス

第三十六條　師團長ハ臨時召集ノ命令ヲ聯隊區司令官ニ達シ且其ノ要旨ヲ關係アル地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第三十七條　聯隊區司令官前條ノ達ヲ受ケタルトキハ

直ニ臨時召集令狀ヲ作リ之ヲ關係アル郡市長ニ送付スヘシ

郡長令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ市町村長令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召員ニ交付シ又ハ召集傳達ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十八條　臨時召集ニ關シテハ第二十一條及第三十條乃至第三十二條ノ規定ヲ準用ス

第四章　國民兵召集

第三十九條　國民兵召集トハ戰時又ハ事變ニ際シ國民兵ヲ召集スルヲ謂フ

第四十條　國民兵召集ハ第四十七條ノ場合ヲ除クノ外動員令ニ依リ之ヲ實施ス

第四十一條　師團長ハ要員ノ配當其ノ他國民兵召集ノ準備ニ關シ必要ナル事項ヲ聯隊區司令官ニ達シ且召集スヘキ國民兵ノ種類及年齡ヲ地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十二條　聯隊區司令官ハ前條ノ達ニ基キ國民兵ノ要員ヲ各郡市ニ配當シ且必要ナル事項ヲ郡市長ニ達スヘシ

第四十三條　郡長前條ノ配當及達ヲ受ケタルトキハ各町村ニ對シ其ノ當該國民兵ノ總員ニ比例シテ要員ヲ配當シ且必要ナル事項ヲ町村長ニ達スヘシ

第四十四條　市町村長國民兵要員ノ配當及達ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ應召員ヲ定メテ國民兵召集令狀ヲ作リ之ヲ保管スヘシ

第四十五條　第四十條ノ動員令ニ付テハ第二十四條乃至第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十六條　郡長動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付シ又ハ召集傳達ノ手續ヲ爲スヘシ

市町村長動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ召集令狀ヲ應召員ニ交付シ又ハ召集傳達ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條　動員令ニ依ル國民兵召集實施ノ後缺員ヲ補充スルトキ其ノ他必要アルトキハ臨時ニ國民兵召集ヲ實施ス此ノ場合ニ於テハ第三十四條、第三十六條、第四十二條及第四十三條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ聯隊區司令官ハ召集ノ命令ヲ關係アル郡市長ニ達シ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市町村長ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ應召員ヲ定メテ召集令狀ヲ作リ之ヲ應召員ニ交付シ又ハ召集傳達ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十八條　國民兵召集ニ關シテハ第二十一條、第三十條乃至第三十二條及第三十五條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條　陸軍大臣特別ノ事情ニ因リ必要アリト認ムルトキハ國民兵召集ノ手續ニ關シ臨時第九條ノ規定ト異ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五章　演習召集

第五十條　演習召集トハ徵兵令第十六條、第十七條及陸軍軍人服役令第三條、第十六條ノ規定ニ依リ勤務演習ノ爲在鄉軍人ヲ召集スルヲ謂フ

充員召集ノ演習ヲ爲スノ目的ヲ以テ實施スル演習召集ヲ特ニ臨時演習召集ト謂フ

第五十一條　臨時演習召集ニ關シテハ陸軍大臣ノ設ケタル規定アル場合ヲ除クノ外第二章第三款及第四款ノ規定ヲ準用ス

第五十二條　演習召集ノ召集部隊ハ在鄉軍人本籍地師管內ニ在ル部隊トス但シ其ノ師管內ニ演習ヲ爲スヘキ部隊ナキトキハ他ノ師管內ニ在ル部隊トス

他ノ師管ニ寄留スル者ハ勤務演習ノ爲寄留地師管內ニ在ル部隊ニ之ヲ召集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ召集ハ寄留地所管師團長之ヲ掌ル

一年志願兵終末試驗ニ及第シ豫備役ニ入リタル者ヲ士官ニ任スル爲ニ行フ勤務演習ノ召集部隊及近衛師團ニ召集スヘキ者ニ關シテハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　師團長ハ演習召集ノ期日、人員、部隊及日數ヲ聯隊區司令官ニ達シ且之ヲ關係アル地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第五十四條　聯隊區司令官前條ノ達ヲ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ作リ之ヲ郡市長ニ送付スヘシ

郡長令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ市町村長令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召員ニ交付シ又ハ召集傳達ノ手續ヲ爲スヘシ

第六章　教育召集

第五十五條　教育召集トハ教育ノ爲未タ教育セサル補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第五十六條　教育召集ニ關シテハ第五十二條第一項第三項第五十三條及第五十四條ノ規定ヲ準用ス

第七章　補缺召集

第五十七條　補缺召集トハ平時ニ於テ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ臨時歸休兵ヲ召集スルヲ謂フ

第五十八條　補缺召集ハ陸軍大臣ノ命ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ得テ師團長之ヲ行フ

第五十九條　師團長ハ補缺召集ノ期日、人員及部隊ヲ聯隊區司令官ニ達シ且之ヲ關係アル地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第六十條　補缺召集ニ關シテハ第五十四條ノ規定ヲ準用ス

第八章　簡閱點呼

第六十一條　簡閱點呼トハ豫備役後備役ノ下士兵卒、歸休兵及補充兵ヲ參會セシメテ之ヲ點檢查閱スルヲ謂フ

第六十二條　簡閱點呼ハ在鄉軍人本籍地師管ニ於テ之ヲ行フ他ノ師管ニ寄留スル者ノ簡閱點呼ハ寄留地師管ニ於テ之ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ簡閱點呼ハ寄留地所管師團長之ヲ掌ル

第六十三條　陸軍大臣ハ簡閱點呼ノ執行ヲ要セスト認メタル者ニ對シテハ其ノ執行ヲ免除スルコトヲ得

第六十四條　僻陬ノ地ニ於テ簡閱點呼ニ參會スヘキ者僅少ナルトキ其ノ他已ムコトヲ得サル場合ニ在リテハ師團長ハ簡閱點呼ヲ省略スルコトヲ得

第六十五條　師團長ハ簡閲點呼ノ時期ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達シ且部下ノ將校ニ簡閲點呼執行官ヲ命スヘシ

第六十六條　聯隊區司令官前條ノ達ヲ受ケタルトキハ點呼場點呼區域及點呼日割ヲ定メテ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ地方長官、憲兵隊長、簡閲點呼執行官及郡市長ニ通知スヘシ

第六十七條　地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察署長及警察分署長ニ通知スヘシ但シ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ通知スヘシ

郡長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ通知スヘシ

憲兵隊長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第六十八條　聯隊區司令官ハ第六十五條ノ達ニ基キテ點呼令狀ヲ作リ之ヲ郡市長ニ送付シ郡長ハ之ヲ町村長ニ送付シ市町村長ハ簡閲點呼ヲ受クヘキ者ニ該令狀ヲ交付シ又ハ點呼傳達ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十九條　令狀又ハ點呼ノ傳達ヲ受ケタル者ハ指定ニ從ヒ簡閲點呼ヲ受クヘシ

第七十條　郡市町村長ハ簡閲點呼ニ參列シ簡閲點呼執行官ノ要求アルトキハ其ノ事務ヲ補助スヘシ

郡市町村長ハ點呼參會者ニ訓示ヲ與フルコトヲ得

附　則

本令ハ大正二年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス但シ師團長ハ必要ト認ムルトキハ本令ノ一部ニ付キ五月以内仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

陸軍召集條例及明治四十三年勅令第百八十三號ハ之ヲ廢止ス

（參照）明治四十三年三月勅令第百八十三號ハ待命陸軍將校同相當官准士官ノ服役及召集ニ關スル件ナリ

○同　施行細則

（大正二年一月五日陸軍省令第一一號）

陸軍召集令施行細則左ノ通定ム

陸軍召集令施行細則

第一章　總　則

第一條　郡市町村長ハ充員召集、臨時召集及國民兵召集ニ關シ各召集實施業務書ヲ作リ之ニ動員又ハ召集實施ニ當リ各業務擔當者ノ行フヘキ業務ヲ記入スヘシ

前項ノ業務書ハ業務擔當ノ區分毎ニ別冊ト爲シ各業務擔當者カ動員若ハ召集實施ニ當リ他ノ條規表面等ヲ參照セサルモ其ノ業務ヲ實施シ得ヘク且業務擔當者ノ臨時交代スルコトアルモ業務ノ實施ニ支障ナキ如ク調製スヘシ

召集實施業務書ニハ召集事務以外ノ動員ニ關スル事務ヲ記入スルコトヲ得

憲兵分隊長同分遣所長、警察署長及同分署長モ亦前各項ニ準シ召集實施業務書ヲ調製スヘシ

第二條　市町村長ハ在鄉軍人名簿第一樣式及第一國民兵名簿第一樣式ニ準ス

第三條　召集擔任ノ官吏公吏ニ於テ召集ニ關シ保管スル諸名簿及諸表ハ其ノ異動ヲ知リタル毎ニ直ニ訂正シ諸官衙公署ニ關係アルモノハ其ノ異動ヲ該官衙公署ニ報告又ハ通報スヘシ

充員召集、臨時召集及國民兵召集ニ當リ使用スル爲準備セル各種用紙及簿表ニハ平時ニ於テ記入シ得ヘキ不動ノ文字ハ悉ク記入シ置キ且使用ノ目的及記入ノ方法ヲ詳記セル凡例ヲ添付シ置クヲ要ス

第四條　動員令ノ通達ニハ至急官報ノ電信、使丁等確實迅速ノ方法ヲ用フルモノトス但シ電話ヲ以テ豫報スルコトヲ得

動員令ヲ通達スル爲發スル電報第二樣式ハ之ヲ第一種及第二種ニ分チ聯隊區司令官ヨリ郡市長ニ發スルモノ及國民兵召集ニ於テ郡長ヨリ町村長ニ發スルモノヲ第一種ト爲シ其ノ他ノモノヲ第二種ト爲ス

動員令ヲ使丁ヲ以テ傳達スルトキ第三樣式ノ行進速度ハ一時間一里ヲ以テ基準トス

電話ヲ以テ動員令ヲ豫報シタルトキト雖電信又ハ使丁ニ依ル通達ヲ遲延スルコトヲ得ス

陸軍召集令第二十八條ノ規定ニ依ル動員令ノ通知ハ迅速ト確實トヲ害セサル限リ電話ノミヲ以テスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送話者竝受話者ハ送受話ノ全文、通話者相互ノ氏名及通話ヲ終リタル日時ヲ筆記シ置クヲ要ス

簿第一樣式ニ準ス

第四條　動員令ノ通達スル爲發スル電報第二樣式ハ之ヲ第一種及第二種ニ分チ聯隊區司令官ヨリ郡市長ニ發スルモノ及國民兵召集ニ於テ郡長ヨリ町村長ニ發スルモノヲ第一種ト爲シ其ノ他ノモノヲ第二種ト爲ス

動員令ヲ使丁ヲ以テ傳達スルトキ第三樣式ノ行進速度ハ一時間一里ヲ以テ基準トス

電話ヲ以テ動員令ヲ豫報シタルトキト雖電信又ハ使丁ニ依ル通達ヲ遲延スルコトヲ得ス

陸軍召集令第二十八條ノ規定ニ依ル動員令ノ通知ハ迅速ト確實トヲ害セサル限リ電話ノミヲ以テスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送話者竝受話者ハ送受話ノ全文、通話者相互ノ氏名及通話ヲ終リタル日時ヲ筆記シ置クヲ要ス

師團長ヨリ師團司令部所在地外ノ聯隊區司令官ニ動員令ヲ傳達スルニ當リテハ衞戍司令官アル地ニ在リテハ該官ヲ經由スルモノトス又憲兵分隊長、同分遣所長ニ對スル動員令ノ通達ニ關シ規定ナキモノニ付テハ師團長之ヲ定ムヘシ

第五條　郡市長聯隊區司令官ヨリ電信ヲ以テ動員令ヲ達セラレタルトキ及國民兵動員ニ於テ町村長郡長ヨリ電信ヲ以テ動員令ヲ達セラレタルトキハ直ニ其ノ電報ノ全文ヲ前條第一種電報ノ樣式ニ依リ返電スヘシ其ノ他ノ者別ニ規定アルニシテ電信又ハ電話ヲ以テ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ全文ヲ文書ヲ以テ返報スヘシ

第六條　充員召集令狀及臨時召集令狀ヲ郡長ヨリ町村長ニ送付シ同令狀及國民兵召集令狀ヲ市町村長ヨリ各人ニ交付スルニハ使丁ヲ用フルモノトス其ノ行進速度ノ基準ハ第四條第三項ニ同シ

第七條　充員召集、臨時召集及國民兵召集ノ實施ニ當リ其ノ事務ニ係ル文書令狀ヲ除ク發送スルニハ動員用封筒第四樣式ヲ用フヘシ其ノ文書ヲ受領シタル者ハ封筒上ニ設ケタル位置ニ受領日時ヲ記入シ記名捺印ノ上返付スヘシ

令狀ヲ市町村長ヨリ各人ニ交付スルニハ總テ封筒ヲ用ヒサルモノトス

郡長令狀ヲ町村長ニ送付スルニ當リテハ令狀送付證第五樣式ヲ添附スシ

第八條　市町村長ハ其ノ所管外ニ在郷軍人又ハ國民兵ノ轉籍シタル者アルトキハ在郷軍人ニ在リテハ本人ニ關スル在郷軍人名簿調製上必要ナル事項ヲ又第二國民兵ニ在リテハ單ニ該兵役ニ在ル旨ヲ轉籍地市町村長ニ通知シ第一國民兵ニ在リテハ其ノ戰時名簿ヲ送付スヘシ

第九條　聯隊區司令官ハ演習召集、教育召集、補缺召集及簡閱點呼ノ令狀交付濟ノ者ニシテ召集又ハ簡閱點呼期日以前ニ所管外ニ轉籍シタル者アルトキハ其ノ旨ヲ轉籍地所管聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第十條　應召員ノ到著スル地ニ召集事務所ヲ設ク

第十一條　憲兵分隊長、同分遣所長、警察署長及同分署長ハ各種召集ノ實施及解除竝簡閱點呼ノ執行ニ際シ違令者ナカラシムル爲相當ノ處置ヲ爲シ必要アルトキハ其ノ狀況ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第十二條　應召員ノ差出スヘキ屆書ニ添附スル醫師ノ診斷書ニハ病名、原因、經過、現症、豫後療法ヲ詳記シ自己ノ傷痍疾病ニ係ル診斷書ニ在リテハ特ニ到著地ニ到ルコト能ハザル理由ヲ明カナラシムルヲ要ス

第十三條　師團長、地方長官、憲兵司令長官及憲兵隊長陸軍召集令第七條ノ檢閱ヲ爲シタルトキ及爲サシメタルトキハ其ノ狀況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ憲兵隊長ノ報告ハ憲兵司令官ヲ經由スヘシ

地方長官及憲兵隊長ハ前項ノ報告ト同時ニ其ノ地所管ノ師團長ニ之ヲ通報スヘシ

第十四條　師團長召集事務ニ關シ規程ヲ定メタルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘス其ノ規程ヲ公示シタルトキ亦同シ

第十五條　本則中何日迄ニ、何日何內ニ又ハ前何日ニ達、通知送付、差出、報告スヘシトアルハ到達ノ期日ヲ謂フ

第十六條　陸軍召集令中第十一條乃至第十七條ノ規定ハ本則ニ亦之ヲ準用ス

本則中召集通報入ト稱スルハ應召員寄留旅行等ノ爲不在ナルトキ之ニ召集其ノ他軍衙ノ命ヲ傳達スヘキ者タルコトヲ聯隊區司令官ニ屆出テタル者ヲ謂フ

第二章　充員召集

第一款　充員召集ノ準備

第十七條　聯隊區司令官ハ充員召令名簿及令狀ヲ郡市長ニ送付シタル後該名簿及令狀ニ異動アルトキハ其ノ都度之ヲ通知シ異動ニ伴ヒ必要ナル令狀ヲ送付スヘシ

第十八條　郡市長聯隊區司令官ヨリ充員召集名簿及充員召集令狀（樣式第六）ヲ受ケタルトキハ令狀ヲ充員召集名簿ニ照校シ市長ニ在リテハ更ニ之ヲ在鄉軍人名簿ニ照校シ動員ノ區分ニ從ヒ（郡長ニ在リテハ先ツ動員ノ區分ニ分チ更ニ之ヲ町村每ニ區分シ）各別ニ袋ニ納レ保管スヘシ

第十九條　郡市長聯隊區司令官ヨリ充員召集名簿異動ノ通知及其ノ異動ニ伴フ令狀ヲ受ケタルトキハ（市長ニ在リテハ先ツ令狀ヲ在鄉軍人名簿ニ照校シタル後）充員召集名簿ヲ訂正シ令狀ハ前條ノ例ニ依リ保管スヘシ

前項ニ依リ訂正ノ結果不要トナリタル令狀アルトキハ之ヲ聯隊區司令官ニ返付スヘシ

第二十條　郡市長在鄉軍人ノ死亡其ノ他異動ノ屆書又ハ報告ヲ受ケタルトキハ充員召集名簿及充員召集令狀ヲ訂正シ其ノ屆書又ハ報告ハ之ヲ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

前項異動ノ結果不要トナリタル令狀ハ屆書又ハ報告ニ添ヘ聯隊區司令官ニ返付スヘシ

市長ハ在鄉軍人ニシテ本籍地外ニ寄留又ハ旅行中ノ者アルトキハ召集通報人ノ住所氏名ヲ記シタル紙片ヲ充員召集令狀ニ貼附シ置キ復歸シタルトキ之ヲ除去スヘシ

第二十一條　郡市長ハ演習召集、教育召集中ノ者及短期在營ノ現役兵ニシテ入營中ノ者ノ充員召集令狀ニ其ノ召集又ハ入營期間靑色紙（解除又ハ退營期日ヲ記入ス）ヲ符箋シ置クヘシ

第二十二條　地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ師團長ノ通知ニ基キ必要ナル事項ヲ警察署長及同分署長ニ指示シテ召集（集中）務所其ノ他必要ナル地ニ警察官吏ヲ派遣スルノ準備ヲ爲サシムヘシ但シ憲兵ノ配置アル地方ニ在リテハ警察官吏ヲシテ豫メ之ト協議セシムヘシ

第二十三條　憲兵隊長ハ師團長ノ通知ニ基キ必要ナル事項ヲ憲兵分隊長ニ指示シテ召集事務所其ノ他必要ナル地ニ部下憲兵ヲ派遣スルノ準備ヲ爲サシムヘシ但シ召集部隊所在地ニ在リテハ該部隊長ト協議セシムヘシ

第二款　充員召集ノ實施

第二十四條　郡市長動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ニ該當スル充員召集令狀欄外記載ノ到著日次ヲ動員令ニ示ス動員第一日ヨリ起算シテ實際ノ曆日ニ換算シ之ヲ令狀表面到著日時ヲ記入スヘキ空位ニ記入シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ郡長ハ之ヲ町村長ニ送付シ市長ハ第二十五條ノ規定ニ準シ之ヲ各人ニ交付スヘシ但シ第二十一條ノ規定ニ依リ靑色紙ヲ符箋シアル令狀ハ交付セサルモノトス

滊車滊船ニ乘ルヘキ日時ヲ記入スヘキ令狀ニハ聯隊區司令官ノ通知ニ基キ之ヲ記入スルモノトス

第二十五條　町村長郡長ヨリ令狀ヲ受ケタルトキハ在鄉軍人名簿ニ照校シ鐵道乘車證明書ヲ添ヘ直ニ之ヲ應召員ニ交付スヘシ

町村長ハ應召員不在ノ爲之ニ令狀ヲ交付スルコト能ハサルトキハ召集通報人ニ交付シ召集通報人ヲ設ケサル不在者アルトキ又ハ召集通報人不在ナルトキハ其ノ戶主又ハ家族中家事ヲ擔當スル者ニ交付スヘシ町村長ハ應召員又ハ前項ノ受領人不在ナルトキハ適當ノ方法ニ依リ應召員ニ令狀ヲ交付シ又ハ召集ノ旨ヲ傳達スヘシ

第二十六條　令狀ノ交付ヲ受ケタル者ハ該令狀ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印（應召員ニ代リ受領シタル者ハ記名捺印）シ直ニ之ヲ返付スヘシ

第二十七條　應召員ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ハ直ニ確實迅速ナル方法ヲ以テ召集部隊、到著地及到著日時ヲ本人ニ通報（到著遲延ノ虞アル場合其ノ他必要ナル場合ニ於テハ電信ヲ以テ）シ其ノ令狀ヲ速ニ交付スルノ處置ヲ爲スヘシ

第二十八條　應召員令狀又ハ召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ令狀ヲ携ヘ指定ノ日時ニ到著地ニ到リ召集事務所ニ届出ツヘシ但シ通報ヲ受ケタル者ニシテ令狀ノ交付ヲ受クル爲到著遲延ノ虞アル場合ニ於テハ令狀ヲ携フルヲ要セス

令狀又ハ召集ノ通報ヲ受ケタル日時ノ關係上指定ノ日時ニ到著地ニ到ルコト能ハサル者ハ所在地ノ憲兵又ハ警察官吏ニ就キ令狀又ハ通報ヲ受ケタル日時及出發日時ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ集合場ニ到著スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到ルヘシ

第二十九條　應召員中令狀又ハ召集ノ通報ヲ受領セル際傷痍疾病ノ爲到著地ニ到ルコト能ハサル者ハ聯隊區司令官ニ宛テタル届書ニ令狀及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ令狀又ハ通報受領後二十四時間以内ニ之ヲ本籍地市町村長ニ差出スヘシ

應召員中傳染病豫防ノ爲交通遮斷隔離又ハ停留ヲ命セラレ到着地ニ到ルコト能ハサル者ハ聯隊區司令官ニ宛テタル届書ニ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書及令狀ヲ添ヘ令狀又ハ通報受領後二十四時間以内ニ之ヲ本籍地市町村長ニ差出スヘシ令狀又ハ通報受領後出發迄ノ間ニ於テ前二項ノ事故ノ爲到著地ニ到ルコト能ハサルニ至リタル者ハ直ニ前二項ノ手續ヲ爲スヘシ

前三項ノ場合ニ於テ寄留地又ハ旅行先ヨリ届出ヲ爲ス者ハ其ノ届書ニ第一項ノ診斷書又ハ第二項ノ證明書及令狀ヲ添ヘ直ニ本籍地市町村長ニ宛テ發送スヘシ

犯罪又ハ所在不明等ノ爲到著地ニ到ルコト能ハサル者アルトキハ令狀ヲ受領シタル者ヨリ聯隊區司令官ニ宛テタル届書ニ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書及令狀ヲ添ヘ令狀受領後二十四時間以内ニ本籍地市町村長ニ差出スヘシ

第一項乃至第四項ノ手續ヲ爲スニ當リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ其ノ令狀ヲ差出スヘシ

第三十條　前條ノ場合ニ於テ到著地ニ到ルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地市町村長ニ届出ツヘシ

第三十一條　應召員途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ到著遲延ノ虞アルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ召集部隊長ニ届出テ出發シ得ルニ至レハ速ニ到著ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

傷痍疾病ノ外已ムコトヲ得サル事故ニ因リ到著遲延ノ虞アルトキハ其ノ地ノ郡市町村長、憲兵、警察官吏、船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到著ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前二項ノ場合ニ於テ集合場ニ到著スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到ルヘシ

第三十二條　應召員非常事變ニ因リ交通斷絶シタル爲到著地ニ到ルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ最寄部隊（部隊ナキ地ニ在リテハ郡市町村長憲兵又ハ警察官吏）ニ届出ツヘシ

第三十三條　前條ノ届出ヲ受ケタル者ハ適宜ノ處置ヲ爲シ本人ヲシテ到着地ニ到著セシメ得ルニ至レハ證明書ヲ與ヘ出發セシムヘシ但シ集合場ニ到著スヘキ者ニ在リテハ直ニ召集部隊ニ到著セシムヘシ

第三十四條　令狀（交付スルコト能ハサル令狀ヲ除ク）ノ交付ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ發送及交付ヲ終リタル月日時及交付人員ヲ市長ハ聯隊區司令官ニ通知シ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

市町村長ハ令狀ノ受領證ニ依リ令狀ヲ交付シタル者ノ人名住所及召集部隊ヲ速ニ憲兵及警察官吏（憲兵ノ無キ地ニ在リテハ警察官吏ノミ以下同シ）ニ通知スヘシ

全家所在不明等ノ爲令狀ヲ交付スルコト能ハサル者アリタルトキハ其ノ人名住所及事由ヲ市長ハ聯隊區司令官、憲兵及警察官吏ニ通知シ町村長ハ郡長ニ報告シ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ手續ヲ終リタル後令狀ヲ交付シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前項ニ準シ報告及通知スヘシ

第三十五條　市町村長傷痍疾病、傳染病豫防、犯罪、所在不明等ノ爲到著地ニ到ルコト能ハサル者ノ届書及令狀ヲ受ケタルトキハ調査ノ上毎日之ヲ取纏メ市長ハ聯隊區司令長官ニ送付シ町村長ハ郡長ニ差出シ又其ノ人名住所及事由ハ之ヲ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第三十六條　事故ノ爲到著地ニ到ルコト能ハサリシ應召員ヨリ事故止ミタル旨ノ届出アリタルトキハ直ニ市長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ通知シ長町村ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十七條　全家所在不明等ノ爲交付スルコト能ハサル令狀アルトキハ市長ハ召集期日後十四日目以内ニ之ヲ聯隊區司令官ニ送付シ町村長ハ召集期日後七日以内ニ之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第三十八條　市町村長ハ令狀ノ受領證ヲ編綴シ召集期日後六月間保存ノ上之ヲ燒却スヘシ

第三十九條　郡長第三十四條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ受ケタルトキハ令狀ノ發送ヲ終リタル月日時及交付人員竝各町村中令狀ノ交付ヲ終リタル最終ノ月日時ヲ直ニ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四十條　郡長第三十四條第三項第四項及第三十五條ノ規定ニ依ル報告、届書及令狀ヲ受ケタルトキハ毎日之ヲ取纏メテ聯隊區司令區ニ送付スヘシ

第四十一條　郡長第三十六條ノ規定ニ依ル報告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四十二條　郡長第三十七條ノ規定ニ依ル令狀ヲ受ケタルトキハ召員期日後十四日以內ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第四十三條　郡市長ハ第二十四條第一項但書ニ依リ交付セサル令狀アルトキハ第三十四條第一項又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル通知ト共ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第四十四條　聯隊區司令官ハ應召セサル者ノ中屆書ヲ受ケサル者ノ人名（郡ニ在リテハ町村毎ニ分チ）ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡長ハ前項ノ人名ヲ直ニ町村長ニ達シ且其ノ理由ヲ調査シ速ニ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

市町村長第一項ノ通知又ハ前項ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ人名ヲ直ニ憲兵及警察官吏ニ通知シ且市長ニ在リテハ其ノ理由ヲ調査シ速ニ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四十五條　聯隊區司令官ハ第三十六條又ハ第四十一條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ更ニ令狀ヲ調製シ之ヲ各人ニ交付スヘシ其ノ交付ノ方法ニ關シテハ第三章ノ規定ヲ準用ス

第四十六條　憲兵分隊長、同分遣所長、警察署長及同分署長ハ動員令ノ達又ハ通知ヲ受ケタルトキハ豫定ノ召集事務所其ノ他必要ノ地ニ部下憲兵警察官吏ヲ派遣シ應召員等ノ取締ニ任シ且之ニ所要ノ便宜ヲ與ヘシムヘシ但シ其ノ事務ノ執行ニ關シテハ當該召集部隊長又ハ召集事務取扱者ト協議シ又停車場司令部ノ設ケアル停車場ニ在リテハ該司令官ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

第三款　充員召集ノ解除

第四十七條　地方長官、憲兵隊長及聯隊區司令官復員令ヲ通達スルニハ電信ヲ用ヒス電話、使丁又ハ郵便ニ依ルヲ例トス但シ電話ヲ以テ通達スル場合ニ在リテハ第四條第五項ノ規定ヲ準用ス

第四十八條　復員令ニ依ラスシテ充員召集ヲ解除スヘキ時期ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外陸軍大臣之ヲ定ム

第四十九條　聯隊區司令官ハ召集ヲ解除セラレタル者ノ人名ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

市町村長第一項ノ通知又ハ前項ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ人名及住所ヲ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第五十條　召集ヲ解除セラレタル者ハ其ノ解除セラレタル日ヨリ十四日以內ニ本籍地ニ歸鄉セサルトキハ本籍地市町長ニ於テ召集其ノ他軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者（成年者ニ限ル）ヲ定メ速署ヲ以テ同期日以內ニ本籍地町村長及郡長又ハ市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ツヘシ

前項ニ依リ屆出テタル通報人死亡其ノ他ノ事故ニ依リ變更ヲ要スルトキハ前項ニ準シ通報人ヲ定メ十四日以內ニ屆出ツヘシ

第三章　臨時召集

第五十一條　郡市町村長ハ平時ヨリ臨時召集令狀ヲナルヘク速ニ送付又ハ交付スヘキ準備ヲ整頓シ置キ令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ郡長ニ在リテハ之ヲ町村長ニ送付シ市町村長ニ在リテハ第二十五條ノ規定ニ準シ之ヲ各人ニ交付スヘシ

第五十二條　郡市長充員召集名簿ニ記載シアル者ノ臨時召集令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ充員召集令狀ヲ直ニ聯隊區司令官ニ返付スヘシ

第五十三條　臨時召集ニ關シテハ第二十六條乃至第四十二條第四十四條、第四十五條及第四十七條乃至第五十條ノ規定ヲ準用ス

第四章　國民兵召集

第五十四條　聯隊長司令官ハ第一國民兵役ニ轉入スヘキ者ノ人名書ヲ每年十月三十一日迄ニ郡市長ニ送付スヘシ

第五十五條　郡長前條ノ人名書ヲ受ケタルトキハ十一月十日迄ニ、又第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第五十六條　市町村長第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ヲ受ケタルトキハ之ニ依テ其ノ人名及其ノ他ノ事項ヲ第一國民兵名簿ニ追記シ異動アル每ニ戰時名簿ヲモ訂正スヘシ

第五十七條　郡長國民軍編入ヲ許可シタル指令ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一國民兵名簿ニ追記スヘシ

第五十八條　市町村長國民軍編入ヲ認可シタル指令ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一國民兵名簿ニ追記スヘシ

第五十九條　市町村長ハ國民兵ノ現在員及國民兵役ニ轉入スヘキ者ニ基キ國民兵人員表（第七號樣式）及退役將校名簿（第八號樣式）ヲ作リ市長ハ十二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ町村長ハ十一月三十日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

第六十條　郡長ハ前條ノ規定ニ依ル人員表及名簿ニ基キ其ノ管內ニ在籍スル者ノ國民兵人員表及退役將校名簿ヲ作リ十二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第六十一條　退役將校名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ市長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

郡長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第六十二條　市町村長陸軍召集令第四十二條又ハ第四十三條ノ規定ニ依ル配當及達ヲ受ケタルトキハ國民兵召集令狀（第九號樣式）ト共ニ國民兵召集名簿（第十二號樣式）ヲ調製シ令狀ハ師團長ノ指定ニ從ヒ區分シテ之ヲ保管シ名簿ノ內一通ニ應召員ノ戰時名簿ヲ添ヘ市長ニ在リテハ聯隊區司令官ニ、町村長ニ在リテハ郡長ニ差出スヘシ

前項ノ令狀及名簿調製後國民兵ニ異動アリタルトキハ直ニ令狀ヲ訂正シ且其ノ都度市長ニ在リテハ聯隊區司令官ニ通知シ町村長ニ在リテハ郡長ニ報告スヘシ

第六十三條　郡長前條第一項ノ規定ニ依ル國民兵召集名簿及應召員ノ戰時名簿ヲ受領シタルトキハ直ニ之ヲ聯隊區司令官ニ差出シ同第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ同官ニ通知スヘシ

第六十四條　市長ハ聯隊區司令官町村長ハ郡長ヨリ國民兵動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ通知ニ係ル到著日次ヲ動員令ニ示ス動員第一日ヨリ起算シテ實際ノ曆日ニ換算シ令狀表面到著日時ヲ記入スヘキ空位ニ記入シ第二十五條ノ規定ニ準シ直ニ之ヲ各人ニ交付スヘシ

汽車汽船ニ乘ルヘキ日時ヲ記入スヘキ令狀ニハ聯隊區司令官ノ通知ニ基キ之ヲ記入スルモノトス

第六十五條　動員令ニ依リ實施スヘキ國民兵召集ニ關シテハ第二十二條第二十三條及第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　陸軍召集令第四十七條ノ規定ニ依リ臨時ニ國民兵召集ヲ實施スル場合ニ於テハ市町村長ハ聯隊區司令官又ハ郡長ヨリ達スル召集ノ命令ニ依リ國民兵召集令狀ト共ニ國民兵召集名簿二通ヲ作リ令狀ハ第二十五條ノ規定ニ準シテ直ニ之ヲ各人ニ交付シ該名簿ノ內一通ニ應召員ノ戰時名簿ヲ添ヘ市長ニ在リテハ聯隊區司令官ニ、町村長ニ在リテハ郡長ニ差出シ郡長ハ之ヲ聯隊區司長官ニ差出スヘシ

第六十七條　國民兵召集ニ關シテハ第二十六條乃至第三十六條、第三十八條乃至第四十一條第四十四條及第四十七條乃至第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五章　演習召集、教育召集

第六十八條　師團長ハ演習又ハ教育ノ爲召集スヘキ者ノ兵科部階級及役種年級等ニ關シ必要ナル事項ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

聯隊區司令官ハ前項ニ該當スル者ヲ調査シ其ノ管內ニ本籍ヲ有スル者及寄留ノ者ヲ區別シタル人員（將校同相當官及士官ニ任スル爲ニ行フ勤務演習ニ召集スヘキ者ニ付テハ人名以下同シ）ヲ師團長ニ報告スヘシ

師團長ハ前項ノ報告ニ基キ少クモ召集期日前三十日ニ召集日時、役種、兵科部、階級、人員及部隊ヲ定メ日數ト共ニ之ヲ召集部隊長及聯隊區司令官ニ達スヘシ

第六十九條　師團長其ノ所管ニアラサル聯隊區司令官ニ前條第一項及第三項ノ規定ニ依ル達ヲ爲サムトスルトキハ其ノ所管師團長ニ通知シ所管師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ又聯隊區司令官ノ報告ハ所管師團長ニ差出スヘシ該師團長ハ之ヲ召集部隊所管ノ師團長ニ送付スヘシ爾後ニ於ケル本籍地所管聯隊區司令官ト召集部隊所管師團長間ノ通報等ハ必要ナルモノニ限リ本籍地所管師團長ヲ經由スヘシ

第七十條　師團長ハ其ノ師管內ニ演習又ハ教育ヲ爲スヘキ部隊無キ爲他ノ師管內ノ部隊ニ召集スヘキ者アルトキハ該召集部隊所管ノ師團長ニ協議シテ召集日時等ヲ定メ第六十八條第一項及第三項ノ例ニ依リ聯隊區司令官ニ達シ召集部隊所管ノ師團長ハ之ヲ該部隊長ニ達スヘシ

第七十一條　師團長士官ニ任スル爲ニ行フ勤務演習ニ召集スヘキ者ノ中他ノ師管ニ居住スル者ヲ召集スルニハ召集ノ日時人名及部隊ヲ定メ日數ト共ニ少クモ召集期日前三十五日ニ本人本籍地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

本籍地所管ノ師團長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ但シ本人ノ居住地本籍地師管ナラサルトキハ之ヲ其ノ居住地所管ノ師團長ニ通知シ該師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十二條　聯隊區司令官ハ第六十八條乃至第七十一條ノ規定ニ依ル達ニ基キ演習（教育）召集令狀（第十一樣式ニヲ作リ令狀ハ直ニ二通及演習（教育）召集名簿（第十二樣式）之ヲ郡市長ニ送付シ名簿ハ召集期日前日迄ニ之ヲ召集部隊長ニ送付スヘシ

前項ノ名簿調製後發迄ノ間ニ異動ヲ生シタルトキハ該名簿應否事故ノ區畫ニ記入シ爾後ニ生シタル異動ニシテ必要ナル事項ハ其ノ都度召集部隊長ニ通知スヘシ

第七十三條　師團長ハ召集期日ノ延期又ハ事故ニ因ル應召遲延ノ者ノ最終ノ到著期日ヲ定メテ聯隊區司令官ニ達シ應召員中途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ到著遲延ノ者アリタルトキ之ニ歸鄉ヲ命スヘキ期日ヲ定メテ召集部隊長ニ達スヘシ

第七十四條　師團長及聯隊區司令官ハ到著期日ノ延期ヲ許可スルニ當リ其ノ期ノ召集ニ應セシメサル者ノ指令ニハ令狀ヲ市町村長ニ返付スヘキコトヲ附記スヘシ

第七十五條　寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ヲ召集セムトスルトキハ召集ノ期日日數及部隊ヲ寄留地所管ノ聯隊區司令官ヨリ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

聯隊區司令官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ將校同相當官ニ關スル事項ニ限リ師團長ニ之ヲ報告スヘシ

第七十六條　應召員中傷痍疾病、犯罪、所在不明等ノ爲到著地ニ到ルヿ能ハサル者ハ應召員又ハ之ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ聯隊區司令官ニ宛テタル屆書及令狀ヲ令狀又ハ召集ノ通報ヲ受領シタル日ヨリ七日以內ニ（其ノ日以後ニ事故發生シタルトキハ直ニ又令狀若ハ通報受領後七日以內ニ應召スヘキ者ハ到著日時迄ニ本籍地市町村長寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ者ハ寄留地市町村長但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ、犯罪、所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添附スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スニ當リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第七十七條　前條ノ場合ニ於テ到著地ニ到ルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地市町村長（寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ寄留地市町村長）ニ屆出ツヘシ

第七十八條　應召員中父母妻子ノ疾病危篤又ハ死亡ノ

爲到著期日ノ延期ヲ出願セムトスル者ハ上長官以上ニ在リテハ師團長其ノ他ニ在リテハ聯隊區司令官ニ宛テタル願書ヲ市町村長ニ差出スヘシ但シ父母妻子ノ疾病危篤ニ係ルトキハ市町村長又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添附スヘシ

寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ前項ノ願書ハ寄留地所管師團長又ハ同聯隊區司令官ニ宛テ寄留地市町村長ニ差出スヘシ

到著期日ノ延期ヲ出願シタル後ト雖別ニ指令ナケレハ指定ノ日時ニ應召スヘシ

第七十九條　聯隊區司令官郡市長ヨリ第七十七條ノ規定ニ依ル届出ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ第七十三條ノ規定ニ依ル最終到著期日以内ニ到著セシメ得ル者ニ在リテハ更ニ令狀ヲ作リ之ヲ本人ニ交付スヘシ其ノ交付ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス

第八十條　第七十八條ノ規定ニ依ル願書ヲ受ケタルトキハ市長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ送付シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出スヘシ

郡長前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ヲ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第八十一條　召集部隊長ハ召集期日ニ至レハ召集事務所ヲ開設シ應召員到著シタルトキハ直ニ身體檢査ヲ行ヒ召集名簿ニ應召不應召其ノ他ノ事故ヲ記入シ其ノ一通ヲ召集期日後三日以内ニ聯隊區司令官ニ宛テ發送スヘシ

傷痍疾病ニ因リ演習又ハ教育ニ堪ヘサル者ニハ歸鄉ヲ命シ現役ニ堪ヘサル者、現役豫備役及後備役ニ堪ヘサル者、豫備役及後備役ニ堪ヘサル者、補充兵役ニ堪ヘサル者、又ハ永久服役ニ堪ヘサル者ニ在リテハ召集期日後三日以内ニ其ノ診斷書ヲ聯隊區司令官ニ宛テ發送スヘシ

召集期日後到著シタル者ノ取扱ニ關シテハ前二項ノ規定ニ準ス但シ名簿發送後ナルトキハ直ニ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十二條　召集部隊長ハ應召員中途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ第七十三條ノ規定ニ依リ師團長ヨリ達セラレタル期日以内ニ到著スルコト能ハサル者アリタルトキハ之ニ歸鄉ヲ命シ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十三條　聯隊區司令官召集名簿中ニ他ノ聯隊區（豫備ヲ含ム以下同シ）ニ本籍ヲ有スル者アリタルトキハ第八十一條及第八十二條ノ規定ニ依ル通知ニ基キ其ノ應召不應召ヲ直ニ其ノ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

本籍地所管ノ聯隊區司令官ハ應召シタル者ノ人名召集期日日數及召集部隊ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第八十四條　聯隊區司令官ハ應召員中事故ニ因リ歸鄉ヲ命セラレタル者ノ人名及事由竝應召セサル者ノ中其ノ届書ヲ受ケサル者ノ人名ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第八十五條　郡市長前條ノ規定ニ依ル通知ニ基キ其ノ應召不應召ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

トキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市長ハ其ノ應召セサル者ノ中届書ヲ受ケサル者ノ人名ヲ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

前項應召セサル者ノ中届書ヲ受ケサル者ニ在リテハ郡市長其ノ理由ヲ調査シ速ニ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十六條　町村長前條ノ規定ニ依ル達ヲ受ケタルトキハ其ノ應召セサル者ノ中届書ヲ受ケサル者ノ人名ヲ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第八十七條　召集部隊長ハ召集中ノ者ニ休暇ヲ許可スルニ當リ其ノ休暇中ニ召集ノ解除ヲ爲スヘキ者アルトキハ直ニ召集ヲ解除スヘシ

第八十八條　師團長ハ進級ノ爲又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ召集日數ヲ增加スヘキ者アルトキハ召集部隊長ヲシテ之ヲ本人ニ達セシムヘシ

第八十九條　召集部隊長ハ召集ノ期限滿了シタルトキハ召集ヲ解除スヘシ

第九十條　召集部隊長令狀ニ指定セル期日以外ノ期日ニ召集ヲ解除シタルトキハ其ノ人名及事由ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但シ令狀ニ指定スル期日以後ニ召集ヲ解除スル者（令狀指定ノ期日ニ召集ヲ解除スルモ歸鄉セシメサル者ヲ含ム）ニ在リテハ一般ノ解除ニ際シ其ノ人名事由及解除期日ヲ通知シ其ノ召集ヲ解除（召集解除後ノ者ニ歸鄉ヲ命スルヲ含ム）スルトキ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第九十一條　聯隊區司令官ハ召集ヲ解除（召集解除後ノ者ニ歸鄉ヲ命スルヲ含ムセラレタル者アルトキハ其旨（要スレハ事由モ共ニ）ヲ郡市長ニ通知スヘシ但シ他ノ聯隊區ニ本籍ヲ有スル者ニ關シテハ同時ニ之ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知シ本籍地所管ノ聯隊區司令官ハ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第九十二條　聯隊區司令官第九十條但書ノ者ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ例ニ準シ之ヲ通知スヘシ

第九十三條　郡長前二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第九十四條　召集解除又ハ歸鄉ヲ命セラレタル者ニシテ其ノ解除又ハ歸鄉ヲ命セラレタル日ヨリ十四日以内ニ本籍地（寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ該寄留地）ニ歸還セサル者ニハ第五十條ノ規定ヲ準用ス但シ寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ召集通報人ハ寄留地市町村ニ於テ之ヲ定メ寄留地町村長及郡長又ハ市長ヲ經テ寄留地所管聯隊區司令官ニ届出ツルモノトス

第九十五條　演習召集及教育召集ニ關シテハ第二十五條乃至第二十七條第二十八條第一項第二項第三十一條第一項第二項、第三十四條（第二項ヲ除ク）第三十五條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

市長令狀ヲ各人ニ交付スルノ方法ニ付テハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第六章　補缺召集